

仙台市文化財調査報告書第414集

大野田遺跡・元袋遺跡・伊古田遺跡ほか

—仙台市富沢駅周辺土地地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅳ—

2013年3月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第414集

大野田遺跡・元袋遺跡・伊古田遺跡ほか

—仙台市富沢駅周辺土地地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅳ—

2013年3月

仙台市教育委員会

序 文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日頃から多大なご理解とご協力を賜り、まことに感謝にたえませ

ん。
富沢駅周辺地区は仙台市東南部、太白区大野田に広がる田園地帯でありましたが、地下鉄南北線の開業を契機として、道路網の整備や宅地化が急速に進む様相がみられる地域でありました。そのような中で、平成6年度から進められてまいりました富沢駅周辺土地区画整理事業につきましても、関係する遺跡が14遺跡に上り、平成25年度を最終調査年度として、発掘調査を実施してまいりました。

今回刊行いたします発掘調査報告書Ⅳは、平成19年度から平成21年度にかけて実施した7遺跡の調査の成果を中心にまとめたものです。

先人達の残した貴重な文化遺産をこれからの「まちづくり」の中で保護し、保存活用を図りながら市民の宝として永く後世に伝えていくことが、現代に生きる私たちの責務であると考えております。

平成11年度に刊行いたしました発掘調査報告書Ⅰ、同じく23年度に刊行いたしました発掘調査報告書Ⅱ、本年度に刊行いたしました発掘調査報告書Ⅲと共に、ここに報告する調査成果が広く活用され、地域の歴史を解明していくための貴重な資料となり、文化財に対するご理解と保護の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、仙台市では、平成23年3月11日の東日本大震災からの復興に向け、「ともに、前へ仙台 ～3・11からの再生～」を掲げて、復興計画を進めているところです。未曾有の大震災から2年を迎えましたが復興はまだ道半ばといえます。

そうした中、本報告書の刊行にあたりまして、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申し上げます、刊行の序といたします。

平成25年3月

仙台市教育委員会
教育長 青沼 一民

例 言

1. 本書は仙台市教育委員会による「仙台市富沢駅周辺土地地区画整理事業」に伴う、大野田遺跡・元袋遺跡・伊古田遺跡・伊古田B遺跡・皿屋敷遺跡・袋前遺跡・下ノ内遺跡の発掘調査報告書である。区画整理事業に伴う本調査は平成7年4月より開始され、現在（平成25年）も継続中である。本書では平成19年度から平成21年度までの調査成果の一部について報告する。
2. 報告書作成業務は、仙台市教育委員会の委託を受け、国際文化財株式会社が行った。
3. 調査区のグリッド配置は測量基準線の設定にあたり、事業地内の測量基準点（ $X=-198.400\text{km}$ ・ $Y=3.800\text{km}$ ）を原点とし、東西・南北両方向に $10\times 10\text{m}$ グリッドを組んだ。各調査区の測量はこの基準線上に設定した杭をもとに行った。測量杭には原点からの方向と距離を組み合わせた数値を「E100・S100」のように表示した。E100は測量基準点から東に100m、S100は南に100mを意味し、国家座標上では $X=-198.500\text{km}$ ・ $Y=3.900\text{km}$ となる。なお、遺構図上に表示したグリッドの数値も同様の値を示している。
4. 本書の作成及び編集は仙台市教育委員会文化財調査指導係 結城慎一、主濱光明、荒井 格、工藤信一郎、波部 紀、鈴木 隆、水野一夫、庄子裕美の監理のもと、国際文化財株式会社が行った。
5. 本書の執筆は下記のとおりでである。
第1章第1節・第3節・第4節……………主濱光明
第1章第2節・第2章第1節……………工藤 司（国際文化財株式会社）
第2章第2節～第8節……………工藤 司・土橋尚起・渡部裕司（国際文化財株式会社）
第3章……………工藤 司
6. 伊古田B遺跡4A1・4A2・4B2・4C区採取試料の分析・執筆は株式会社古環境研究所に依頼した。
7. 石器・石製品の石材鑑定については東北大学名誉教授蟹澤聰史氏に依頼し、肉眼で鑑定を行った。
8. 調査成果はすでに現地説明会資料、遺跡見学会資料、宮城県遺跡調査成果発表会資料等で一部紹介されているが、本書の記載内容がそれらに優先する。
9. 調査及び報告書作成に関する諸記録、出土遺物等の資料は仙台市教育委員会で一括保管している。

凡 例

1. 本書の土色については「新版標準土色帖」（小山・竹原：1975、1997）を使用した。
2. 国土交通省国土地理院発行の地形図を使用した場合は図中に示した。
3. 図中及び本文中に記載の方位の北は座標北を示している。なお、図中でE・Sを付した座標値は区画整理事業地内に設定された測量基準点（ $X=-198.400\text{km}$ ・ $Y=3.800\text{km}$ ）からの距離（m）を示し、EはY座標値・SはX座標値に対応する。
4. 図版中のレベルは海拔標高を示す。
5. 座標値及び海拔標高については、平成23年3月11日の東日本大震災前のもを使用している。
6. 層位名は基本層位をローマ数字、遺構内堆積土については算用数字を使用し、さらに細分される場合はアルファベットを付した。
7. 図版・表等の番号は大野田遺跡・元袋遺跡・伊古田遺跡・伊古田B遺跡・皿屋敷遺跡・袋前遺跡・下ノ内遺跡の報告毎に付している。
8. 本書の検出遺構については次の略号を使用し、遺跡毎に発見順に番号を付した。
SB=掘立柱建物跡 SD=溝跡 SE=井戸跡 SI=竪穴住居跡・竪穴遺構 SK=土坑
SR=河川跡 SX=性格不明遺構・その他の遺構 P=ピット・柱穴
なお、小溝状遺構群についてはローマ数字と算用数字の組み合わせで示した。

9. 遺構図に使用したスクリーン・トーンは以下の通りである。



柱痕跡



焼土範囲・焼面

10. 本書の出土遺物の分類と登録には次の略記号を使用し、分類毎に登録番号を付した。

A=縄文土器 B=弥生土器 C=土師器（非ロクロ） D=土師器（ロクロ） E=須恵器
G=平瓦 I=陶器・土師質土器 J=磁器 Ka=打製石器 Kb=磨製石器 Kc=礫石器 Kd=石製品
Ke=その他の石器 N=金属製品 P=土製品

11. 遺物観察表において（ ）は復元値を示している。なお、器高の計測は原則として断面とした。
12. 遺構一覧表において（ ）は推定、[]は検出長を示している。
13. 土器の実測図に使用したスクリーン・トーンは、以下のとおりである。これ以外については、その都度図中に示した。



地文部分(縄文土器展開図)



黒色処理

14. 土製品の実測図に使用したスクリーン・トーンは、その都度図中に示した。

15. 石器・石製品の実測図に使用したスクリーン・トーンは以下のとおりである。



節理



マメツ



敲打痕



火ハネ



付着物



被熱による変色



二重パティナ



光沢

16. 石器の分類と登録記号は次ページのとおりである。

石器分類

石器	K	打製石器 Ka	石鏃	有茎	Ka-a1	串石鏃、不定形石器、二次加工のある剥片、微細剥離痕のある剥片。剥片については、石片状の縦長剥片に分類番号の後ろに1（ローマ数字の1）を入れる。		
				平基	Ka-a2			
				凹基	Ka-a3			
				その他	Ka-a4			
				尖頭器	有茎		Ka-b1	
					無茎		Ka-b2	
					その他		Ka-b3	
				石鏟	棒状		Ka-c1	
					つまみ付き		Ka-c2	
					その他		Ka-c3	
				石匙	縦型		Ka-d1, Ka-d11	
					横型		Ka-d2, Ka-d21	
					その他		Ka-d3, Ka-d31	
				不定形石器	削器（石器の側縁に鋭角の対面を持つもの）			Ka-e1, Ka-e11
					掻器（石器の端部に鈍角の対面を持つもの）			Ka-e2, Ka-e21
					鋸歯縁石器（鋸歯状の対面を持つもの）			Ka-e3, Ka-e31
					ノッチ（挟入状の対面を持つもの）			Ka-e4, Ka-e41
					凹形掻器（石器の全周縁に対面を持つもの）			Ka-e5, Ka-e51
					RF（石器の一部に対面加工が見られるもの）			Ka-e6, Ka-e61
					UF（石器の対面に使用痕〔摩滅、光沢〕が見られるもの）			Ka-e7, Ka-e71
				石蔑	片面加工		Ka-f1	
					両面加工		Ka-f2	
				打製石斧			Ka-g	
				楔形石器（両極剥離による二次加工が明確に認められるもの）			Ka-h	
				異形石器			Ka-i	
				二次加工のある剥片（対面加工を目的としていない二次加工）			Ka-j, Ka-j1	
				微細剥離痕のある剥片（微細な剥離痕を有する剥片）			Ka-k, Ka-k1	
				剥片	Ka-l, Ka-l1			
				石核	Ka-m			
				磨製石器 Kb	磨製石斧		Kb-a	
					蛤対石斧		Kb-b	
					石鏟		Kb-c	
					環状石斧		Kb-d	
					磨製石鏃		Kb-e	
					石庖丁		Kb-f	
					礫石器 Kc		磨	Kc-a1
				磨+凹			Kc-a2	
				磨+最			Kc-a3	
				磨+凹+最			Kc-a4	
				凹			Kc-b1	
				凹+最			Kc-b2	
				最			Kc-c	
				砥石	Kc-d			
				石製品 Kd	砥石		Kd-a	
					石棒		Kd-b	
垂飾	Kd-c							
玉類（碧玉・勾玉・小玉）	Kd-d							
石製模造品	Kd-e							
石製紡錘車	Kd-f							
石臼	Kd-g							
容器	Kd-h							
石錘	Kd-i							
石皿	Kd-j							
浮子	Kd-k							
不明	Kd-x							
その他	Ke							

本文目次

序文
例言
凡例

第1章 調査の概要	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 遺跡周辺の環境	1
1. 遺跡の位置と地理的環境	1
2. 遺跡周辺の歴史的環境	1
第3節 調査経過	4
第4節 報告書の作成	4
第2章 本調査報告	6
第1節 富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡の基本層序	6
第2節 大野田遺跡	9
1. 調査要項	9
2. 1区東区の調査 (1) V層検出の遺構と遺物	9
2. 1区東区の調査 (2) 深堀区の調査	12
3. 1区西の調査 (1) IV層検出の遺構と遺物	13
3. 1区西の調査 (2) V層検出の遺構と遺物	19
3. 1区西の調査 (3) 遺構外出土の遺物	24
4. まとめ	25
写真図版	27
第3節 元袋遺跡	33
1. 調査要項	33
2. 3A区の調査 (1) V層検出の遺構と遺物	33
3. 3B区の調査 (1) V層検出の遺構と遺物	34
3. 3B区の調査 (2) 遺構外出土遺物	38
4. まとめ	39
写真図版	41
第4節 伊古田遺跡	45
1. 調査要項	45
2. 3区の調査 (1) III層検出の遺構と遺物	45
2. 3区の調査 (2) IV層検出の遺構と遺物	47
2. 3区の調査 (3) V層検出の遺構と遺物	50
2. 3区の調査 (4) 遺構外出土遺物	56
4. まとめ	57
写真図版	59
第5節 伊古田B遺跡	68
1. 調査要項	68
2. 4A1区の調査 (1) III層検出の遺構と遺物	68
2. 4A1区の調査 (2) IVb層検出の遺構と遺物	70
2. 4A1区の調査 (3) IVc層検出の遺構と遺物	72
2. 4A1区の調査 (4) V層検出の遺構と遺物	72
2. 4A1区の調査 (5) 遺構外出土遺物	79
3. 4A2区の調査 (1) IIIa層検出の遺構と遺物	80
3. 4A2区の調査 (2) IIIb層検出の遺構と遺物	84
3. 4A2区の調査 (3) IVc層検出の遺構と遺物	84
3. 4A2区の調査 (4) V層検出の遺構と遺物	91
3. 4A2区の調査 (5) 遺構外出土遺物	92

4. 4 A 3 区の調査	(1) V層検出の遺構と遺物	98	
5. 4 B 1 区の調査	(1) IV b 層検出の遺構と遺物	99	(2) V層検出の遺構と遺物
	(3) 遺構外出土遺物	99	
6. 4 B 2 区の調査	(1) IV b 層検出の遺構と遺物	101	(2) IV c 層検出の遺構と遺物
	(3) V層検出の遺構と遺物	103	(4) 遺構外出土遺物
7. 4 C 区の調査	(1) III層検出の遺構と遺物	108	(2) IV b 層検出の遺構と遺物
	(3) IV c 層検出の遺構と遺物	108	(4) 遺構外出土遺物
8. 4 D 区の調査	(1) IV c 層検出の遺構と遺物	112	
9. 自然科学分析			114
10. まとめ			124
写真図版			129
第6節 血屋敷遺跡			141
1. 調査要項			141
2. 1 区の調査			141
3. まとめ			141
写真図版			143
第7節 袋前遺跡			146
1. 調査要項			146
2. 5 区の調査			146
3. まとめ			147
第8節 下ノ内遺跡			148
1. 調査要項			148
2. 本節の構成			148
写真図版			215
第3章 総括			257

引用参考文献
報告書抄録

挿 図 目 次

第1章

- 第1図 富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡と周辺の遺跡…………… 2
- 第2図 グリッド及び調査区配置図…………… 3

第2章

第1節

- 第1図 富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡(南部)基本層序位置図…………… 6
- 第2図 富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡(南部)基本層序…………… 7
- 第3図 富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡(北東部)基本層序位置及び基本層序…………… 8

第2節

- 第1図 大野田遺跡1区東区V層遺構配置図…………… 10
- 第2図 S I 1 竪穴遺構平面図・断面図…………… 11
- 第3図 S D 2・19・20溝跡断面図…………… 11
- 第4図 S D 2 溝跡出土遺物…………… 11
- 第5図 小溝状遺構群断面図…………… 12
- 第6図 深堀区出土遺物(1)…………… 12
- 第7図 深堀区出土遺物(2)…………… 13
- 第8図 大野田遺跡1区西区IV層遺構配置図…………… 14
- 第9図 S K 28・34～37・40・41・45・49土坑平面図・断面図…………… 16
- 第10図 S K 53・54・56・57・59土坑平面図・断面図…………… 17

第11图	S K 60・71・80・81土坑 平面图・断面图……………	18
第12图	S D 32・61・67溝跡断面图……………	19
第13图	小溝状遺構群断面图……………	19
第14图	大野田遺跡1区西区V層遺構配置图…	20
第15图	S K 21・29～31・39土坑平面图・ 断面图……………	22
第16图	S D 22～27・38・43・48・ 76～79溝跡断面图……………	22
第17图	S D 24溝跡出土遺物……………	23
第18图	小溝状遺構群断面图……………	24
第19图	遺構外出土遺物……………	24
第3節		
第1图	元袋遺跡3A区V層遺構配置图……………	33
第2图	S K 1～3土坑平面图・断面图、 S R 4河川跡断面图……………	34
第3图	元袋遺跡3B区V層遺構配置图……………	35
第4图	S I 1竪穴住居跡平面图・断面图……………	36
第5图	S I 1竪穴住居跡出土遺物……………	36
第6图	S K 2土坑平面图・断面图……………	37
第7图	S K 2土坑出土遺物……………	37
第8图	S X 7性格不明遺構断面图……………	37
第9图	S D 3～6溝跡断面图……………	38
第10图	遺構外出土遺物……………	38
第4節		
第1图	伊古田遺跡3区Ⅲ層遺構配置图……………	46
第2图	S K 3土坑平面图・断面图……………	47
第3图	S X 2性格不明遺構平面图・断面图……………	47
第4图	S D 1溝跡断面图……………	47
第5图	伊古田遺跡3区IV層遺構配置图……………	48
第6图	S I 4竪穴遺構平面图・断面图……………	49
第7图	S K 7土坑平面图・断面图……………	49
第8图	S D 5・6・18・21・22溝跡断面图……………	50
第9图	小溝状遺構群断面图……………	50
第10图	伊古田遺跡3区V層遺構配置图……………	51
第11图	S I 8竪穴住居跡平面图・断面图……………	52
第12图	S I 8竪穴住居跡掘り方平面图……………	53
第13图	S I 8竪穴住居跡出土遺物……………	54
第14图	S I 26竪穴住居跡平面图・断面图……………	55
第15图	S I 26竪穴住居跡出土遺物……………	55
第16图	S D 24・25溝跡断面图……………	56
第17图	遺構外出土遺物(1)……………	56
第18图	遺構外出土遺物(2)……………	57

第5節		
第1图	伊古田B遺跡4A1区Ⅲ層遺構配置图 69	
第2图	S K 7土坑平面图・断面图……………	70
第3图	S D 1～6溝跡断面图……………	70
第4图	S D 1・5溝跡出土遺物……………	70
第5图	伊古田B遺跡4A1区IVb層 遺構配置图①……………	71
第6图	伊古田B遺跡4A1区IVb層 遺構配置图②……………	73
第7图	小溝状遺構群断面图……………	74
第8图	IVb層水田跡断面图……………	74
第9图	伊古田B遺跡4A1区IVc層 遺構配置图……………	75
第10图	伊古田B遺跡4A1区V層 遺構配置图……………	76
第11图	S B 53獨立柱建物跡平面图・ 断面图……………	77
第12图	S K 48～52土坑平面图・断面图……………	78
第13图	S D 54・55溝跡断面图……………	78
第14图	遺構外出土遺物……………	79
第15图	S X 1土壇墓平面图・断面图……………	80
第16图	S X 1土壇墓出土遺物……………	80
第17图	伊古田B遺跡4A2区Ⅲa層 遺構配置图、プラント・オパール 分析試料採取地点断面图……………	81・82
第18图	S K 4土坑平面图・断面图……………	83
第19图	S D 2・3・5・6溝跡断面图……………	83
第20图	伊古田B遺跡4A2区Ⅲb層 遺構配置图……………	85・86
第21图	伊古田B遺跡4A2区IVc層 遺構配置图……………	87・88
第22图	S I 74竪穴住居跡平面图・断面图……………	89
第23图	S I 74竪穴住居跡出土遺物(1)……………	90
第24图	S I 74竪穴住居跡出土遺物(2)……………	91
第25图	S I 74竪穴住居跡出土遺物(3)……………	92
第26图	S I 74竪穴住居跡出土遺物(4)……………	93
第27图	小溝状遺構群断面图……………	94
第28图	伊古田B遺跡4A2区V層 遺構配置图……………	95・96
第29图	遺構外出土遺物……………	97
第30图	伊古田B遺跡4A3区V層 遺構配置图……………	98
第31图	S K 1土坑平面图・断面图……………	98
第32图	伊古田B遺跡4B1区IVb層	

遺構配置図	99	第4図	IV層出土遺物(1)	150
第33図 小溝状遺構群断面図	100	第5図	IV層出土遺物(2)	151
第34図 伊古田B遺跡4B1区V層 遺構配置図、遺構外出土遺物	100	第6図	V層S I 72竪穴住居跡 出土遺物(1)	151
第35図 伊古田B遺跡4B2区IV b層 遺構配置図	102	第7図	V層S I 72竪穴住居跡出土遺物(2)	152
第36図 小溝状遺構群断面図	103	第8図	V層S I 76竪穴住居跡出土遺物(1)	152
第37図 伊古田B遺跡4B2区IV c層 遺構配置図	104	第9図	V層S I 76竪穴住居跡出土遺物(2)	153
第38図 水田跡平面図・断面図	105	第10図	V層S I 76竪穴住居跡出土遺物(3)	154
第39図 S D 16・42溝跡断面図	105	第11図	V層S I 78竪穴住居跡出土遺物	154
第40図 小溝状遺構群断面図	106	第12図	V層S I 79竪穴住居跡出土遺物	155
第41図 伊古田B遺跡4B2区V層 遺構配置図、S D 48溝跡断面図	107	第13図	V層S I 80竪穴住居跡出土遺物	155
第42図 遺構外出土遺物	108	第14図	V層S I 104竪穴住居跡 出土遺物(1)	156
第43図 伊古田B遺跡4C区III層遺構配置図、 S D 1溝跡断面図、プラント・オパール 分析試料採集地点断面図	109	第15図	V層S I 104竪穴住居跡 出土遺物(2)	157
第44図 伊古田B遺跡4C区IV b層遺構配置図、 小溝状遺構群断面図	110	第16図	V層S I 160竪穴住居跡出土遺物	157
第45図 伊古田B遺跡4C区IV c層 遺構配置図	111	第17図	V層土坑出土遺物	157
第46図 小溝状遺構群断面図	112	第18図	V層性格不明遺構出土遺物	158
第47図 遺構外出土遺物	112	第19図	V層溝跡出土遺物	158
第48図 伊古田B遺跡4D区IV c層 遺構配置図	113	第20図	V層出土遺物	158
第49図 小溝状遺構群断面図	114	第21図	VI層出土遺物(1)	159
第50図 伊古田B遺跡4A1区の プラント・オパール分析結果	116	第22図	VI層出土遺物(2)	160
第51図 伊古田B遺跡4A2区の プラント・オパール分析結果	118	第23図	VI層出土遺物(3)	161
第52図 伊古田B遺跡4B2区・4C区の プラント・オパール分析結果	121	第24図	VI層出土遺物(4)	162
第6節		第25図	VI層出土遺物(5)	163
第1図 血屋敷遺跡1区遺構配置図	142	第26図	VI層出土遺物(6)	164
第2図 血屋敷遺跡1区基本層序模式図	142	第27図	VI層出土遺物(7)	165
第7節		第28図	VI層出土遺物(8)	166
第1図 袋前遺跡5区IV b層遺構配置図、 S D 1・2溝跡断面図	146	第29図	VI層出土遺物(9)	167
第8節		第30図	VI層出土遺物(10)	168
第1図 I層下面河川跡、溝跡出土遺物	149	第31図	VI層出土遺物(11)	169
第2図 I層出土遺物	150	第32図	VI層出土遺物(12)	170
第3図 II層出土遺物	150	第33図	VI層出土遺物(13)	171
		第34図	VII層土坑出土遺物(1)	171
		第35図	VII層土坑出土遺物(2)	172
		第36図	VII層土坑出土遺物(3)	173
		第37図	VII層S X 158埋設土器	173
		第38図	VII層S X 159埋設土器	174
		第39図	VII層出土遺物(1)	175
		第40図	VII層出土遺物(2)	176
		第41図	VII b層出土遺物(1)	176
		第42図	VII b層出土遺物(2)	177
		第43図	VII b層出土遺物(3)	178
		第44図	VII b層出土遺物(4)	179

第45図	Ⅷ層出土遺物 (1)……………	179	出土遺物 (2)……………	197	
第46図	Ⅷ層出土遺物 (2)……………	180	第67図	Ⅹ層 S I 176竪穴住居跡 出土遺物 (3)……………	198
第47図	Ⅷ層出土遺物 (3)……………	181	第68図	Ⅹ層 S I 179竪穴住居跡出土遺物 ……	199
第48図	Ⅷ層出土遺物 (4)……………	182	第69図	Ⅹ層 S I 180竪穴住居跡 出土遺物 (1)……………	199
第49図	Ⅷ層出土遺物 (5)……………	183	第70図	Ⅹ層 S I 180竪穴住居跡 出土遺物 (2)……………	200
第50図	Ⅷ層出土遺物 (6)……………	184	第71図	Ⅹ層 S I 180竪穴住居跡 出土遺物 (3)……………	201
第51図	Ⅷ層出土遺物 (7)……………	185	第72図	Ⅹ層 S I 180竪穴住居跡 出土遺物 (4)……………	202
第52図	Ⅷ層出土遺物 (8)……………	186	第73図	Ⅹ層 S I 194竪穴住居跡出土遺物 ……	202
第53図	Ⅷ層出土遺物 (9)……………	187	第74図	Ⅹ層 S I 195竪穴住居跡埋設土器 ……	203
第54図	Ⅷ層出土遺物 (10)……………	188	第75図	Ⅹ層土坑出土遺物 (1)……………	203
第55図	Ⅷ層出土遺物 (11)……………	189	第76図	Ⅹ層土坑出土遺物 (2)……………	204
第56図	Ⅷ層出土遺物 (12)……………	190	第77図	Ⅹ層土坑出土遺物 (3)……………	205
第57図	Ⅶ b 層・Ⅶ c 層出土遺物 ……	190	第78図	Ⅹ層 S X 161埋設土器 ……	205
第58図	Ⅹ層 S I 163竪穴住居跡出土遺物 ……	191	第79図	Ⅹ層 S X 173埋設土器 ……	206
第59図	Ⅹ層 S I 169竪穴住居跡 出土遺物 (1)……………	192	第80図	Ⅹ層 S X 174埋設土器 ……	207
第60図	Ⅹ層 S I 169竪穴住居跡 出土遺物 (2)……………	193	第81図	Ⅹ層性格不明遺構出土遺物 ……	208
第61図	Ⅹ層 S I 169竪穴住居跡 出土遺物 (3)……………	194	第82図	X層出土遺物 ……	209
第62図	Ⅹ層 S I 170竪穴住居跡 出土遺物 (1)……………	194	第83図	I～V層出土縄文時代の遺物 (1)…	209
第63図	Ⅹ層 S I 170竪穴住居跡 出土遺物 (2)……………	195	第84図	I～V層出土縄文時代の遺物 (2)…	210
第64図	Ⅹ層 S I 170竪穴住居跡 出土遺物 (3)……………	196	第85図	I～V層出土縄文時代の遺物 (3)…	211
第65図	Ⅹ層 S I 176竪穴住居跡 出土遺物 (1)……………	196	第86図	I～V層出土縄文時代の遺物 (4)…	212
第66図	Ⅹ層 S I 176竪穴住居跡 出土遺物 (2)……………	197	第87図	I～V層出土縄文時代の遺物 (5)…	213
			第88図	I～V層、古代の遺構出土 縄文時代の遺物 ……	214

表 目 次

第1章

第2節

第1表	周辺の遺跡一覧表 ……	2
-----	-------------	---

第3節

第2表	富沢駅周辺 調査区一覧 ……	5
第3表	富沢駅周辺 遺跡別調査回数 ……	5

第2章

第2節

第1表	遺構一覧表 (1)……………	25
第2表	遺構一覧表 (2)……………	26

第3節

第1表	遺構一覧表 ……	39
-----	----------	----

第4節

第1表	遺構一覧表 ……	58
-----	----------	----

第5節

第1表	仙台市伊古田B遺跡4A1区の プラント・オパール分析結果 ……	117
第2表	仙台市伊古田B遺跡4A2区の プラント・オパール分析結果 ……	117
第3表	仙台市伊古田B遺跡4B2区・4C区の	

プラント・オパール分析結果……………	120
第4表 遺構一覧表(1)……………	125
第5表 遺構一覧表(2)……………	126
第6表 遺構一覧表(3)……………	127

第7表 遺構一覧表(4)……………	128
第7節	
第1表 遺構一覧表……………	147

写真図版目次

第2章

第2節

写真図版1 大野田遺跡(1)……………	29
写真図版2 大野田遺跡(2)……………	30
写真図版3 大野田遺跡(3)……………	31
写真図版4 大野田遺跡出土遺物……………	32

第3節

写真図版1 元袋遺跡(1)……………	43
写真図版2 元袋遺跡(2)……………	44

第4節

写真図版1 伊古田遺跡(1)……………	61
写真図版2 伊古田遺跡(2)……………	62
写真図版3 伊古田遺跡(3)……………	63
写真図版4 伊古田遺跡(4)……………	64
写真図版5 伊古田遺跡(5)……………	65
写真図版6 伊古田遺跡(6)……………	66
写真図版7 伊古田遺跡3区出土遺物……………	67

第5節

写真図版1 伊古田B遺跡(1)……………	131
写真図版2 伊古田B遺跡(2)……………	132
写真図版3 伊古田B遺跡(3)……………	133
写真図版4 伊古田B遺跡(4)……………	134
写真図版5 伊古田B遺跡(5)……………	135
写真図版6 伊古田B遺跡(6)……………	136
写真図版7 伊古田B遺跡(7)……………	137
写真図版8 伊古田B遺跡出土遺物(1)……………	138
写真図版9 伊古田B遺跡出土遺物(2)……………	139
写真図版10 伊古田B遺跡出土遺物(3)……………	140

第6節

写真図版1 皿屋敷遺跡(1)……………	145
---------------------	-----

第8節

写真図版1 下ノ内遺跡出土遺物(1)……………	217
写真図版2 下ノ内遺跡出土遺物(2)……………	218
写真図版3 下ノ内遺跡出土遺物(3)……………	219
写真図版4 下ノ内遺跡出土遺物(4)……………	220
写真図版5 下ノ内遺跡出土遺物(5)……………	221

写真図版6 下ノ内遺跡出土遺物(6)……………	222
写真図版7 下ノ内遺跡出土遺物(7)……………	223
写真図版8 下ノ内遺跡出土遺物(8)……………	224
写真図版9 下ノ内遺跡出土遺物(9)……………	225
写真図版10 下ノ内遺跡出土遺物(10)……………	226
写真図版11 下ノ内遺跡出土遺物(11)……………	227
写真図版12 下ノ内遺跡出土遺物(12)……………	228
写真図版13 下ノ内遺跡出土遺物(13)……………	229
写真図版14 下ノ内遺跡出土遺物(14)……………	230
写真図版15 下ノ内遺跡出土遺物(15)……………	231
写真図版16 下ノ内遺跡出土遺物(16)……………	232
写真図版17 下ノ内遺跡出土遺物(17)……………	233
写真図版18 下ノ内遺跡出土遺物(18)……………	234
写真図版19 下ノ内遺跡出土遺物(19)……………	235
写真図版20 下ノ内遺跡出土遺物(20)……………	236
写真図版21 下ノ内遺跡出土遺物(21)……………	237
写真図版22 下ノ内遺跡出土遺物(22)……………	238
写真図版23 下ノ内遺跡出土遺物(23)……………	239
写真図版24 下ノ内遺跡出土遺物(24)……………	240
写真図版25 下ノ内遺跡出土遺物(25)……………	241
写真図版26 下ノ内遺跡出土遺物(26)……………	242
写真図版27 下ノ内遺跡出土遺物(27)……………	243
写真図版28 下ノ内遺跡出土遺物(28)……………	244
写真図版29 下ノ内遺跡出土遺物(29)……………	245
写真図版30 下ノ内遺跡出土遺物(30)……………	246
写真図版31 下ノ内遺跡出土遺物(31)……………	247
写真図版32 下ノ内遺跡出土遺物(32)……………	248
写真図版33 下ノ内遺跡出土遺物(33)……………	249
写真図版34 下ノ内遺跡出土遺物(34)……………	250
写真図版35 下ノ内遺跡出土遺物(35)……………	251
写真図版36 下ノ内遺跡出土遺物(36)……………	252
写真図版37 下ノ内遺跡出土遺物(37)……………	253
写真図版38 下ノ内遺跡出土遺物(38)……………	254
写真図版39 下ノ内遺跡出土遺物(39)……………	255
写真図版40 下ノ内遺跡出土遺物(40)……………	256

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

仙台市南部地域でも都市化の進展に伴って、副都心構想をはじめとする都市環境の整備事業が進展しつつある。大野田地区周辺は高速鉄道南北線の開業以降、道路網の整備や宅地化が急速に進む地域であった。このような中、土地区画整理事業を具体化する協議が始まり、平成5年10月13日付で「仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業」（以下、本報告書では「本事業」とする。）に係わる埋蔵文化財の調査依頼が都市整備局より提出された。本事業は同年12月14日付で都市計画決定がなされた。調査依頼に対する回答は、平成6年2月8日付で本事業地内の都市計画道路及び区画道路の部分等を対象に発掘調査を実施することを回答した。

本事業予定地は市内でも特に多くの遺跡が集中して分布する地域で、大野田遺跡、元袋遺跡、六反田遺跡、伊古田遺跡、春日社古墳、王ノ壇古墳、鳥居塚古墳、大野田古墳群、下ノ内遺跡、王ノ壇遺跡、皿屋敷遺跡、袋前遺跡の12遺跡が知られており、遺跡の時代も縄文時代から近世まで広範囲に及んでいた。

平成6年9月から平成7年11月までの期間、本事業地内で試掘調査を実施し、六反田遺跡の範囲を北東側へ拡大し、伊古田遺跡の南東に伊古田B遺跡を新規に登録した。春日社古墳は、大野田古墳群では王ノ壇古墳と並んで、墳丘の残存する古墳であったが、都市計画道路「郡山・折立線」のルート変更により、路線敷きに入り、試掘調査の結果を受けて、本調査後墳丘は消滅することとなった。本発掘調査は試掘調査と並行して平成7年5月から実施した。

また、袋前遺跡の平成13年度の2A・B区の調査以降、古代の大型掘立柱建物跡や大溝が発見され、更に平成16年度の大野田古墳群9A区、平成19年度の六反田遺跡4B区で、大型掘立柱建物跡が検出され、大溝が方形に巡る範囲内に大型掘立柱建物跡が定期的に配置された状況が明らかになった。さらに平成21年度に国庫補助事業による遺構確認調査が実施され、多賀城以前の陸奥国府である郡山遺跡に関連する重要な古代官衙の遺構群であることが明らかになったとして、同年7月に大野田官衙遺跡として、新規に登録し、本事業地内の遺跡数は14遺跡となった。

第2節 遺跡周辺の環境

1. 遺跡の位置と地理的環境

伊古田遺跡、大野田古墳群、下ノ内遺跡を含む大野田地区は、仙台市の南部、名取川下流の北岸部にあたる。河口から約8.8kmに位置し、太白区富沢四丁目、大野田字元袋・袋前・イコタ・千刈田・塚田・宮・宮脇・王ノ壇・五反田・六反田・竹松・皿屋敷に所在する。これらの地点はJR長町駅の南西～南南西約1～1.7kmにあたり、遺跡は東西約800m・南北約450mの範囲に分布する。

仙台市域の地形は、西部の丘陵地帯と東部の海岸平野に二分され、海岸平野の中で大野田地区を含む地域は郡山低地と呼称されている。南緑を名取川、北緑を広瀬川に囲まれた沖積地で、北西縁は青葉山丘陵で画されているほか、太白山に源を発する沢川などの小河川が低地内を曲流している。このため、これら河川の影響を強く受け、沖積地の中でも自然堤防・旧河道・後背湿地が複雑に入り組んだ地形となっている。

標高は約12mで、遺跡の構成土壌はシルト・粘土質シルト・砂質シルトが主体をしめる。調査以前の土地利用は水田畑地もしくは宅地である。

2. 遺跡周辺の歴史的環境

大野田地区を中心とした名取川下流域は仙台市内でも数多くの遺跡が分布する地域であり、近年の土地開発に伴い発掘調査例も増加している。

大野田地区の周辺には、先史時代では後期旧石器時代の湿地林や焼き火跡のほか、弥生時代中期の水田跡が発見された富沢遺跡、縄文時代早期の竪穴住居跡や縄文時代後期・弥生時代後期の墓域が発見された下ノ内浦遺跡、縄文時代中期～後期の遺構・遺物が多数発見された伊古田遺跡・六反田遺跡・下ノ内遺跡がある。古墳時代では大野田古墳群で春日社古墳や王ノ壇古墳、前方後円墳の鳥居塚古墳をはじめとし、40基以上の円墳が確認されている。また、

第2節 遺跡周辺の歴史的環境



第1図 富沢駅周辺土地面整理事業関係遺跡と周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡一覧表

No.	遺跡名	台地	種別	時代	No.	遺跡名	台地	種別	時代
1	築前遺跡	自然台地	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安	24	富沢遺跡	自然台地	集落跡	中世
2	伊古田古遺跡	自然台地	集落跡	古墳・奈良・平安	25	畑中遺跡	古墳	集落跡	近世
3	下ノ内遺跡	自然台地	集落跡・塚跡	縄文(中・期)・奈良・古墳・奈良・平安・中世	26	安乃山横穴墓群	古墳	横穴墓群	古墳・奈良
4	大野田古遺跡	自然台地	古墳・集落跡	縄文・奈良・古墳・平安・中世	27	大年寺山横穴墓群	古墳	横穴墓群	古墳
5	王ノ塚古遺跡	自然台地	古墳	古墳	28	大年寺横穴墓群	古墳	横穴墓群	古墳・奈良
6	春日台古遺跡	自然台地	古墳	古墳	29	茂ヶ崎遺跡	古墳	集落跡	中世
7	長野塚古遺跡	自然台地	古墳	古墳	30	茂ヶ崎横穴墓群	古墳	横穴墓群	古墳・奈良
8	大野田台新遺跡	自然台地	古墳跡	古墳・奈良	31	惣塚古遺跡	自然台地	古墳	古墳
9	王ノ塚遺跡	自然台地	集落跡・塚跡	縄文(前期)・奈良・古墳・奈良・平安・中世	32	二ツ岩横穴墓群	自然台地	横穴墓群	古墳・奈良
10	六反田遺跡	自然台地	集落跡	縄文(後)・奈良・古墳・奈良・平安・中世	33	柳古遺跡	古墳群	古墳	古墳
11	五反田古遺跡	自然台地	古墳	古墳	34	柳古遺跡	古墳群	古墳	古墳
12	五反田石柵遺跡	自然台地	塚跡	古墳	35	神宮遺跡	古墳	古墳	古墳
13	五反田木柵遺跡	自然台地	塚跡	古墳	36	上下内遺跡	古墳	集落跡	縄文・奈良・古墳・奈良・平安
14	伊古田遺跡	自然台地	集落跡	縄文・平安	37	上下内横穴墓群	古墳	横穴墓群	古墳・奈良
15	下ノ内遺跡	自然台地	集落跡・塚跡	縄文(早・前・後)・奈良・古墳・奈良・平安・中世	38	金谷古遺跡	古墳群	古墳	古墳
16	山ノ上遺跡	自然台地・後背台地	集落跡・水田跡	縄文・奈良・古墳・奈良・平安・中世	39	廣野古遺跡	古墳群	古墳	古墳
17	富沢遺跡	後背台地	集落跡・水田跡・散水地	縄文(後)・縄文(中)・古墳・奈良・平安・中世・近世	40	田原野遺跡	古墳群	塚跡	古墳・奈良・平安
18	柳崎遺跡	自然台地・後背台地	水田跡・塚跡	縄文(後)・奈良・古墳・平安	41	山ノ上ノ台遺跡	古墳	集落跡	旧石器・縄文(早・後)・奈良・平安・中世・近世
19	元宮遺跡	自然台地	集落跡・塚跡	奈良・平安・中世・近世	42	山ノ上平遺跡	後背台地	集落跡	縄文・平安・近世・近代
20	大野田遺跡	自然台地	集落跡	縄文(後)・奈良(中)・古墳・奈良・平安	43	上野遺跡	古墳	集落跡	古墳・奈良・平安・近世
21	藤山遺跡	自然台地	古墳(前期)・古墳(中)・古墳・奈良・平安・中世・近世	44	北野遺跡	古墳	集落跡	縄文・平安・近世	
22	西方遺跡	自然台地	集落跡	縄文・奈良(中)・古墳・奈良・平安・中世・近世	45	富沢古遺跡	自然台地	古墳	古墳
23	北江遺跡	自然台地	集落跡・集落跡・水田跡	縄文(後)・奈良・古墳・奈良・平安・中世・近世	46	若林遺跡	自然台地	集落跡・古墳・集落跡	古墳・平安・中世・近世
					47	法郎塚古遺跡	自然台地	古墳	古墳
					48	柳生台新遺跡	自然台地	散水地	奈良・平安・中世
					49	松木遺跡	自然台地	集落跡	平安・奈良・近世
					50	野野寺横穴墓群	古墳	横穴墓群	古墳・奈良
					51	田原野遺跡	自然台地	集落跡・塚跡・水田跡・散水地	縄文(後)・奈良・平安・中世・近世

伊古田遺跡、下ノ内遺跡、袋前遺跡では古墳時代前期～中期の集落跡が確認されている。古代では本事業に伴う発掘調査により大野田古墳群、袋前遺跡、六反田遺跡の3遺跡にまたがる大野田官衙遺跡が発見されている。中世～近世では屋敷跡や奥大道と推定される道路跡が検出された王ノ壇遺跡、近世では堀跡や屋敷跡が検出された元袋遺跡がある。

このように、本事業地内だけをみても各時代の遺構・遺物が多数確認されており、発掘調査の結果、大野田地区を含む周辺地域で先史時代から近世にいたるまで連続と続いていた人々の活動の痕跡が明らかになりつつある。なお、大野田地区及び周辺地域の歴史的環境の詳細は『下ノ内遺跡・春日社古墳・大野田官衙遺跡ほか-仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ-』（仙台市教委 2011b）を参照されたい。



第2図 グリッド及び調査区配置図

第3節 調査経過

本事業に伴う本調査は、平成7年5月、大野田古墳群1A区から着手した。平成10年度までに調査を終了した大野田古墳群1～4区(2・3区で鳥居塚古墳第2次調査を実施)、王ノ壇遺跡1区、六反田遺跡1区、伊古田B遺跡1区、袋前遺跡1区のうち、平成10年度に着手した伊古田B遺跡1区、袋前遺跡1区を除く調査成果は平成12年度に「仙台市富沢駅周辺土地地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ(第243集)」として報告した。平成11年度から下ノ内遺跡1～5区、12年度から大野田古墳群5～9区、13年度から袋前遺跡2・3区、14年度から伊古田B遺跡2・3区の調査を16年度までに実施し、15年度には王ノ壇古墳の調査を行った。王ノ壇古墳は公園として整備されることから一部を除いて遺構の確認調査にとどめ、掘り込み調査は実施していない。以上の平成11～16年度の調査成果に伊古田B遺跡1区、袋前遺跡1区と平成19年度に主体部から革盾が発見された春日社古墳第2次調査、平成21年度までに明らかとなった大野田官衙遺跡の成果を加えて、平成23年度に「仙台市富沢駅周辺土地地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ(第390集)」として報告した。この革盾は、保存処理され、一般に公開されている。平成17年度から元袋遺跡1・2区、六反田遺跡2～4区、伊古田遺跡1・2区、大野田古墳群10～12区、下ノ内遺跡6～8区、袋前遺跡5区の調査を行った。この大野田古墳群12D区の調査に春日社古墳2次調査が含まれており、この成果は12D区全体の成果から切り離して速報的に報告書Ⅱで報告した。これらの平成17年度～19年度の調査成果のうち、元袋遺跡1・2区、六反田遺跡2～4区、大野田古墳群11・12区の成果を除いた調査成果をまとめて「仙台市富沢駅周辺土地地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅲ(第413集)」として報告した。平成20～21年度には大野田遺跡1区、元袋遺跡3区、六反田遺跡5・6区、伊古田遺跡3区、伊古田B遺跡4区、大野田古墳群13・14区、下ノ内遺跡9・10区、血屋敷遺跡1区の調査を行った。本書では、以上の平成20～21年度の調査成果のうち、大野田遺跡1区、元袋遺跡3区、伊古田遺跡3区、伊古田B遺跡4区、血屋敷遺跡1区の調査成果と、平成19年度に調査した袋前遺跡5区の調査成果、平成19・20年度に調査した下ノ内遺跡8区の出土遺物(基本層1層下面～IX層上面検出遺構出土石器およびVI～IX層出土石器を除く)を加えて「仙台市富沢駅周辺土地地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅳ(第414集)」として報告する。今後、平成22～24年度の調査成果をまとめて報告することを予定している。

第4節 報告書の作成

報告書の作成

本報告書は「仙台市富沢駅周辺土地地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書」の第4冊目となり、第2表、第3表に示した、網掛けの部分を対象としている。各発掘調査の要項は、第2章の各節に記述している。当初、報告書の作成は平成22・23年度の予定であったが、平成23年3月11日の東日本大震災により、滞った22年度の業務を平成23年度に実施し、報告書の刊行は24年度とした。報告書の作成体制は以下のとおりである。

・平成22年度

整理担当：仙台市教育委員会文化財課調査指導係

専門員 結城慎一 主査 主演光朗 主任 工藤信一郎 渡部 紀

主事 鈴木 隆 水野一夫 庄子裕美

整理組織：国際文化財株式会社

主任調査員 秋本雅彦 土岐耕司 調査員 矢島博文 調査補助員 稲垣森太 大橋忠明

整理期間：平成22年10月8日～平成23年3月31日

・平成23年度

整理担当：仙台市教育委員会文化財課調査指導係

主査 主演光朗 主任 工藤信一郎 主事 鈴木 隆 水野一夫 庄子裕美

整理組織：国際文化財株式会社

主任調査員 工藤 司 調査員 鶴久森 彬

整理期間：平成23年9月22日～平成24年3月30日
・平成24年度

整理担当：仙台市教育委員会文化財課調査指導係

主査 主濱光朗 荒井 格

整理組織：国際文化財株式会社

主任調査員 工藤 司 調査員 土橋高起 調査補助員 渡部裕司

整理期間：平成24年6月21日～平成25年3月29日

第2表 富沢駅周辺 調査区一覧

調査年度	大野田 3次調査	元袋 4次調査	六反田 5次調査	伊古田 3次調査	春日社古墳 2次調査	王ノ塚古墳 2次調査	鳥居塚古墳 2次調査	大野田古墳群 5次調査	下ノ内 6次調査	王ノ塚 2次調査	田屋敷 2次調査	袋前 1次調査	伊古田B 1次調査
H7								1					
H8							2次-1	2		1			
H9			1				2次-2	3		道路遺構			
H10								4				1	1
H11									1				
H12								5	2				
H13								6	3			2	
H14								7	4				2
H15						2次		8	5			3	
H16								9				4	3
H17		1	2	1				10	6				
H18			3	2				11	7				
H19		2	4		2次			12・11D	8			5	
H20	1	3	5					13	9		1		
H21			6A・B・E～G	3				14	10				4
H22		4	6B・6C・6D・7	4				15				6	5
H23			7F・2・8D	4A・5				16					
H24			8B・8C・9	6				16A・1・17					

※明掛け部分が本報告書掲載調査区。大野田官街道路に隣接する調査区は、六反田遺跡 2B・5C・6A 区、大野田古墳群 5A・9A・13B・13C・14B 区、袋前遺跡 2A・2B・3 区で、その他に国庫補助事業による調査がある。それらの成果を合わせて報告書Ⅱ(第390集)で報告した。

第3表 富沢駅周辺 遺跡別調査回数

調査回数	大野田	元袋	六反田	伊古田	春日社古墳	王ノ塚古墳	鳥居塚古墳	大野田古墳群	下ノ内	王ノ塚	田屋敷	袋前	伊古田B
1次	伊古田・豊野	伊古田・101集	伊古田・34集	伊古田・45集	伊古田・68集	伊古田・108集							
2次	伊古田・252集	伊古田・188集	伊古田・198集	伊古田・130集	伊古田・伊古田	伊古田・伊古田	伊古田・伊古田	伊古田・伊古田	伊古田・伊古田	伊古田・伊古田	伊古田・伊古田	伊古田・伊古田	伊古田・伊古田
3次	伊古田・伊古田	伊古田・272集	伊古田・72集	伊古田・伊古田	伊古田・伊古田	伊古田・伊古田	伊古田・伊古田	伊古田・伊古田	伊古田・伊古田	伊古田・伊古田	伊古田・伊古田	伊古田・伊古田	伊古田・伊古田
4次		伊古田・伊古田	伊古田・102集				伊古田・伊古田						
5次		伊古田・伊古田	伊古田・伊古田				伊古田・伊古田						
6次		伊古田・伊古田	伊古田・伊古田				伊古田・伊古田						
7次			伊古田・伊古田				伊古田・伊古田						
8次			伊古田・伊古田				伊古田・伊古田						
9次			伊古田・伊古田				伊古田・伊古田						
10次							伊古田・伊古田						
11次							伊古田・伊古田						
12次							伊古田・伊古田						
13次							伊古田・伊古田						
14次							伊古田・伊古田						
15次							伊古田・伊古田						
16次							伊古田・伊古田						
17次							伊古田・伊古田						
18次							伊古田・伊古田						
19次							伊古田・伊古田						

※第2・3表のアミ掛け表示は、本報告書で報告があることを示す。

第2章 本調査報告

第1節 富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡の基本層序

本報告書における富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡の調査は、6遺跡16調査区に及ぶ。これらの調査区は、いずれも近・現代の土地造成や畑・水田耕作によって少なからず削平されているものの、各調査区で遺存状況の良好な地点の土層を基本層序とし、検討した。以下、各層の特徴について記載する。なお、本事業地内における各遺跡の位置関係から、便宜的に伊古田遺跡、伊古田B遺跡、血屋敷遺跡を南部、大野田遺跡、元袋遺跡、袋前遺跡を北東部と記載することもある。

I層：現代の畑・水田耕作土で、地点により最大4層に細分される。I a層は締りのない暗褐色・灰黄褐色等の褐色系の砂質・粘土質を含むシルトで、層厚は3～56cmである。大野田遺跡1A・1B区においては旧水田耕作土である。

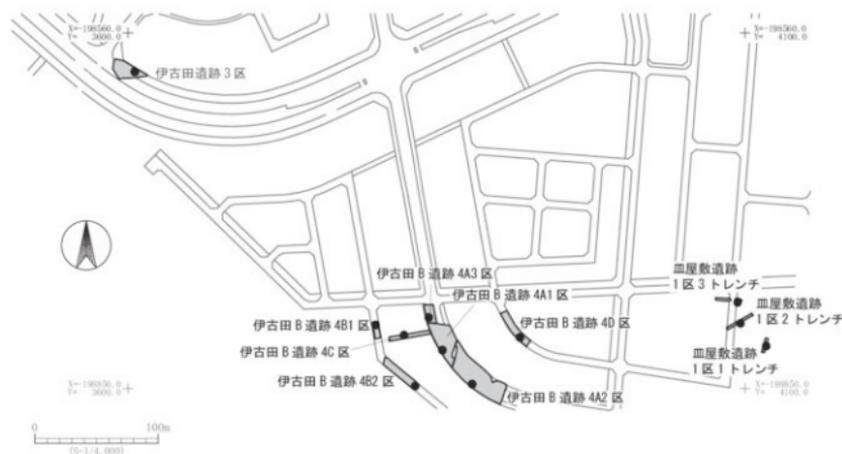
I b層は締りのない黒褐色・黄褐色等の褐色系のシルトないし粘土質シルトで、I a層とは色調のわずかな違いで区別される。層厚4～40cmの旧水田耕作土で、大野田遺跡1A・1B区においては水田下層の床土である。

I c層は部分的に酸化鉄を含む黄灰色もしくはにぶい黄褐色のシルトないし粘土質シルトである。伊古田B遺跡4A1・4A2区でのみ確認され、I b層とは含有物の違いで区別される。層厚は3～26cmである。

I d層は伊古田B遺跡4A1区でのみ確認された層全体に酸化鉄を含む黄灰色粘土質シルトで、I c層とは含有物の疎密で区別される。層厚は3～16cmである。

II層：元袋遺跡3A区を除き、酸化鉄を含む黒ないし暗褐色・黄褐色等の褐色系シルトないし粘土質シルトで、層厚は3～25cmである。

元袋遺跡3A区は他の調査区と様相が異なり、4層に細分される。II a層は炭化物や焼土粒を含む褐色粘土質シルトで層厚は3～27cm、II b層はにぶい黄褐色粘土質シルトで層厚は17～30cm、II c層は小礫を含む褐色粘土質シルトで層厚は23～43cm、II d層はにぶい黄褐色細砂で層厚は3～21cmである。このII a～II d層は近世の整地層としてさらに細分される可能性が考えられるが、調査段階では判然としなかったことからI層の下位に確認された層として便宜的に層名を付している。



第1図 富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡（南部）基本層序位置図

Ⅲ層：古代以降の遺構検出面である。灰黄褐色・にぶい黄褐色・褐色等、褐色系のシルトないし粘土質シルトで、層厚は3～53cmである。南部の各調査区は、灰白色火山灰、酸化鉄の含有量の違いで2層に細分される。Ⅲa層は灰白色火山灰を含む層で、層厚は2～25cm、Ⅲb層は灰白色火山灰を含まずⅢa層に比べて酸化鉄の含有量が多く、層厚は6～31cmである。

Ⅳ層：南部・北東部共に土質は粘土もしくは粘土質シルトで共通するが、色調は、南部が黒褐色・暗褐色・灰黄褐色・暗オリーブ褐色等の褐色系のほか褐色・灰黄色と調査区により様々であり、北東部は黒褐色ないし暗褐色である。層厚は5～60cmで、伊古田B遺跡の各調査区は3層、袋前遺跡は2層に細分される。Ⅳa層はマンガン粒を含む褐色・灰黄色・にぶい黄褐色ないし暗褐色の粘土もしくは粘土質シルトで層厚は8～41cm、Ⅳb層は黒褐色・暗褐色・灰黄褐色・暗オリーブ褐色等の褐色系の粘土もしくは粘土質シルトで層厚は3～36cm、伊古田B遺跡では酸化鉄・マンガンを含む。また、同遺跡4A1区では水田耕作土で、下面は凹凸が顕著である。Ⅳc層は伊古田B遺跡のみで確認され、黒色ないし黒褐色シルトないし粘土質シルトでV層を粒状に含む。層厚は2～42cmである。

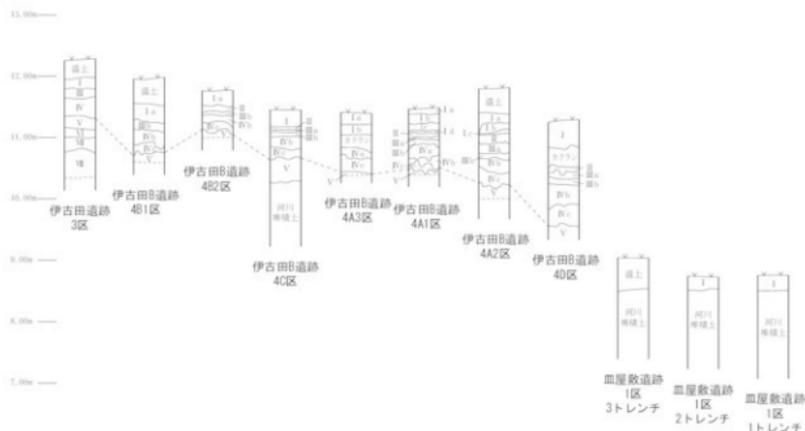
V層：古墳時代～古代の遺構検出面である。南部ではにぶい黄褐色ないし褐色の砂質もしくは粘土質シルト、北東部ではにぶい黄褐色・暗灰黄色の粘土ないし粘土質シルトで、層厚は6～47cmである。

Ⅵ層：大野田遺跡1区東区、元袋遺跡3A・3B区、伊古田遺跡3区で確認された。褐色・暗オリーブ褐色ないし褐色の粘土質シルトで、層厚は8～28cmである。

Ⅶ層：大野田遺跡1区東区、元袋遺跡3B区、伊古田遺跡3区で確認された。黄褐色もしくはオリーブ褐色の粘土質シルトである。層厚は25～60cmである。大野田遺跡1区東区では3層に細分され、Ⅶa層は灰オリーブ褐色シルトで層厚は25～60cm、Ⅶb層は灰オリーブ黒色粘土質シルトで層厚は2～12cm、Ⅶc層暗灰黄色粘土質シルトで層厚は5～28cmである。

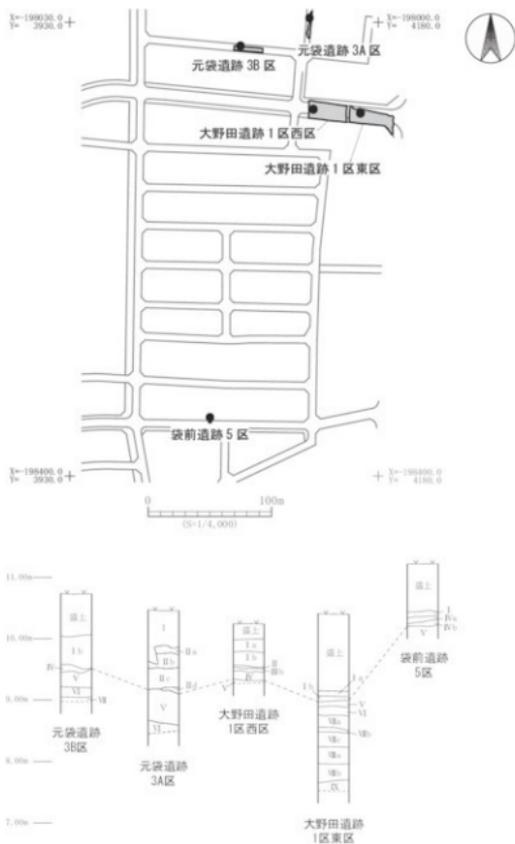
Ⅷ層：大野田遺跡1区東区で確認された。色調の違いで2層に細分される。Ⅶa層は暗オリーブ灰色粘土で層厚は50～56cm、Ⅶb層は緑黒色粘土で層厚は16～27cmである。いずれもグライ化が顕著である。

Ⅸ層：大野田遺跡1区東区で確認された。暗緑灰色砂でグライ化が顕著である。層上部のみの確認で、層厚は不明である。



第2図 富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡（南部）基本層序

第1節 富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡の基本層序



第3図 富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡（北東部）基本層序位置および基本層序

第2節 大野田遺跡

1. 調査要項

- (1) 遺跡名：大野田遺跡（宮城県遺跡登録番号 01094）
- (2) 所在地：仙台市太白区大野田字袋前
- (3) 調査面積：約 839m²（1区東区・1区西区）
- (4) 調査主体：仙台市教育委員会
- (5) 調査担当：仙台市教育委員会文化財課
- (6) 担当職員：小泉博明・廣瀬真理子（派遣調査員：馬場由行・日紫喜勝重／国際文化財）
- (7) 調査期間

（野外調査）：平成 20 年 10 月 21 日～平成 21 年 3 月 23 日

（整理作業）各調査終了後に基礎整理を行い、以下の期間で最終整理を実施した。

- ・平成 22 年度：平成 22 年 10 月 8 日～平成 23 年 3 月 31 日
- ・平成 23 年度：平成 23 年 9 月 22 日～平成 24 年 3 月 30 日
- ・平成 24 年度：平成 24 年 6 月 21 日～平成 25 年 3 月 29 日

2. 1区東区の調査

1区東区では基本層V層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、竪穴遺構1基、溝跡1条、小溝状遺構群2群、ピット24基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。また、V層上面検出遺構の調査終了後、調査区内の2箇所に深掘区を設定し、下層の状況を確認するための調査を行った。

(1) V層検出の遺構と遺物（第1図）

1) 竪穴遺構

S11 竪穴遺構（第2図、図版1）

[位置] E370・N290 グリッドに位置する。

[重複関係] 小溝状遺構 I-1・II-1、P8 と重複関係にあり、小溝状遺構より新しく、P8 より古い。

[規模・形態] 東西 3.27m、南北 2.99m である。平面形は北壁東側が 20cm 程張り出す不整隅丸方形である。

[主軸方位] 東壁基準で N-3°-W である。

[堆積土] 6層に分層した。基本層V層を粒状に含むオリーブ黒色粘土質シルトを主体とする。

[壁面] 急角度で立ち上がり、壁高は西壁で床面から 55cm である。

[底面] 掘り方底面の基本層V層を直接底面としている。

[施設] 南東隅で検出した SK1 は、貯蔵穴状の施設と考えられる。平面形は一辺約 80cm の隅丸方形、断面形は逆台形で、深さ 29cm である。底面は中央がわずかに窪み、壁面は緩やかに立ち上がる。

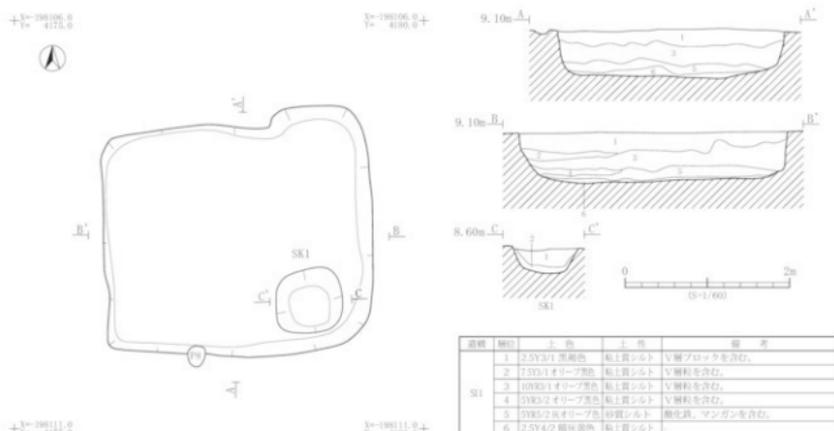
[出土遺物] 堆積土から、縄文土器、土師器、須恵器の小破片が出土している。

2) 溝跡

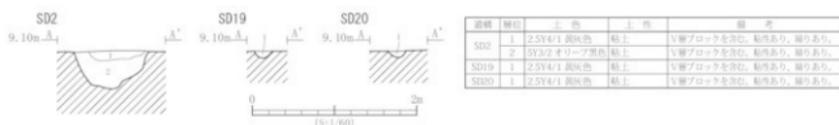
SD2 溝跡（第3・4図、図版1・5） E360～370・N290 グリッドで検出した。本遺跡1区西区で検出した SD24 溝跡と同一の溝跡である。P2・4・7・21 と重複し、本遺構が古い。東西両側共に調査区外へ伸び、西側は1区西区 SD24 に連続する。方向は N-87°-E で、検出長 18.42m、幅 82～162cm、深さ 46cm である。断面形はU字形である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器、須恵器の破片が出土し、須恵器製の胴部破片1点を第4図に図示した。

SD19 溝跡（第3図） E350・N290 グリッドで検出した。方向は N-12°-E で弧状に伸び、長さ 2.20m、幅 20～24cm、深さ 7～13cm である。断面形はU字形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

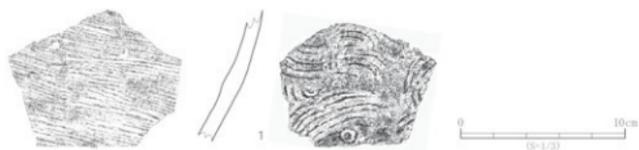
SD20 溝跡（第3図、図版1） E350～360・N290 グリッドで検出した。方向は N-43°-E で、長さ 1.46m、幅 20～24cm、深さ 6～9cm である。断面形はU字形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。



第2図 S11 竪穴遺構平面図・断面図



第3図 SD2・19・20 溝跡断面図



第4図 SD2 溝跡出土遺物

3) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群で、方向と重複関係からⅠ・Ⅱ群に分けられる。また、重複関係からⅡ群→Ⅰ群の変遷がたどれる。

Ⅰ群(第5図、図版1) E350~390・N280~290グリッドで検出した北西から南東方向の遺構群で、8条の小溝で構成される。方向はN-84~90°-Eで、検出長1.18~30.25m、幅8~47cm、深さ3~12cmである。小溝の間隔は75cm程である。堆積土は単層である。遺物はⅠ-3から土師器の小破片が出土している。

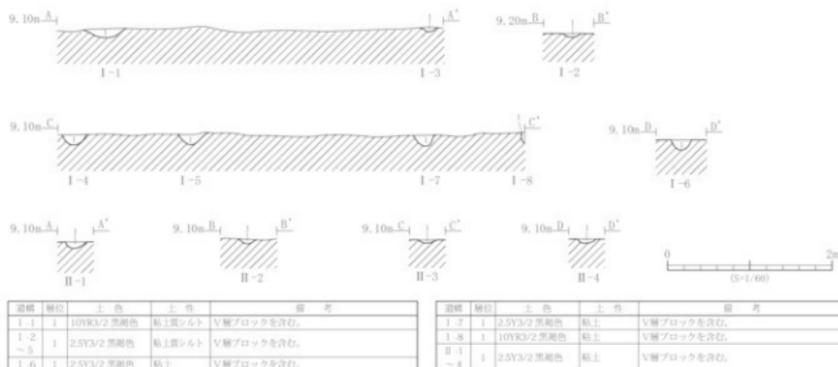
Ⅱ群(第5図、図版1) E350~390・N280~290グリッドで検出した北東から南西方向の遺構群で、4条の小溝で構成される。方向はN-76~87°-Wで、検出長1.40~8.20m、幅8~20cm、深さ3~7cmである。小溝の間隔は75cm程である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

4) ピット(第1図)

24基のピット(P1~24)を検出した。調査区全域に散漫な分布状況を示す。遺物はP8・10・24から土師器の小破片が出土している。

No.	発見番号	区	出土遺構	層位	種別	器種	口径×底径×高さ(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	E-1	1区東	SD2	1	須弥器	甕	×・×見80	平/タタキ	当て具痕(背面成文)		4.1

第2節 大野田遺跡1区東区

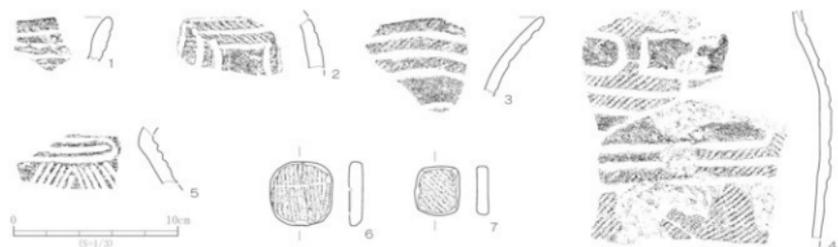


第5図 小溝状遺構群断面図

(2) 深掘区の調査(第1・6・7図、図版4)

深掘区は調査区内の東西2箇所に設定し、それぞれ東トレンチ・西トレンチとした。1.70m程掘り下げ基本層IX層まで確認したが、遺構は検出されず、基本層VI～VIII層の各層で、縄文土器片、土製品、石器、石製品が少量出土した。それらのうち、縄文土器5点、土製品2点、石器1点、石製品1点を第6・7図に図示した。

第6図1～5は縄文土器深鉢片である。1は横位の平行沈線間に刺突文が施文され、2～4は広義の磨消縄文手法により文様が施文される。5は頸部～肩部片で平行沈線文が施文される。6・7は縄文土器胴部片を素材とした土製円盤である。第7図1は石核である。打面転移を繰り返しながら剥片剥離作業が行われている。2は石皿である。大型で扁平な多孔質の安山岩を素材とし、敲打後に磨り整形されている。



%	発掘番号	区	遺構・グリッド	層位	種別	器種	文様等	備考	写真図版
1	A-2	1区東	西トレンチ	VI	縄文土器	深鉢	口縁部・底辺1線・沈線文・刺突文 内面・ミガキ		4-2
2	A-3	1区東	西トレンチ	VII	縄文土器	深鉢	胴部・沈線文・L線文 内面・ナデ		4-3
3	A-4	1区東	西トレンチ	VII	縄文土器	深鉢	口縁部・底辺1線・沈線文・L線文 内面・ナデ・ミガキ		4-4
4	A-5	1区東	西トレンチ	VII	縄文土器	深鉢	胴部・沈線文・L線文 内面・ミガキ		4-5
5	A-6	1区東	東トレンチ	VII	縄文土器	深鉢	胴部・沈線文 内面・ミガキ		4-5
%	発掘番号	区	遺構・グリッド	層位	種別	器種	文様等	備考	写真図版
6	P-1	1区東	東トレンチ	VI	土製品	土製円盤	縞線文	38×38×9mm 14.0g	4-7
7	P-2	1区東	東トレンチ	VI	土製品	土製円盤	縞線文	27×30×7mm 8.1g	4-8

第6図 深掘区出土遺物(1)

3. 1区西区の調査

1区西区では基本層IV層(古代の遺構検出面)において、土坑18基、溝跡1条、小溝状遺構群1群、ピット8基を検出した。基本層V層上面(古墳時代～古代の遺構検出面)において、土坑5基、溝跡3条、小溝状遺構群3群、ピッ



編	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種別	器種	石材	長さ×幅×厚さ (cm)	重さ (g)	備考	写真回数
1	Ka-m-1	1区東	西トレンチ	Ⅴ	打製石器	石核	土曜	3.6 × 4.7 × 4.1	55.7		4/9
2	Ka-f-1	1区東	東トレンチ	Ⅴ	石製品	石皿	丸山石	116.6 × 21.9 × 5.5 (3128.72)		成形石皿、上部欠損	4/10

第7図 深堀区出土遺物(2)

ト96基を検出した。ビットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なもの確認されなかった。ビットについては遺構配置図にのみ表示している。

(1) IV層検出の遺構と遺物(第8図)

1) 土坑

SK28土坑(第9図) E320・N290グリッドで検出した。平面形は不整な円形で、規模は径95cm、深さ42cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK34土坑(第9図) E330・N300グリッドで検出した。北側の調査区外に延びる。平面形・長軸方向共に不明であるが円形を基調としたものであると考えられる。検出した規模は東西80cm、南北42cm、深さ48cmで、壁面は東側が急角度に、西側は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物

は出土していない。

SK35 土坑 (第9図) E330・N300 グリッドで検出した。平面形は不整形で、長軸方向はN-39°-Eである。規模は長軸158cm、短軸56cm、深さ26～59cmで、壁面は北東側が急角度に、南西側が緩やかに立ち上がる。断面は北東側がビット状に落ち込む柄杓状で、底面は起伏がある。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK36 土坑 (第9図) E330・N300 グリッドで検出した。平面形は不整形楕円形で、長軸方向はN-37°-Eである。規模は長軸108cm、短軸47cm、深さ17cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK37 土坑 (第9図) E330・N300 グリッドで検出した。SK40と重複関係にあり、本遺構が新しい。西側を攪乱に削平されているが、平面形は円形を基調としたものと考えられる。長軸方向は不明である。検出した規模は東西36cm、南北100cm、深さ10cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形と思われ、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK40 土坑 (第9図) E330・N290～300 グリッドで検出した。SK37・41と重複関係にあり、本遺構が古い。西側を攪乱に削平されており、平面形・長軸方向共に不明である。検出した規模は東西56cm、南北138cm、深さ10～67cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形と思われ、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK41 土坑 (第9図) E330・N290～300 グリッドで検出した。SK40と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整形楕円形で、長軸方向はN-27°-Wである。規模は長軸58cm、短軸38cm、深さ39cmで、壁面は急角度で立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK45 土坑 (第9図) E330・N290 グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向は南北正方位である。規模は長軸104cm、短軸40cm、深さ35～44cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形状で、底面は段差があり、北側が南側より10cm低い。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK49 土坑 (第9図、図版2) E320～330・N290 グリッドで検出した布振り状の土坑である。西側の調査区外に延び、東側は攪乱に削平されている。平面形は不整形で、長軸方向はN-78°-Eである。検出した規模は長軸6.46m、短軸78cm、深さ10～86cmで、壁面は起伏を持ちながら緩やかに立ち上がる。断面形は不整形で、底面は凹凸が激しく、深さ30～60cm程のビット状の落ち込みが東西方向に並ぶ。堆積土は基本層V層をブロック状に含む黒褐色粘土質シルトを主体とし、13層に分層される。遺物は堆積土から土師器片が出土している。

SK53 土坑 (第10図) E320・N290 グリッドで検出した。平面形は不整形で、長軸方向はN-70°-Eである。規模は長軸144cm、短軸105cm、深さ29cmで、壁面はやや急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

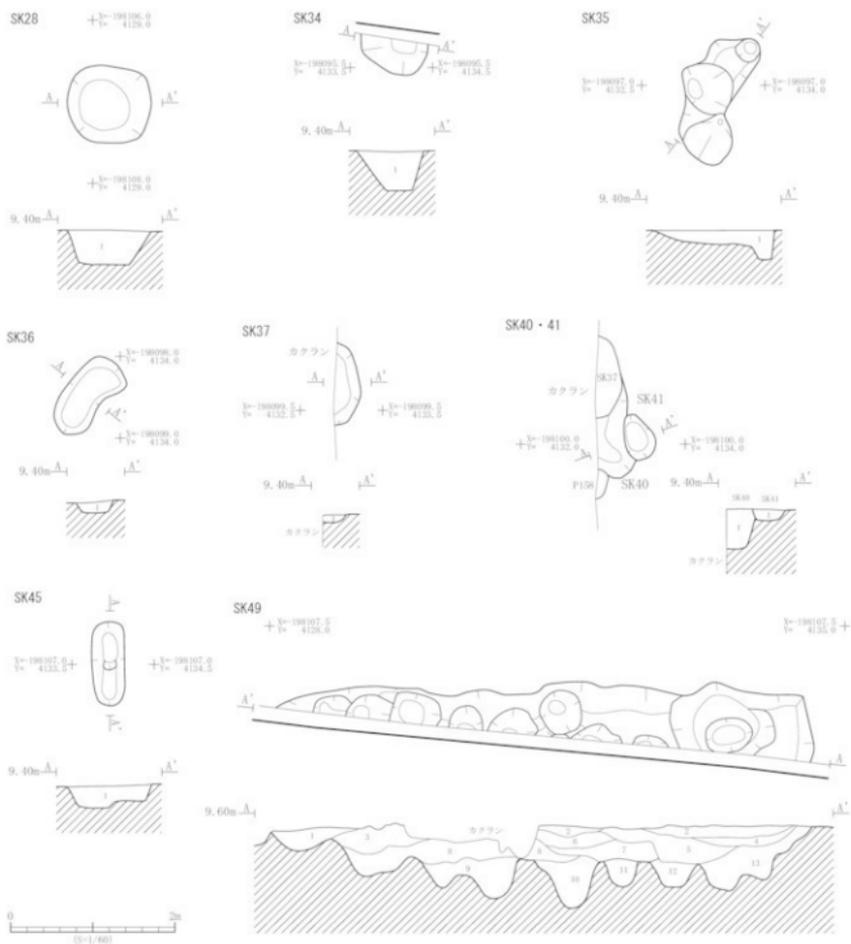
SK54 土坑 (第10図) E320・N290 グリッドで検出した。平面形は不整形で、長軸方向はN-69°-Eである。規模は長軸138cm、短軸72cm、深さ8～25cmで、壁面は緩やかに立ち上がり、北西側は一部テラス状となる。断面形は逆台形状で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK56 土坑 (第10図、図版2) E320・N290 グリッドで検出した。SK57、SD32と重複関係にあり、SK57より新しくSD32より古い。西側の調査区外に延びており、平面形・長軸方向共に不明である。検出した規模は東西40cm、南北111cm、深さ52cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は4層に分層される。遺物は出土していない。

SK57 土坑 (第10図) E320・N290 グリッドで検出した。SK56と重複関係にあり、本遺構が古い。西側の調査区外に延びており、平面形・長軸方向共に不明である。検出した規模は東西90cm、南北70cm、深さ24～41cmで、壁面は起伏を持ちながら急角度に立ち上がる。断面形は概ねU字形で、底面は概ね平坦である。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK59 土坑 (第10図、図版2) E320・N290～300 グリッドで検出した。SD32・61・63、P140と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形で、長軸方向はほぼ南北正方位である。検出した規模は東西53cm、南北4.51m、深さ31～71cmで、壁面は急角度に立ち上がる。底面は凹凸が激しく、ビット状に落ち込む箇所もみられる。堆積土は基本層V層をブロック状に含む黒褐色粘土ないし粘土質シルトを主体とし、13層に分層される。遺物は出

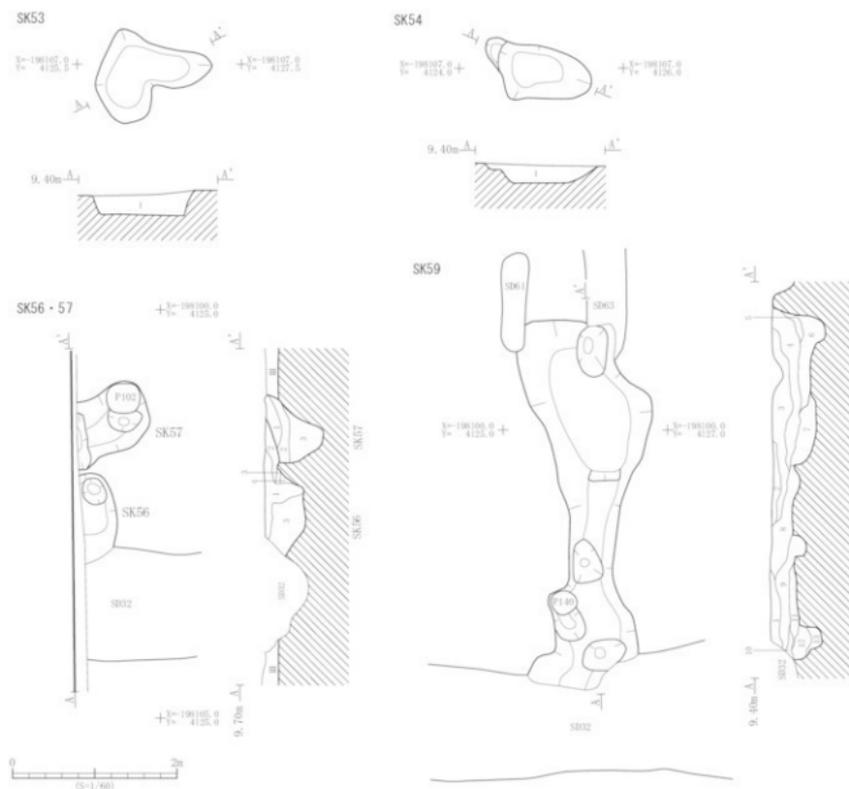
第2節 大野田遺跡1区西区



遺構	層位	土色	土性	備考
SK28	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
SK34	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
SK35	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
SK36	1	2.5Y4/1 黄褐色	粘土	V層ブロックを含む。
SK37	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
SK40	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
SK41	1	10YR5/2 灰黒褐色	粘土	
SK45	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
SK49	1	2.5Y4/1 黄褐色	シルト	V層ブロックを含む。粘性なし、締りあり。
SK49	2	10YR4/1 黄褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りあり。
SK49	3	10YR5/2 灰黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りあり。

遺構	層位	土色	土性	備考
SK49	4	10YR3/2 灰黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りあり。
	5	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りあり。
	6	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りあり。
	7	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りあり。
	8	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りあり。
	9	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りあり。
	10	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りあり。
	11	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りあり。
	12	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りあり。
	13	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり、締りあり。

第9図 SK 28・34～37・40・41・45・49土坑平面図・断面図



遺構	層位	土色	土質	備考
SK53	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	V解ブロックを含む。
SK54	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	V解ブロックを含む。
SK56	1	2.5Y3/2 灰黒褐色	粘土質シルト	V解粘土を含む。粘性あり。
	2	10YR4/2 灰黒褐色	粘土質シルト	V解ブロックを含む。粘性あり。縞りあり。
	3	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	V解ブロックを含む。粘性あり。縞りあり。
SK57	4	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	V解ブロックを含む。粘性あり。縞りあり。
	1	10YR4/1 黒灰色	粘土質シルト	V解ブロックを含む。粘性あり。縞りあり。
SK59	2	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	V解ブロックを含む。粘性あり。縞りあり。
	3	2.5Y3/2 黒褐色	粘土	V解ブロック、黒灰色粘土質シルトを含む。粘性あり。縞りあり。
	1	2.5Y3/2 黒灰色	粘土	V解ブロック、黒灰色粘土質シルトを含む。粘性あり。縞りあり。
SK59	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	V解ブロックを含む。粘性あり。縞りあり。
	3	10YR3/3 黒-黒褐色	粘土	V解ブロック、黒灰色粘土質シルトブロックを含む。粘性あり。縞りあり。

遺構	層位	土色	土質	備考
SK59	4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	V解ブロックを含む。粘性あり。縞りあり。
	5	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	V解ブロックを含む。粘性あり。縞りあり。
	6	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	V解ブロックを含む。粘性あり。縞りあり。
	7	10YR3/3 黒-黒褐色	粘土	V解ブロック、黒褐色粘土質シルトブロックを含む。粘性あり。縞りあり。
	8	10YR3/3 黒-黒褐色	粘土	V解ブロック、灰褐色粘土質シルトブロックを含む。粘性あり。縞りあり。
	9	10YR3/2 灰黒褐色	粘土	V解ブロック、黒褐色粘土質シルトを含む。粘性あり。縞りあり。
	10	10YR2/2 黒褐色	粘土	V解ブロックを含む。粘性あり。縞りあり。
	11	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	V解ブロックを含む。粘性あり。縞りあり。
	12	2.5Y3/1 黒褐色	粘土	V解粘土を含む。粘性あり。縞りあり。
	13	2.5Y4/2 黒灰色	粘土	V解ブロック、黒灰色粘土質シルトブロックを含む。粘性あり。縞りあり。

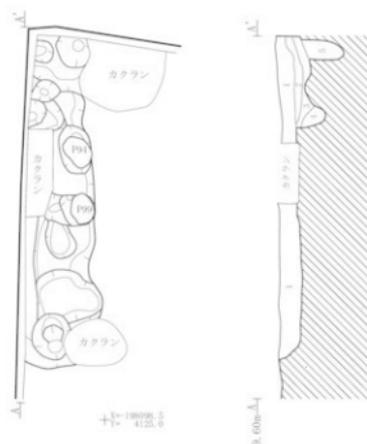
第10図 S K 53・54・56・57・59土坑平面図・断面図

土していない。

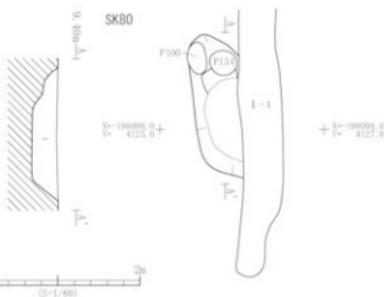
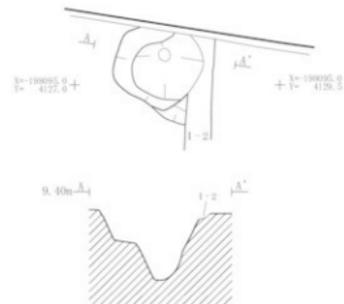
SK60土坑(第11図) E320・N300グリッドで検出した。P94・99と重複関係にあり、本遺構が古い。西側および北側の調査区外に延びており、平面形・長軸方向共に不明である。検出した規模は東西55cm、南北4.10m、深さ31～74cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。底面は凹凸が激しく、ピット状に落ち込む箇所もみられる。堆積土は5層に分層される。遺物は出土していない。

第2節 大野田遺跡1区西区

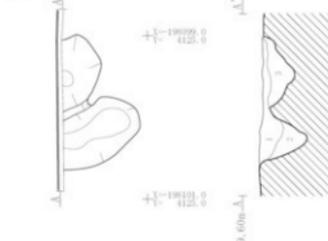
SK60 $\begin{matrix} +Y=19000.0 \\ -Y=4125.0 \end{matrix}$



SK71



SK81



遺構	層位	土色	土質	備考
SK60	1	10YR4/1黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性なし。餅りあり。
	2	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり。餅りあり。
	3	10R4/2灰黒褐色	V層ブロックを含む。	粘性あり。餅りあり。
	4	2.5Y3/2黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり。餅りなし。
5	10YR2/1黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり。餅りなし。	

遺構	層位	土色	土質	備考
SK80	1	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
	2	2.5Y4/2暗灰褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり。餅りあり。
SK81	1	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり。餅りあり。
	2	2.5Y3/2黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり。餅りあり。

第11図 SK 60・71・80・81土坑平面図・断面図

SK71土坑(第11図) E320・N300グリッドで検出した。小溝状遺構1-2と重複関係にあり、本遺構が古い。調査区の北側に延びており、平面形・長軸方向共に不明である。検出した規模は東西1.07m、短軸98cm、深さ87cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は漏斗状である。遺物は出土していない。

SK80土坑(第11図) E320・N300グリッドで検出した。小溝状遺構1-1、P100・134と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形・長軸方向共に不明である。検出した規模は東西55cm、南北1.62m、深さ60cmで、壁面は緩やかに立ち上がり、北側はテラス状となる。断面形は逆台形状で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK81土坑(第11図、図版2) E320・N290～300グリッドで検出した。西側の調査区外に延びており、平面

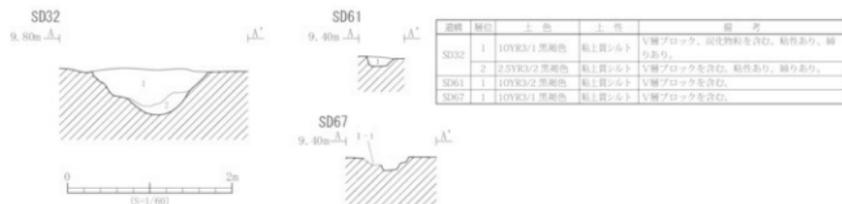
形は不整形で、長軸方向は不明である。検出した規模は東西95cm、南北1.52m、深さ39～57cmで、壁面は起伏を持ちながら緩やかに立ち上がる。底面は凹凸が激しく、土坑が南北に連なったように落ち込む。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

2) 溝跡

SD32 溝跡 (第12図、図版2) E320～330・N290グリッドで検出した。西側の調査区外に伸び、東側は攪乱に削平されている。SK56・59と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向はN-88°-Eで、検出長10.56m、幅76～164cm、深さ57cmである。断面形は概ねV字状である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から土師器の高坏脚部と思われる破片が出土している。

SD61 溝跡 (第12図) E320・S300グリッドで検出した。SK59と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向は南北正方位で、長さ1.19m、幅29～33cm、深さ9～12cmである。断面形は箱形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD67 溝跡 (第12図) E320・S300グリッドで検出した。北側の調査区外へ伸びる。小溝状遺構1-1と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-5°-Wで、検出長2.80m、幅28～32cm、深さ35～74cmである。断面形は漏斗形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

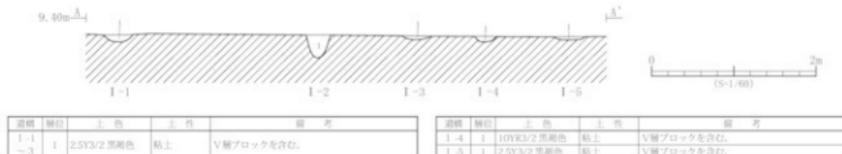


第12図 S D 32・61・67 溝跡断面図

3) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群で、1群を検出した。

1群 (第13図) E320～330・N300グリッドで検出した南北方向の遺構群で、5条の小溝で構成される。方向はほぼ南北正方位で、検出長0.22～5.75m、幅28～42cm、深さ4～41cmである。小溝の間隔は、50cm～2.0mである。堆積土は単層である。遺物は出土していない。



第13図 小溝状遺構群断面図

4) ビット (第8図)

8基のビット (P94・99・100～102・134・140・158) を検出した。調査区内に散漫な分布状況を示している。遺物は出土していない。

(2) V層検出の遺構と遺物 (第14図)

1) 土坑

SK21 土坑 (第15図) E330・N290グリッドで検出した。東側は攪乱により削平されている。平面形は楕円形

を基調としたものと推定され、東西方向に長軸を持つ。検出した規模は東西68cm、南北68cm、深さ28cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は堆積土から土師器環片が出土している。

SK29 土坑 (第15図) E330・N300グリッドで検出した。北側の調査区外へ延びる。平面形は不整形で、長軸方向は不明である。検出した規模は東西38cm、南北24cm、深さ15cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK30 土坑 (第15図) E330・N300グリッドで検出した。SD24と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形で、長軸方向は不明である。検出した規模は東西92cm、南北24cm、深さ36cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形、底面は緩ね平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK31 土坑 (第15図) E330・N300グリッドで検出した。SD24と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形で、長軸方向は不明である。検出した規模は東西63cm、南北32cm、深さ42cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK39 土坑 (第15図) E330・N300グリッドで検出した。平面形は円形で、規模は直径55cm、深さ13cmである。壁面は緩やかに立ち上がり、断面形は逆台形、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

3) 溝跡

SD22 溝跡 (第16図) E330・N300グリッドで検出した。方向はN-42°-Eで、長さ68cm、幅10～30cm、深さ13cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD23 溝跡 (第16図) E330・N290グリッドで検出した。方向はN-31°-Wで、長さ85cm、幅20～34cm、深さ8cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD24 溝跡 (第16・17図、図版2・4) E340～350・N280～300グリッドで検出した。南北および東西方向に「T」字状に延びる溝である。東・南・北側はいずれも調査区外へ延び、そのうち東側は本遺跡1区東区V層SD2に連続する。SK30・31、SD25・76・78、P2・7・21・63・78と重複関係にあり、各土坑および溝跡より新しく、各ビットより古い。方向は南北部分がN-1°-E、東西部分がN-88°-Eである。規模は、南北部分が検出長13.65m、幅1.42～3.10m、深さ58～132cm、東西部分が検出長12.02m、幅79～170cm、深さ41～68cmである。断面形は逆台形を基調とするが、分岐点付近の底面は東西部分では段差がつき、深くっており、南北部分では溝状あるいは土坑状に落ち込む箇所もみられる。堆積土は3層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器、土師器、須恵器、石器が出土しており、第16図に土師器1点、礫石器2点を図示した。1は土師器環である。平底状の底部から膨らみを持つ体部へと緩やかに内弯し、口縁部上端がわずかに外反して口唇部にいたる。内外面共にヘラミガキが施され、内面は黒色処理される。2・3は礫石器である。共に複数の面が使用されており、2は磨面と敲打痕が、3は磨面と敲打の累積による凹痕と敲打痕が複合して観察される。

SD25 溝跡 (第16図、図版2) E340～350・N300グリッドで検出した。北側の調査区外へ延び、南側はSD24の東西部分と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-1°-Eで、約3.8m西に位置するSD24の南北部分と並行する位置関係にある。検出長3.10m、幅50～110cm、深さ25～35cmである。断面形は逆台形である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

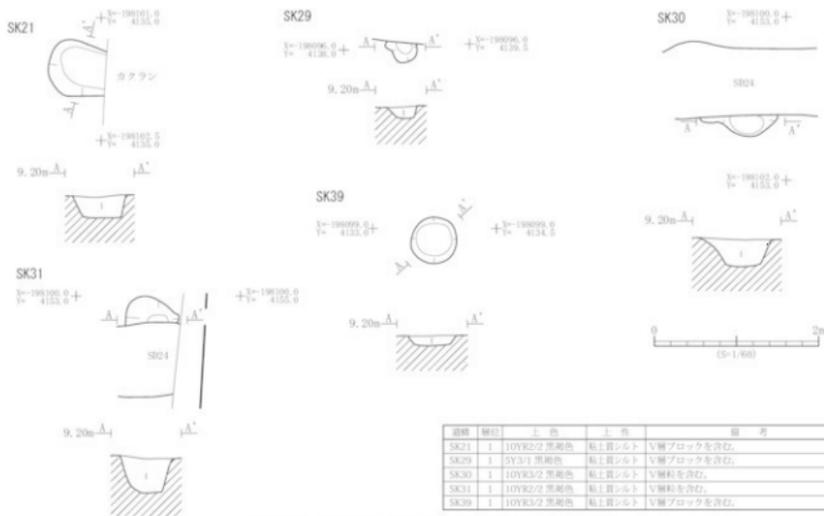
SD26 溝跡 (第16図) E350・N290グリッドで検出した。方向はN-39°-Wで、長さ63cm、幅19～25cm、深さ11～17cmである。断面形は箱形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD27 溝跡 (第16図) E330・N300グリッドで検出した。南北方向の溝で北側は調査区外へ延びる。調査区内では大部分が掘削で削平されており、東辺の一部のみが遺存する。検出長3.52m、幅22cm、深さ22cmである。断面形は不明である。堆積土は単層である。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

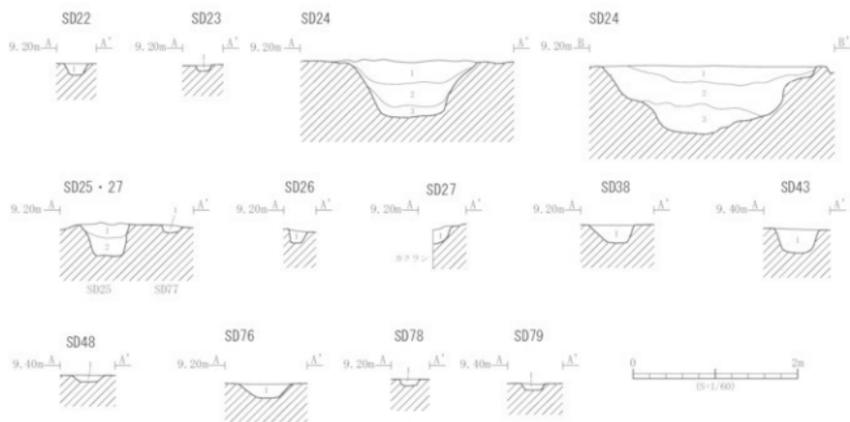
SD38 溝跡 (第16図) E330・N300グリッドで検出した。北側と南東側の一部を掘削により削平されている。方向はN-79°-Eで、検出長62cm、幅23～27cm、深さ22cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD43 溝跡 (第16図) E330・N290グリッドで検出した。西側を掘削により削平されている。小溝状遺構Ⅱ-7

第2節 大野田遺跡1区西区



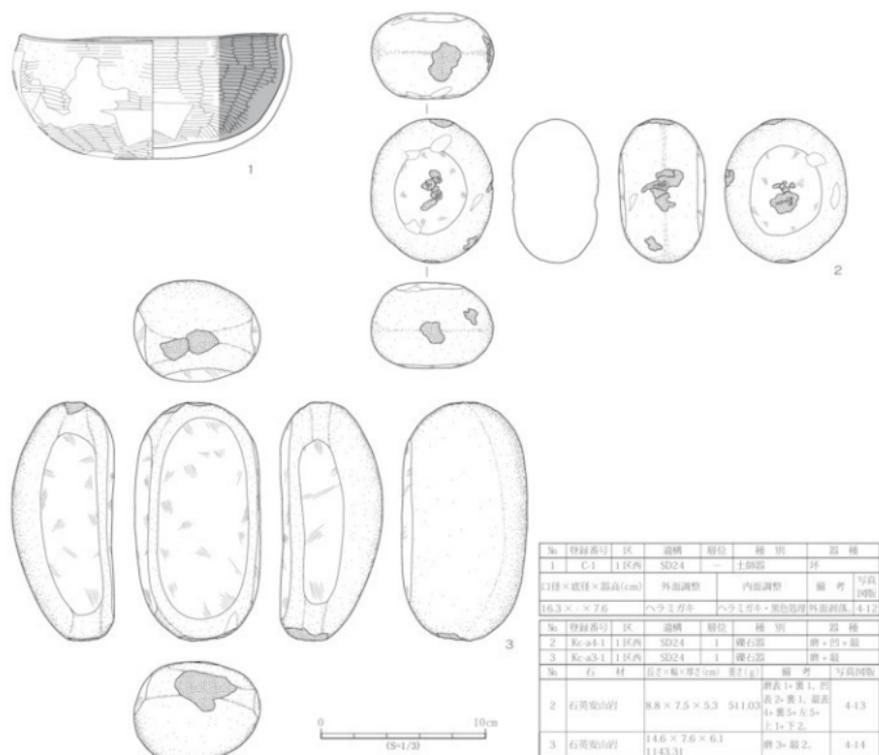
第15図 SK 21・29～31・39 土坑平面図・断面図



遺構	層位	土色	土性	備考
SD22	1	2.5Y3/2 黒褐色	粘土	V層料を含む。
SD23	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
SD24	1	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	灰白色心土を和状に含む。
SD25	3	5Y3/2 オリーブ褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり。締りあり。
SD25	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	粘性あり。
SD25	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。粘性あり。
SD26	1	7.5Y3/2 オリーブ褐色	粘土	V層料を含む。

遺構	層位	土色	土性	備考
SD27	1	5Y3/1 オリーブ褐色	粘土質シルト	炭化料を含む。粘性あり。
SD28	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	V層ブロック、炭化物を含む。
SD43	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
SD48	1	10YR4/1 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
SD76	1	5Y3/2 オリーブ褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
SD77	1	2.5Y4/1 オリーブ褐色	粘土質シルト	
SD78	1	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
SD79	1	10YR4/1 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。

第16図 SD 22～27・38・43・48・76～79 溝跡断面図



第17図 SD 24 溝跡出土遺物

と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向はほぼ東西で、検出長43cm、幅55cm、深さ29cmである。断面形は逆台形である。遺物は出土していない。

SD48 溝跡(第16図) E320～330・N290グリッドで検出した。南北両側を覆乱に削平されている。方向はN-36°-Eで、わずかに弧状となる。検出長1.14m、幅37～42cm、深さ8cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD76 溝跡(第16図、図版2) E340・N290グリッドで検出した。SD24、P55と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-36°-Eで、わずかに弧状となる。検出長4.12m、幅62～75cm、深さ18～26cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD77 溝跡(第16図) E350・N300グリッドで検出した。北側の調査区外へ延びる。方向はN-21°-Eで、検出長40cm、幅28～35cm、深さ13cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD78 溝跡(第16図) E340・N290グリッドで検出した。SD24と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-55°-Wで、検出長45cm、幅28～35cm、深さ8cmである。断面形は箱形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD79 溝跡(第16図) E320・N300グリッドで検出した。北側を覆乱により削平されている。方向はN-3°-Wで、検出長75cm、幅25～29cm、深さ8cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は出土してい

ない。

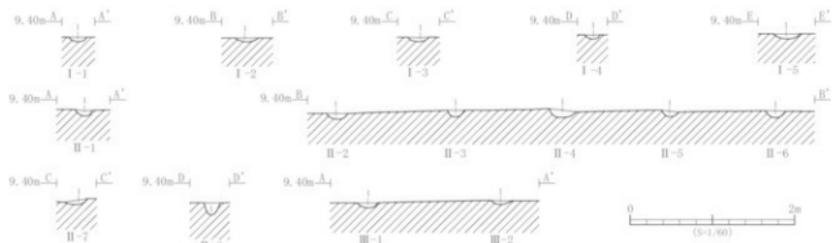
4) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群で、方向と重複関係からⅠ～Ⅲ群に分けられる。また、重複関係からⅢ群→Ⅱ群→Ⅰ群の変遷がたどれる。

Ⅰ群(第18図) E320・N290～300グリッドで検出した東西方向の遺構群で、5条の小溝で構成される。方向はN-74～88°-Eで、検出長0.85～4.09m、幅8～38cm、深さ3～22cmである。小溝の間隔は1.0～5.0mである。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

Ⅱ群(第18図) E320～330・N290～300グリッドで検出した北西から南東方向の遺構群で、8条の小溝で構成される。方向はN-3～25°-Wで、検出長1.95～6.28m、幅17～32cm、深さ7～15cmである。小溝の間隔は80cm～2.0mである。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

Ⅲ群(第18図) E320・N300グリッドで検出した北西から南東方向の遺構群で、2条の小溝で構成される。方向はN-21～23°-Wで、検出長2.46～4.38m、幅20～32cm、深さ6～9cmである。小溝の間隔は1.30mである。



遺構	層位	土色	土質	備考
I-1	1	25Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
I-2	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
I-3	1	10YR4/2 灰黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
I-4	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
I-5	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
II-1	1	10YR4/2 灰黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
II-2	1	10YR4/2 灰黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。

遺構	層位	土色	土質	備考
II-3	1	10YR4/2 灰黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
II-4	1	10YR4/2 灰黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
II-5	1	10YR4/2 灰黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
II-6	1	10YR4/2 灰黒褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
III-1	1	10YR3/1 赤褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。
III-2	1	10YR3/2 赤褐色	粘土質シルト	V層ブロックを含む。

第18図 小溝状遺構群断面図

堆積土は単層である。遺物は出土していない。

5) ビット(第14図)

96基のビット(P25～93・95～98・103～133・135～139・141～157・159～186)を検出した。調査区全域に散漫な分布状況を示す。遺物はP28から須恵器環底部片、P161から微細刺痕のある刮片1点が出土している。

(3) 遺構外出土遺物(第19図)

V層上面検出遺構および基本層VIII層から出土した縄文土器5点を第19図に図示した。いずれも深鉢の破片資料で



編	図録番号	区	層位	遺構・グリッド	種別	器種	文様等	備考	写真図版
1	A-7	1区西	V	SD24	縄文土器	深鉢	口縁部・底面1線・沈線文・条線文・内面・ナデ		5-14
2	A-9	1区西	Ⅷ	-	縄文土器	深鉢	胴部・沈線文・L形縄文・内面・ミ字弁	内外面磨滅	5-15
3	A-8	1区西	Ⅷ	-	縄文土器	深鉢	胴部・沈線文・L形縄文・内面・ナデ・ミ字弁		5-16
4	A-10	1区西	Ⅷ	-	縄文土器	深鉢	胴部・縄文ワ・ミ字弁・内面・ミ字弁	胴上に金雲母片入	5-17
5	A-1	1区西	V	SD27	縄文土器	深鉢	胴下縁・L形縄文・底面・ミ字弁・内面・ナデ・ミ字弁		5-18

第19図 遺構外出土遺物

ある。1は波状口縁であり、口縁部に沿うように刺突文が施文される。

4. まとめ

大野田遺跡は仙台市太白区大野田字袋前にあり、自然堤防に立地する縄文時代～古代の遺跡である。平成20年度に約839㎡の調査が行われ、古代の遺構群が検出された。

(1) 遺構について

1) 古代の遺構は基本層IV層およびV層上面で検出された。

1区東区V層—竪穴遺構1基、溝跡1条、小溝状遺構群2群、ビット24基

1区西区IV層—土坑18基、溝跡1状、小溝状遺構群1群、ビット8基

1区西区V層—土坑5基、溝跡3条、小溝状遺構群3群、ビット96基

2) 1区東区V層SD2と1区西区V層SD24は同一の溝跡であり、規模や方向等から区画的性格を持つ施設の可能性が考えられる。

3) 両調査区から小溝状遺構群が検出されており、調査区周辺には畑が広がっていたと考えられる。

(2) 遺物について

大野田遺跡からの出土遺物は平箱3箱である。全体として小破片が多く、図化できる遺物は少ない。

1) 縄文時代

基本層VI～VIII層から後期の深鉢および壺片が出土している。石器・石製品は、石核、礫石器、石皿が出土している。

2) 古墳時代

1区西区IV層SK53から前期の土師器高環脚部片が出土している。

3) 古代

1区東区V層SD2から須恵器甕片、1区西区SD24堆積土から土師器（非口クロ）の内黒環が出土している。8世紀前葉頃の遺物である。

第1表 遺構一覧表(1)

1区東区V層
竪穴遺構

遺構番号	位置(グリッド)	方向	規模(m)	平面形・断面形	時期
SD1	E370・N290	N3°・W	東西3.27×南北2.99×壁高0.55	不整幾何方形(北東部に張り出し)・箱形	
溝跡					
遺構番号	位置(グリッド)	方向	規模(m)	平面形・断面形	時期
SD2	E350～360・N290	N87°・E	長さ18.42×幅0.82～1.62×深さ0.46	(ほぼ直線)・U字形	
SD19	E350・N290	N12°～53°・E	長さ2.20×幅0.20～0.24×深さ0.07～0.13	弧状・U字形	
SD20	E350～360・N290	N43°・E	長さ1.46×幅0.20～0.24×深さ0.06～0.09	弧状・U字形	
小溝状遺構群					
遺構番号	位置(グリッド)	方向	規模(m)	平面形・断面形	時期
I-1	E350～390・N270～290	N85°～88°・W	長さ27.35×幅0.25×0.47×深さ0.12	ほぼ直線・U字形	
I-2	E350～390・N270～290	N84°～90°・W	長さ12.60×幅0.13～0.28×深さ0.03	ほぼ直線・U字形	
I-3	E380～390・N280	N85°・W	長さ30.25×幅0.22～0.35×深さ0.05	ほぼ直線・U字形	
I-4	E380～390・N280	N85°・W	長さ5.25×幅0.25～0.34×深さ0.12	ほぼ直線・U字形	
I-5	E380～390・N280	N84°・W	長さ3.75×幅0.27～0.34×深さ0.12	ほぼ直線・U字形	
I-6	E380・N280	N87°・W	長さ11.80×幅0.23～0.27×深さ0.12	ほぼ直線・U字形	
I-7	E380～390・N290	N84°・W	長さ2.06×幅0.26～0.32×深さ0.14	ほぼ直線・U字形	
I-8	E390・N270	N86°・W	長さ11.08×幅0.28～0.35×深さ0.12	ほぼ直線・U字形	
II-1	E350～390・N280～290	N79°～86°・E	長さ18.20×幅0.08～0.35×深さ0.07	ほぼ直線・U字形	
II-2	E380～390・N290	N87°・E	長さ16.65×幅0.15～0.32×深さ0.05	ほぼ直線・U字形	
II-3	E370・N280	N86°・E	長さ2.22×幅0.20～0.25×深さ0.03	ほぼ直線・U字形	
II-4	E380・N280	N79°・E	長さ11.40×幅0.15～0.23×深さ0.05	ほぼ直線・U字形	

第2節 大野田遺跡

第2表 遺構一覧表(2)

1区西区V層
土坑

遺構番号	位置(グリッド)	長軸方向	規模(m)	平面形・断面形	時期
SK28	E320-N300	-	径95×深さ42	円形・遊形形	
SK34	E330-N300	-	径147×東西180×深さ48	方形・遊形形	
SK35	E330-N300	N39°E	長軸158×短軸56×深さ26～59	不整形・遊形形	
SK36	E330-N300	N37°E	長軸108×短軸47×深さ17	不整形形・遊形形	
SK37	E330-N300	-	東西360×南北1100×深さ30	不明・遊形形	
SK40	E330-N290-300	-	東西360×南北1380×深さ30～67	不明・遊形形	
SK41	E330-N290-300	N27°W	長軸58×短軸38×深さ39	不整形直線形・遊形形	
SK45	E330-N290	南北	長軸104×短軸40×深さ35～44	楕円形・遊形形	
SK49	E320-N330-N290	N78°E	長軸104倍×短軸178倍×深さ10～86	不明・凹凹しい	
SK53	E320-N290	N70°E	長軸140×短軸105×深さ27	不整形・遊形形	
SK54	E320-N290	N69°W	長軸138×短軸72×深さ8～25	不整形・遊形形	
SK56	E320-N290	-	東西40×南北111×深さ52	不明・遊形形	
SK57	E320-N290	-	東西90×南北71×深さ24～41	不明・U字形	
SK59	E320-N290-300	ほぼ南北	東西53×南北451×深さ31～71	不整形・凹凹しい	
SK60	E320-N300	-	東西55×南北410×深さ31～74	不整形・凹凹しい	
SK71	E320-N300	-	東西1107×南北198×深さ87	不明・扁平状	
SK80	E320-N300	-	東西155×南北162×深さ60	不明・遊形形	
SK81	E320-N290-300	-	東西195×南北152×深さ39～57	不整形・凹凹しい	

溝

遺構番号	位置(グリッド)	方向	規模(m)	平面形・断面形	時期
SD32	E320-N300-N290	N88°E	長さ110.5倍×幅0.76～1.64×深さ0.57	ほぼ直線形・V字状	
SD61	E320-N300	南北	長さ1.19×幅0.28～0.32×深さ0.09～0.12	直線・箱形	
SD67	E320-N300	N5°W	長さ12.89倍×幅0.28～0.32×深さ0.35～0.75	直線・扁平形	

小規模遺構

遺構番号	位置(グリッド)	方向	規模(m)	平面形・断面形	時期
1-1	E320-N300	ほぼ南北	長さ15.75倍×幅0.32～0.42×深さ0.22～0.30	直線・U字形	
1-2	E320-N300	ほぼ南北	長さ11.30倍×幅0.30～0.33×深さ0.19～0.41	直線・U字形	
1-3	E320-N300	ほぼ南北	長さ10.32倍×幅0.32～0.37×深さ0.06	不明・U字形	
1-4	E330-N300	ほぼ南北	長さ10.22倍×幅0.26～0.28×深さ0.24	不明・U字形	
1-5	E330-N330	ほぼ南北	長さ10.28倍×幅0.32～0.37×深さ0.04	不明・扁平状	

1区西区V層
土坑

遺構番号	位置(グリッド)	長軸方向	規模(m)	平面形・断面形	時期
SK21	E330-N290	東西	東西168×南北168×深さ28	(楕円形)箱形・遊形形	
SK29	E330-N300	-	東西380×南北124×深さ15	不整形・遊形形	
SK30	E350-N290	-	東西192×南北125×深さ36	不整形・遊形形	
SK31	E350-N290	-	東西163×南北132×深さ42	不整形・遊形形	
SK39	E330-N300	-	径55×深さ13	円形・遊形形	

溝

遺構番号	位置(グリッド)	方向	規模(m)	平面形・断面形	時期
SD22	E330-N300	N42°E	長さ0.68×幅0.10～0.30×深さ0.13	不整形・遊形形	
SD23	E340-N290	N31°E	長さ0.85×幅0.20～0.32×深さ0.08	直線・遊形形	
SD24	E340-N350-N280-300	N1°E, N88°E	南北:長さ113.65倍×幅1.42～3.10×深さ0.58～1.32 東西:長さ12.02倍×幅0.79～1.70×深さ0.41～0.68	T字形・遊形形	
SD25	E340-N350-N280-300	N1°E	長さ13.18倍×幅0.50～1.10×深さ0.25～0.35	ほぼ直線形・遊形形	
SD26	E350-N290	N39°W	長さ0.63×幅0.19～0.25×深さ0.11～0.17	ほぼ直線形・箱形	
SD27	E330-N300	南北	長さ13.25倍×幅10.22倍×深さ0.22	ほぼ直線形・不明	
SD38	E330-N300	N79°E	長さ0.62×幅0.23～0.27×深さ0.22	ほぼ直線形・遊形形	
SD43	E330-N290	ほぼ東西	長さ10.43倍×幅0.55×深さ0.29	不明・遊形形	
SD48	E320-N330-N290	N36°E	長さ11.41倍×幅0.37～0.42×深さ0.08	わずかに扁平・遊形形	
SD76	E340-N290	N36°E	長さ14.12倍×幅0.62～0.75×深さ0.18～0.26	わずかに扁平・遊形形	
SD77	E350-N300	N21°E	長さ10.4倍×幅0.28～0.35×深さ0.13	不明・遊形形	
SD78	E340-N290	N55°W	長さ10.45倍×幅0.20～0.25×深さ0.08	不明・箱形	
SD79	E320-N300	N3°W	長さ10.75倍×幅0.25～0.29×深さ0.08	直線・遊形形	

小規模遺構

遺構番号	位置(グリッド)	方向	規模(m)	平面形・断面形	時期
1-1	E320-N300	N84°E	長さ10.85倍×幅0.21～0.22×深さ0.12	直線・U字形	
1-2	E320-N300	東西	長さ10.65倍×幅0.29～0.32×深さ0.04	直線・U字形	
1-3	E320-N300	N74°E	長さ10.88倍×幅0.22～0.28×深さ0.16～0.22	直線・U字形	
1-4	E320-N290	N86°E	長さ11.63倍×幅0.08～0.23×深さ0.03～0.08	直線・U字形	
1-5	E330-N290	N88°E	長さ14.09倍×幅0.25～0.38×深さ0.06～0.11	直線・U字形	
B-1	E320-N290	N25°W	長さ11.95倍×幅0.17～0.25×深さ0.07～0.10	楕円・U字形	
B-2	E320-N290	N19°W	長さ14.08倍×幅0.22～0.32×深さ0.11	ほぼ直線形・U字形	
B-3	E330-N290	N19°W	長さ16.28倍×幅0.21～0.31×深さ0.09	ほぼ直線形・U字形	
B-3	E320-N300	N15°W	長さ13.79倍×幅0.23～0.31×深さ0.09	ほぼ直線形・U字形	
B-4	E330-N300	N16°W	長さ12.20倍×幅0.25～0.32×深さ0.11	ほぼ直線形・U字形	
B-5	E320-N290	N16°W	長さ12.07倍×幅0.17～0.25×深さ0.07	ほぼ直線形・U字形	
B-6	E320-N290	N13°W	長さ12.75倍×幅0.23～0.32×深さ0.07～0.13	ほぼ直線形・U字形	
B-7	E320-N290	N19°W	長さ15.45倍×幅0.21～0.28×深さ0.07	ほぼ直線形・U字形	
B-8	E330-N300	N3°W	長さ13.88倍×幅0.17～0.25×深さ0.09～0.15	直線・U字形	
III-1	E330-N300	N21°W	長さ14.38倍×幅0.79～0.30×深さ0.06～0.09	楕円・U字形	
III-2	E330-N300	N23°W	長さ12.46倍×幅0.22～0.32×深さ0.07	楕円・U字形	

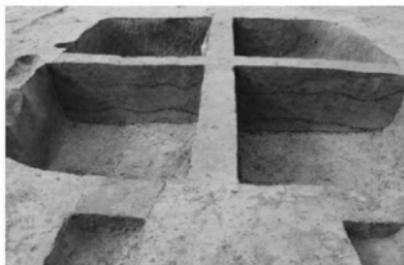
大野田遺跡写真図版



1区東区V層全景（東より）



1区東区V層S11（北より）



1区東区V層S11断面（東より）



1区東区V層SD2（西より）



1区西区西端部IV層遺構横状状況（南より）

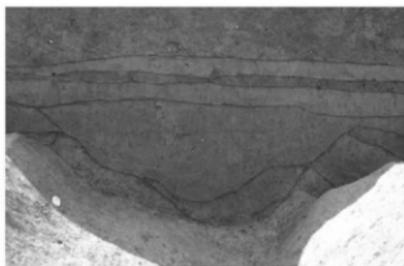


1区西区IV層SK49（南東より）

写真図版1 大野田遺跡（1）



1区西区IV層SK81 (南東より)



1区西区IV層SD32断面 (東より)



1区西区V層SD24・25・76 (東より)



1区西区V層SD24・25・76 (南西より)



1区西区V層SD24 (南より)



1区西区V層SD24断面A (南より)

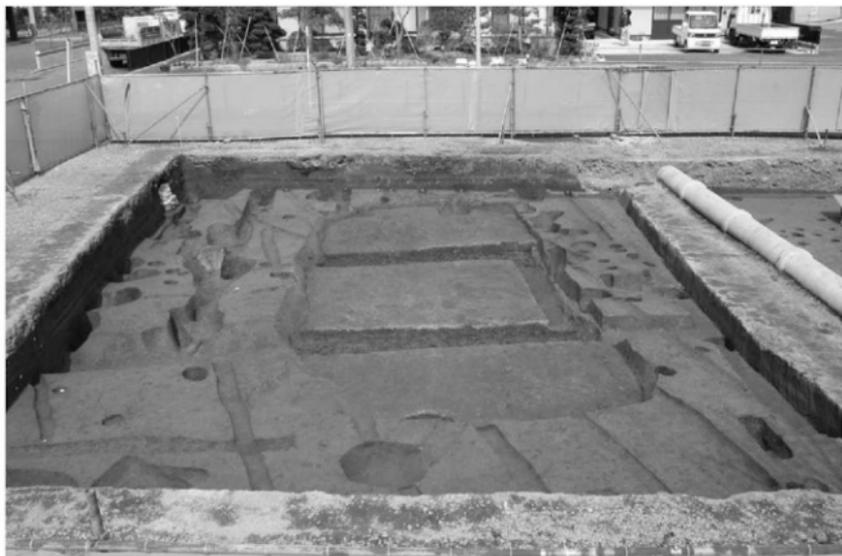


1区西区V層SD24断面B (北より)

写真図版2 大野田遺跡 (2)

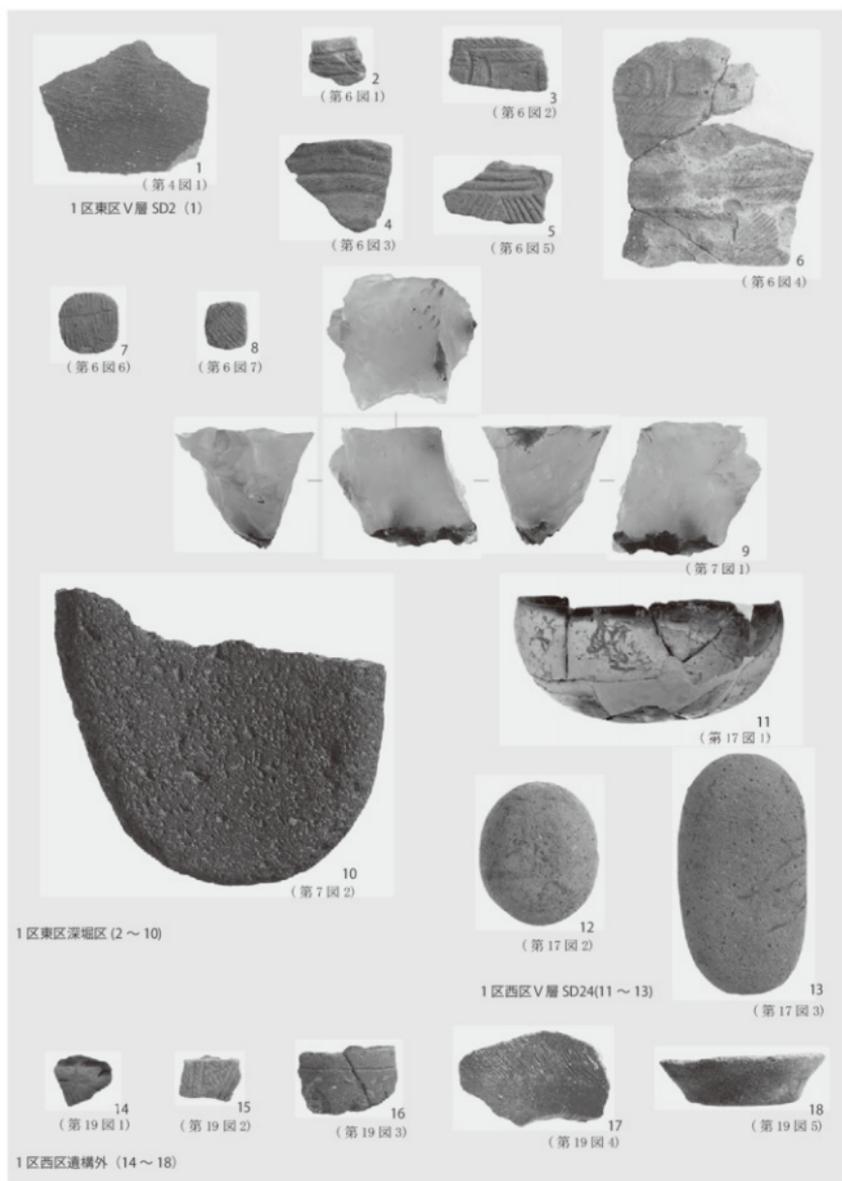


1区西区東半部V層全景（南より）



1区西区V層西半部全景（南より）

写真図版3 大野田遺跡（3）



写真図版4 大野田遺跡出土遺物

第3節 元袋遺跡

1. 調査要項

- (1) 遺跡名：元袋遺跡（宮城県遺跡登録番号01179）
- (2) 所在地：仙台市太白区大野田字元袋
- (3) 調査面積：約122㎡（3A・3B区）
- (4) 調査主体：仙台市教育委員会
- (5) 調査担当：仙台市教育委員会文化財課
- (6) 担当職員：小泉博明・廣瀬真理子
- (7) 調査期間
 （野外調査）：平成20年6月10日～12月10日
 （整理作業）各調査終了後に基礎整理を行い、以下の期間で最終整理を実施した。
 ・平成22年度：平成22年10月8日～平成23年3月31日
 ・平成23年度：平成23年9月22日～平成24年3月30日
 ・平成24年度：平成24年6月21日～平成25年3月29日

2. 3A区の調査

3A区では基本層V層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、土坑3基、河川跡1条、ピット1基を検出した。

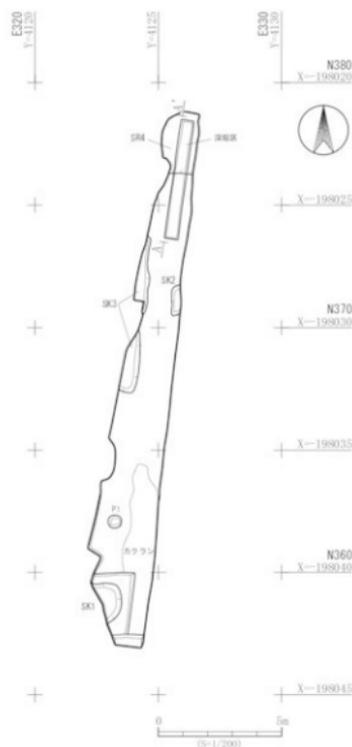
（1）V層上面の遺構（第1図・図版1）

1）土坑

SK1土坑（第2図、図版1）E320・N350グリッドで検出した。西側の調査区外へ延びる。平面形は不明である。検出した規模は東西68cm、南北1.48m、深さ30cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は中央がやや窪む。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

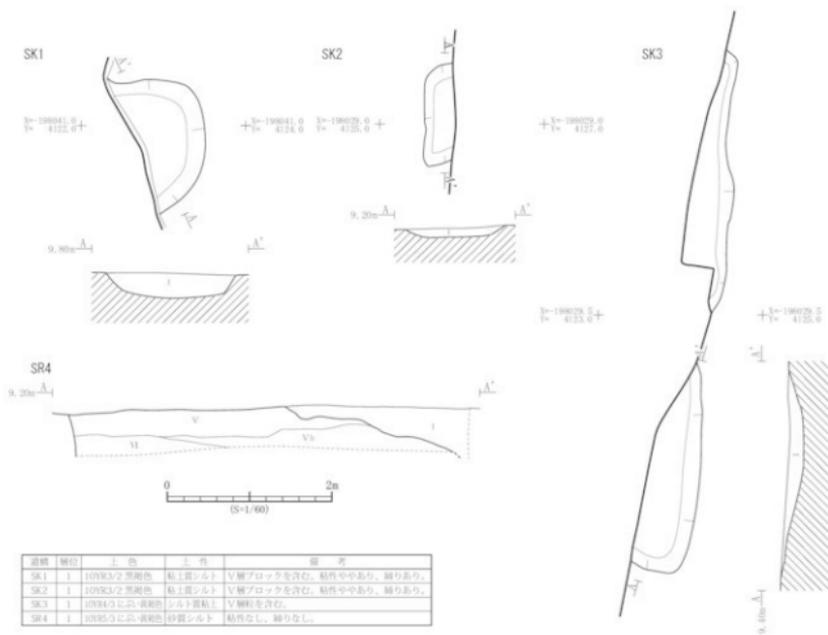
SK2土坑（第2図）E320・N370グリッドで検出した。東側の調査区外へ延びる。平面形は不明である。検出した規模は東西37cm、南北1.20m、深さ10cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK3土坑（第2図）E320・N360～370グリッドで検出した。西側の調査区外へ延びる。平面形は不明である。検出した規模は東西58cm、南北6.42m、深さ19cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形状で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。



第1図 元袋遺跡3A区V層遺構配置図

第3節 元袋遺跡3B区



第2図 SK1～3土坑平面図・断面図、SR4河川跡断面図

2) 河川跡

SR4 河川跡 (第1・2図) E320・N370 グリッドで検出した。方向は概ね東西方向で、検出した規模は東西1.42m、南北2.52mで、検出面から深さ70cmまで掘り下げを行った。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

3) ビット (第1図)

1基 (P1) 検出した。遺物は出土していない。

2.3 B区の調査

3 B区では基本層V層上面 (古墳時代～古代の遺構検出面) において、竪穴住居跡1軒、土坑1基、性格不明遺構1基、溝跡4条、ビット10基を検出した。ビットは建物跡等の組み合わせを検討したが、明瞭なものは確認されなかった。

(1) V層上面の遺構と遺物 (第3図、図版1)

1) 竪穴住居跡

SI1 竪穴住居跡 (第4・5図、図版1・2)

[位置] E260・N340～350 グリッドで検出した。検出したのは東壁の一部のみであり、大部分が調査区外に延びる。

[重複関係] SX7と重複関係にあり、本遺構が新しい。

[規模・形態] 検出した規模は東西1.36m、南北3.44mで、平面形は方形を基調としたものと考えられる。周溝や柱穴は検出されていない。

[主軸方位] カマド基準でN-86°-Eである。

[堆積土・構築土] 8層に分割した。1層は住居跡堆積土、2～7層はカマド関連層位、8層は掘り方土である。



E290
Y-1090

Y-1085

E280
Y-1080

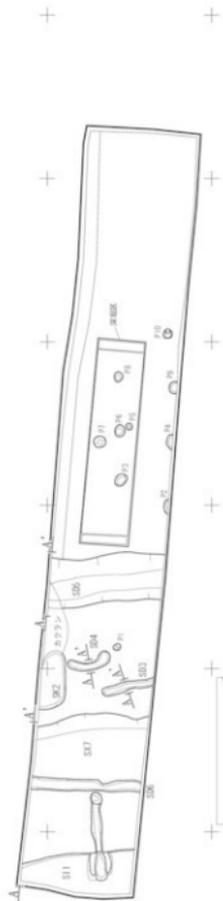
Y-1075

E270
Y-1070

Y-1065

E260
Y-1060

X-159045



X350
Y-159030

X-158955



X340
Y-158960

第3図 元袋遺跡3B区V層遺構配置図

第3節 元袋遺跡3B区

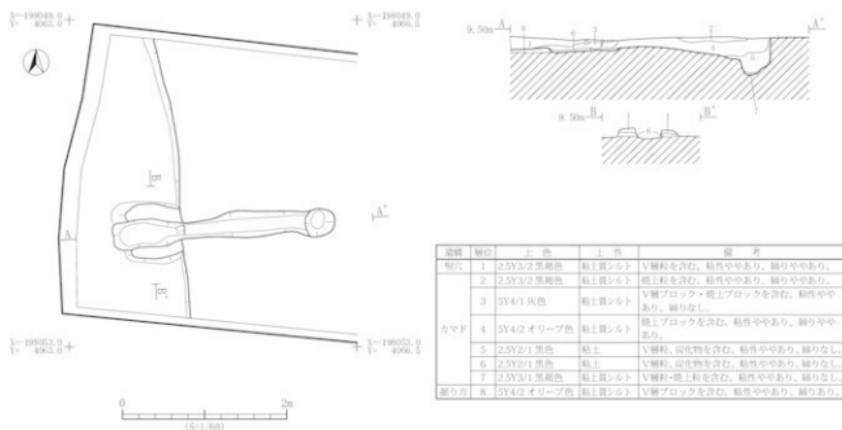
[壁面] 床面から急角度で立ち上がり、壁高は西壁で床面から22cmである。

[床面] 8層上面を床面としている。

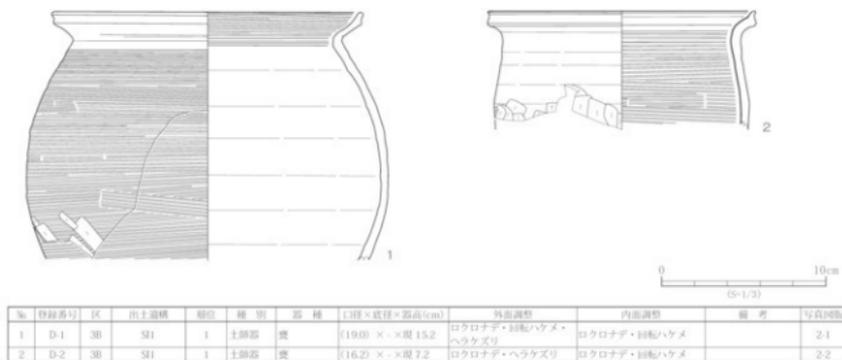
[カマド] 東壁に付設されている。両袖部は壁面から並行して延び、北側袖部は長さ75cm、幅24cm、床面からの高さ11cm、南側袖部は長さ76cm、幅13～21cm、床面からの高さ10cmである。燃焼部は奥行き87cm、幅36cmを測る。煙道部は長さ1.83m、幅20～34cm、深さ10～46cmで、底面は煙出し部に向かって緩やかに傾斜する。煙出し部は煙道部底面から直径35cm、深さ19cmのピット状に落ち込み、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

[掘り方] 深さ5cmで、検出した部分において底面は概ね平坦である。

[出土遺物] 堆積土から土師器、須恵器片が出土しており、そのうち土師器2点を第5図に図示した。1・2は共に1層から出土したロクロ整形の土師器甕である。これらの土師器の特徴や出土層位から、本住居跡の年代は9～10世紀代と考えられる。



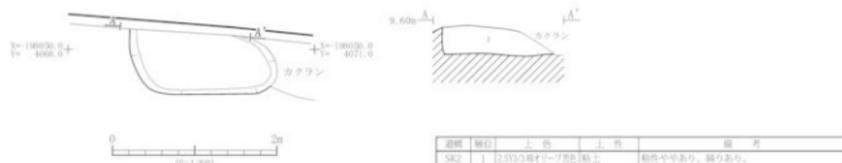
第4図 S11 竪穴住居跡平面図・断面図



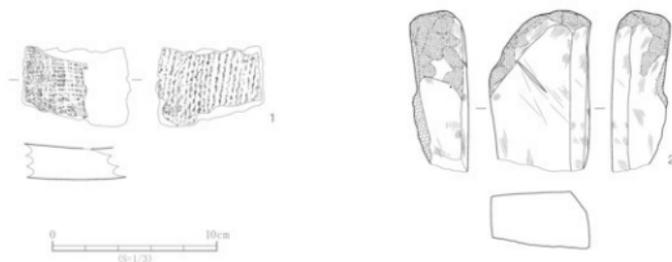
第5図 S11 竪穴住居跡出土遺物

2) 土坑

SK2 土坑 (第6・7図、図版2) E260・N340～350 グリッドで検出した。北側の調査区外へ延び、東側は掘乱により削平されているが、平面形は不整形と推定される。検出した規模は東西1.74m、南北78cm、深さ33cmで、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。断面形は箱形で、底面はやや起伏がみられる。堆積土は単層である。遺物は堆積土から弥生土器、土師器、須恵器等が出土し、のうち瓦と石製品各1点を第7図に図示した。1は凹面に布目痕、凸面に縄タタキ目のある平瓦片である。2は面取り加工された砥石である。広範囲に砥面よりも新しい敲打痕が観察されることから、敲石に転用されたものと考えられる。



第6図 SK2土坑平面図・断面図

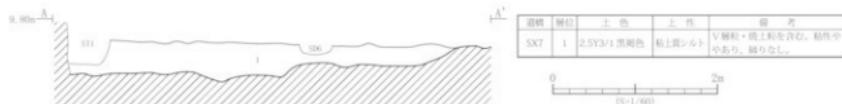


No.	発見番号	区	出土遺構	層位	種別	器種	長さ×幅×厚さ(cm)	凹面調整	凸面調整	備考	写真掲載
1	G-1	3B	SK2	1	瓦	平瓦	(4.9) × (6.5) × 2.0	布目痕	縄目痕明瞭		2-3
No.	発見番号	区	出土遺構	層位	種別	器種	石材	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備考	写真掲載
2	Kd-a-1	3B	SK2	1	石製品	砥石	砂質黒色頁	(9.8) × 6.1 × (3.4)	(302.04)	砥面4面、下部欠損、面に転用。	2-4

第7図 SK2土坑出土遺物

3) 性格不明遺構

SX7 性格不明遺構 (第8図) E260・N340～350 グリッドで検出した。検出したのは東側の一部のみであり、大部分は調査区外へ延びる。S11、SD6と重複し、本遺構が古い。平面形は不明である。検出した規模は東西4.71m、南北3.53m、深さ21～48cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は不整形で、底面は起伏がみられる。堆積土は単層である。遺物は出土していない。



第8図 SX7性格不明遺構断面図

第3節 元袋遺跡3B区

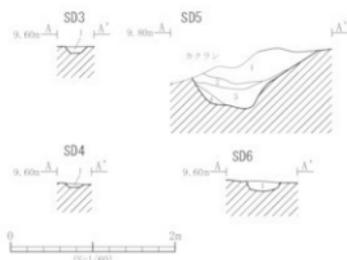
4) 溝跡

SD3 溝跡(第3・9図) E260・N340グリッドで検出した。南側の調査区外へ延びる。方向はN-11°-Wで、検出長1.53m、幅22～28cm、深さ9～14cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD4 溝跡(第3・9図) E270・N340グリッドで検出した。方向はN-10°-E～N-45°-Wで、弧状に延びる。長さ1.42m、幅22～37cm、深さ5cmである。断面形は逆台形状である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD5 溝跡(第3・9図、図版2) E270・N340～350グリッドで検出した。南北の調査区外へ延び、北側の一部を擾乱に削平されている。方向はN-4°-Wで、検出長3.45m、幅1.40～1.52m、深さ70cmである。断面形は逆台形状である。堆積土は4層に分層される。遺物は堆積土からロクロ整形の土師器環・甕の小破片が出土している。

SD6 溝跡(第3・9図) E260・N340～350グリッドで検出した。南北の調査区外へ延びる。SX7と重複し、本遺構が新しい。方向はN-5°-Eで、検出長3.32m、幅14～39cm、深さ12cmである。断面形はU字状である。



遺構	層位	土色	土性	備考
SD3	1	10YR3/2 茶褐色	粘土質シルト	▼骨ブロックを含む、粘性あり、締りあり。
SD4	1	2.5Y3/2 茶褐色	シルト	▼骨ブロックを含む、粘性あり、締りあり。
	2	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	▼骨ブロックを含む、粘性あり、締りあり。
	2	2.5Y3/2 茶褐色	粘土	粘性あり、締りあり。
SD5	3	5Y4/1 灰色	粘土	粘性あり、締りあり。
	4	5Y3/1 オリーブ黒色	粘土	▼骨粒を含む、粘性あり、締りあり。
SD6	1	2.5Y3/2 茶褐色	粘土質シルト	▼骨ブロックを含む、粘性あり、締りあり。

第9図 SD3～6溝跡断面図

堆積土は単層である。遺物は堆積土から土師器の小破片が出土している。

5) ビット(第3図)

10基のビット(P1～10)を検出した。調査区中央のE270・N340グリッドに分布している。遺物はP3・6から非ロクロ整形の土師器小破片が出土している。

(2) 遺構外出土遺物(第10図、図版2)

基本層I層より出土した弥生土器1点を図示した。壺の胴部破片である。3本一描の沈線で連弧文が施文されている。



No.	伊原番号	区	層位	遺構・グリッド	種別	器種	文様等		備考	写真ID
							制部	内面・ヘラナデ・ミガキ		
1	B-1	3B	I	-	弥生土器	壺	制部	沈弧文(3本一描沈弧)・L線文	内面・ヘラナデ・ミガキ	2-5

第10図 遺構外出土遺物

3. まとめ

元袋遺跡は、仙台市太白区大野田字元袋にあり、自然堤防に立地する縄文時代～近世の遺跡である。平成20年度に約122mの調査を行い、古代の遺構群を検出した。

(1) 遺構について

1) 古代の遺構は基本層V層上面で検出された。

3A区-土坑3基、河川跡1条、ピット1基

3B区-竪穴住居跡1軒、土坑1基、性格不明遺構1基、溝跡4条、ピット10基

(2) 遺物について

元袋遺跡からの出土遺物は平箱2箱である。全体として小破片が多く、図化できる遺物は少ない。

1) 弥生時代

3B区I層から中期後葉の壺が出土している。

2) 古代

3B区V層上面検出遺構から土師器が出土しているほか、遺構外から須恵器片が出土している。

第1表 遺構一覧表

3A区V層

土坑

遺構番号	位置(グリッド)	長軸方向	規模(cm)	平面形・断面形	時期
SK1	E320・N350	-	東西168×南北148×深さ30	不明・遺台形	
SK2	E320・N370	-	東西137×南北120×深さ30	不明・遺台形	
SK3	E320・N360～370	-	東西158×南北142×深さ19	不明・遺台形状	

河川跡

遺構番号	位置(グリッド)	方向	規模(m)	平面形・断面形	時期
SR1	E320・N370	東西	東西1.42×南北12.5並×深さ0.70	不明	

3B区V層

竪穴住居跡

遺構番号	位置(グリッド)	方向	規模(m)	平面形・断面形	時期
SI1	E260・N350～360	N-80°E	東西1.36×南北3.44	東壁	9～10世紀代

土坑

遺構番号	位置(グリッド)	長軸方向	規模(cm)	平面形・断面形	時期
SK2	E260～270・N340～350	-	東西174×南北178×深さ33	(不整形)・箱型	

性格不明遺構

遺構番号	位置(グリッド)	方向	規模(m)	平面形・断面形	時期
SK7	E260・N340～350	-	東西1471×南北1353×深さ0.21～0.48	不明・起伏あり。	

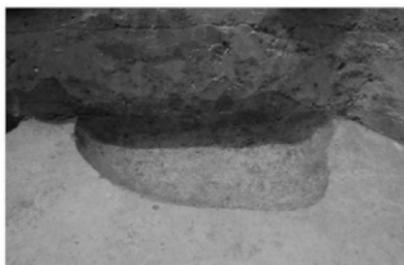
溝跡

遺構番号	位置(グリッド)	方向	規模(m)	平面形・断面形	時期
SD3	E260・N340	N-11°W	長さ1.53×幅0.22～0.28×深さ0.09～0.14	緩く航行・遺台形	
SD4	E260～270・N340	N-10°E N-45°W	長さ1.42×幅0.22～0.37×深さ0.05	弧・遺台形	
SD5	E270・N340	N-4°W	長さ3.45×幅1.40～1.52×深さ0.73	緩く航行・遺台形状	
SD6	E260・N340～350	N-9°E	長さ3.32×幅0.14～0.39×深さ0.12	ほぼ直線・U字状	

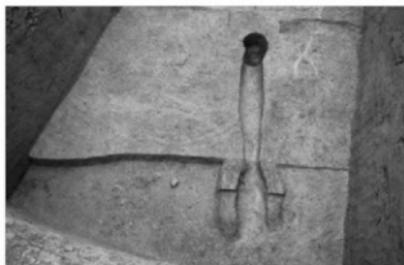
元袋遺跡写真図版



3 A区V層全景（南より）



3 A区V層SK1（東より）



3 B区V層SI1（西より）



3 B区V層全景（西より）



3 B区V層SI1 遺物出土状況（東より）



3 B区V層SI1 カマド袖断面（西より）

写真図版1 元袋遺跡（1）

第3節 元袋遺跡



3 B区V層S11 煙道断面 (南西より)



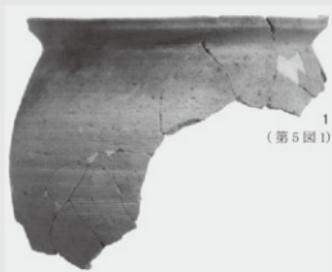
3 B区V層SK2 (南東より)



3 B区V層SD5 (南より)



3 B区V層SD5断面 (南より)



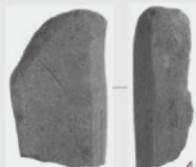
1
(第5図1)



2
(第5図2)



3
(第7図1)



4
(第7図2)



5
(第10図1)

3B区出土遺物

写真図版2 元袋遺跡 (2)

第4節 伊古田遺跡

1. 調査要項

- (1) 遺跡名：伊古田遺跡（宮城県遺跡登録番号 01191）
- (2) 所在地：仙台市太白区大野田字塚田
- (3) 調査面積：約 253m²（3区）
- (4) 調査主体：仙台市教育委員会
- (5) 調査担当：仙台市教育委員会文化財課
- (6) 担当職員：廣瀬真理子
- (7) 調査期間

（野外調査）：平成 21 年 7 月 13 日～9 月 9 日

（整理作業）各調査終了後に基礎整理を行い、以下の期間で最終整理を実施した。

- ・平成 22 年度：平成 22 年 10 月 8 日～平成 23 年 3 月 31 日
- ・平成 23 年度：平成 23 年 9 月 22 日～平成 24 年 3 月 30 日
- ・平成 24 年度：平成 24 年 6 月 21 日～平成 25 年 3 月 29 日

2. 3区の調査

3区では、基本層Ⅲ層上面（古代以降の遺構検出面）において、土坑1基、性格不明遺構1基、溝跡1条、ビット22基を検出した。Ⅳ層上面（古代の遺構検出面）において、竪穴遺構1基、土坑1基、溝跡2条、小溝状遺構群1群、ビット31基を検出した。Ⅴ層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、竪穴住居跡2軒、溝跡2条、ビット105基を検出した。ビットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものも確認されなかった。ビットについては遺構配置図にのみ表示している。

（1）Ⅲ層検出の遺構と遺物（第1図、図版1）

1）土坑

SK3 土坑（第2図、図版1） W190・S190 グリッドで検出した。P22と重複関係にあり、本遺構が古い。南側の調査区外へ延びる。平面形は隅丸の方形を基調としたものと考えられる。長軸方向は不明である。検出した規模は東西 1.05m、南北 53cm、深さ 14cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

2）性格不明遺構

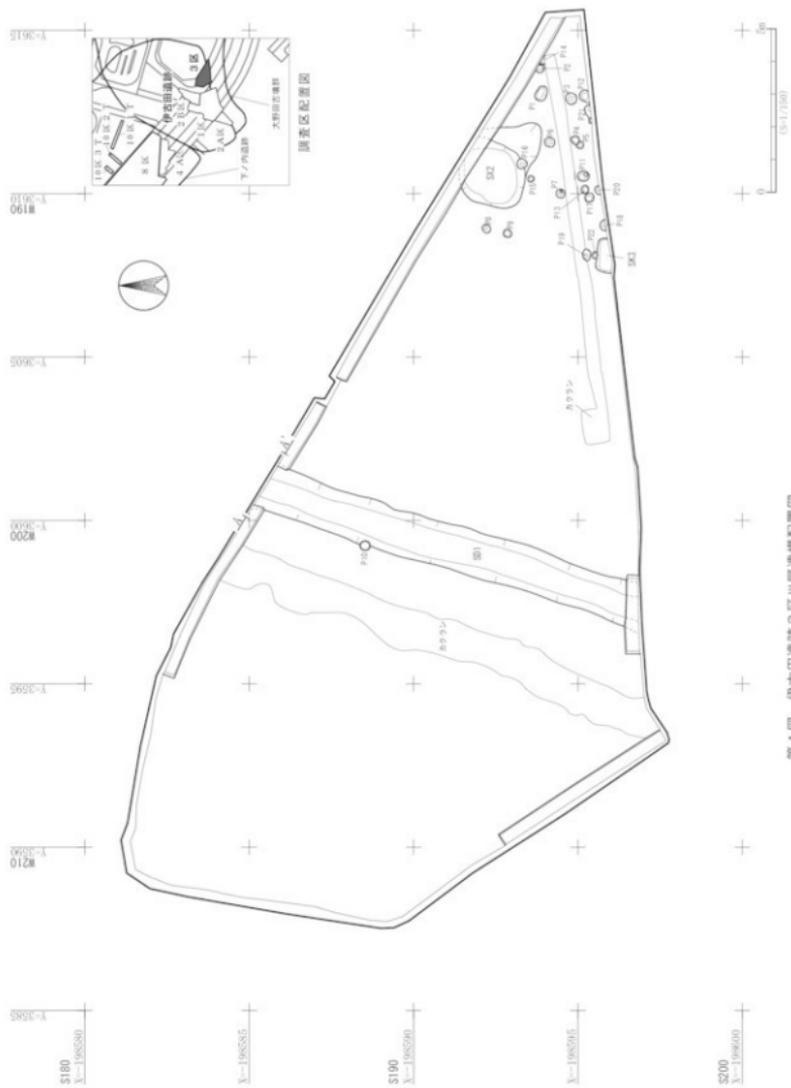
SX2 性格不明遺構（第3図、図版1） W180～190・S190 グリッドで検出した。北側の調査区外へ延びる。P16と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形で、長軸方向は N-47°-W である。検出した規模は長軸 3.07m、短軸 2.12m、深さ 31cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形状で、南東側はテラス状に高まる。底面は平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から土師器片が出土している。

3）溝跡

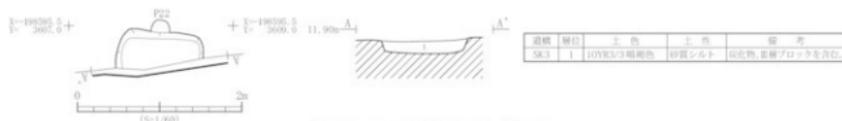
SD1 溝跡（第1・4図、図版1） W180～190・S190～200 グリッドで検出した。P10と重複関係にあり、本遺構が古い。南北両側の調査区外へ延びる。方向は N-18°-E で、検出長 11.88 m、幅 1.18～1.45 m、深さ 68cm である。断面形は概ね逆台形である。堆積土は4層に分層される。遺物は堆積土から土師器片、須恵器片が出土している。

4）ビット（第1図）

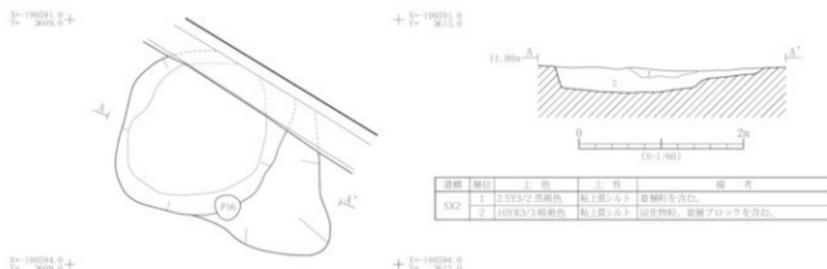
22基のビット（P1～22）を検出した。調査区東側に偏って分布する。遺物は P3・7・11・19 から土師器片が出土している。



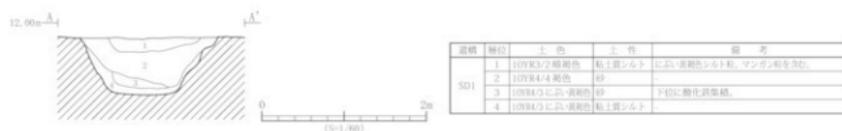
第1図 伊古田遺跡3区III層遺構配置図



第2図 SK3土坑平面図・断面図



第3図 SX2性格不明遺構平面図・断面図



第4図 SD1溝跡断面図

(2) IV層検出の遺構と遺物(第5図、図版2)

1) 竪穴遺構

SI4 竪穴遺構(第6図、図版3)

[位置] W190・S190グリッドに位置する。

[重複関係] SK7と重複関係にあり、本遺構が新しい。また、南側コーナーを掘乱により削平されている。

[規模・形態] 東西2.96m、南北2.60mである。平面形は方形である。周溝・カマドは検出していない。

[主軸方位] 東壁基準でN-14°-Eである。

[堆積土] 4層に分層した。1～3層は遺構堆積土、4層は掘り方埋土である。

[壁面] 急角度に立ち上がる箇所と緩やかに立ち上がる箇所がある。壁高は床面から16cmである。

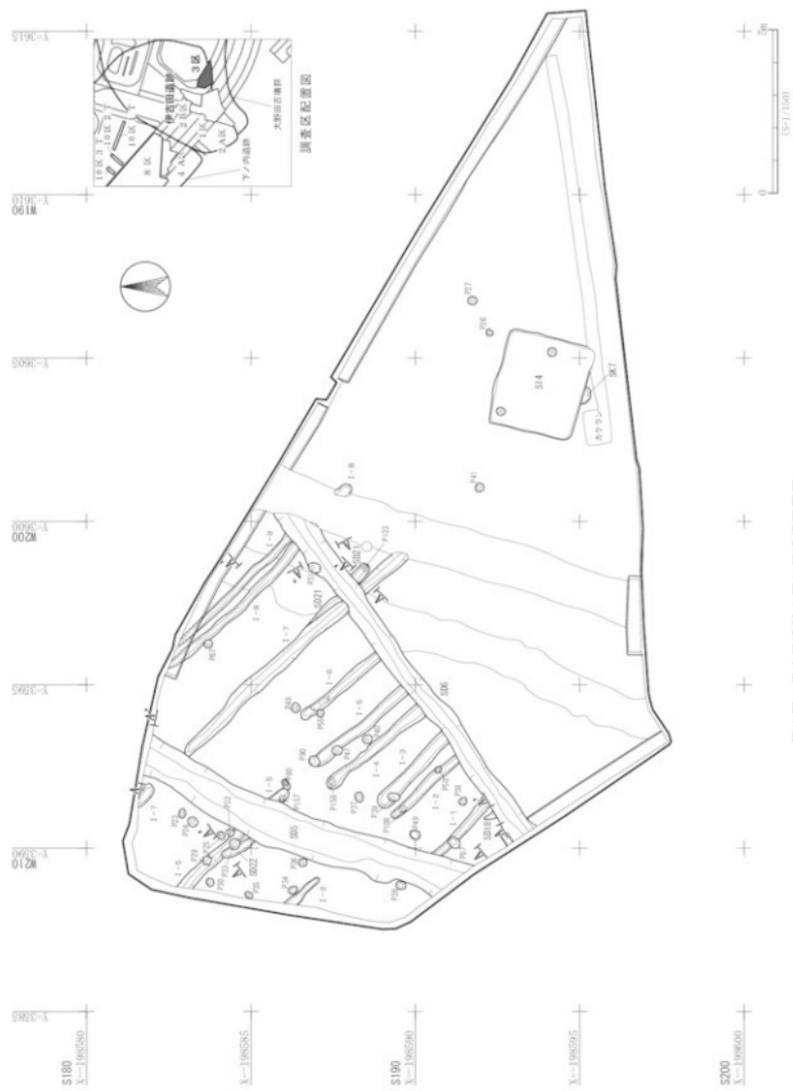
[底面] 起伏がみられる。4層上面を底面としている。底面でピットを2基(P1・2)検出した。規模はいずれも径25cm、深さ20cmである。

[掘り方] 深さ3～8cmである。底面はわずかな起伏がみられる。

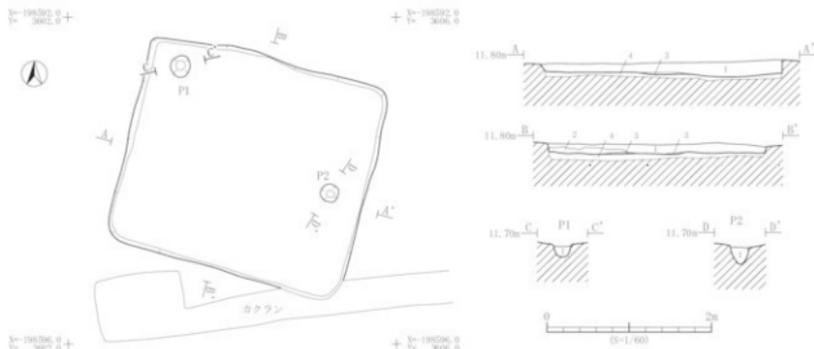
[出土遺物] 掘り方埋土から土師器片が出土している。

2) 土坑

SK7土坑(第7図) W190・S200グリッドで検出した。SI4と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は円形を基調としたものと考えられる。検出した規模は東西54cm、南北23cm、深さ21cmで、壁面は底面から緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。



第5図 伊古田遺跡3区IV層遺構配置図



遺構	層別	上層	下層	備考
S14	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	磁製ブロック、図化物料、硬土粒を含む、縞り中央あり。
	2	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	
	3	2.5Y2/1 黒色	粘土質シルト	図化物を含む。

遺構	層別	上層	下層	備考	
S14	4	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	灰褐色粘土質シルトブロックを含む、縞りあり。	
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	褐色粘土質シルト粒を含む、粘性あり。	
S14	P2	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	

第6図 S14 整穴遺構平面図・断面図



第7図 SK7 土坑平面図・断面図

3) 溝跡

SD5 溝跡 (第5・8図、図版3) W200～210・S190～200グリッドで検出した。本遺跡1区IV層SD8もしくは20と同一の溝跡であるが、SD8・20は掘り直しの溝跡であり、このどちらであるかは不明である。SD22、小溝状遺構I-1・5・7と重複関係にあり、本遺構が新しい。南北両側は調査区外へ延び、南側は1区SD8もしくは20と連続する。方向はN-22°-Eで、検出長10.00m、幅1.03～1.43m、深さ47cmである。断面形は概ねU字形である。堆積土は4層に分層される。遺物は堆積土から土師器片が出土している。

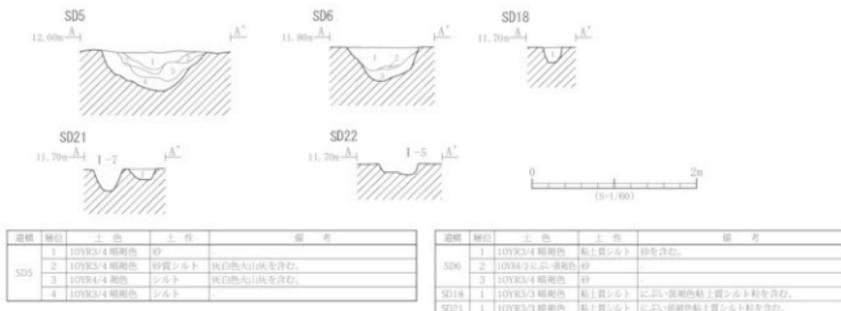
SD6 溝跡 (第5・8図、図版3) W190～210・S190～210グリッドで検出した。北東・南西両側の調査区外へ延びる。SD18・21、小溝状遺構1群、P38と重複関係にあり、SD18・21、小溝状遺構1群より新しく、P38より古い。方向はN-53°-Eで、検出長19.96m、幅61～85cm、深さ42cmである。断面形は逆台形状である。堆積土は3層に分層される。遺物は堆積土から土師器片が出土している。

SD18 溝跡 (第5・8図) W200・S190グリッドで検出した。SD6と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-18°-Eで、検出長36cm、幅26cm、深さ18cmである。断面形はU字形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD21 溝跡 (第5・8図) W200・S180グリッドで検出した。SD26、小溝状遺構I-7と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-51°-Wで、検出長2.56m、幅34cm、深さ21cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は堆積土から土師器片が出土している。

SD22 溝跡 (第5・8図) W200～210・S180グリッドで検出した。SD5、小溝状遺構I-5、P33と重複関係にあり、小溝状遺構I-5より新しく、SD5、P33より古い。方向はN-27°-Wで、検出長1.07m、幅29cm、深さ18cmである。断面形は逆台形である。遺物は出土していない。

第4節 伊古田遺跡3区

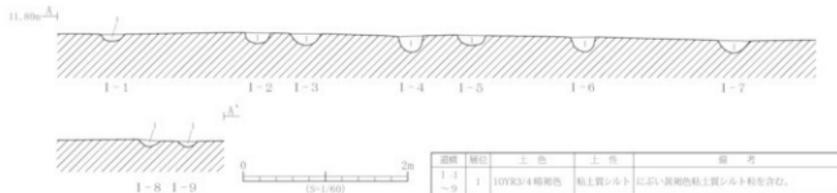


第8図 SD5・6・18・21・22 溝跡断面図

4) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群で、1群を検出した。

1群(第5・9図) W180~210・S180~190グリッドで検出した北西から南東方向の遺構群で、9条の小溝で構成される。方向はN-40~47°-Wで、検出長2.17~10.25m、幅23~54cm、深さ6~20cmである。小溝の間隔は、0.10~2.10mである。堆積土は単層である。遺物はI-1~3・5・7・8から土師器片が出土している。



第9図 小溝状遺構群断面図

5) ビット (第1図)

31基のビット(P23・41・47~50・55・67・80・87・90・108・123・129)を検出した。調査区西側に大部分が分布する。遺物は出土していない。

(3) V層検出の遺構と遺物 (第5図、図版2)

1) 竪穴住居跡

S18 竪穴住居跡 (第11~13図、図版5・7)

[位置] W190~200・S180~190グリッドに位置する。南側の調査区外へ延びる。

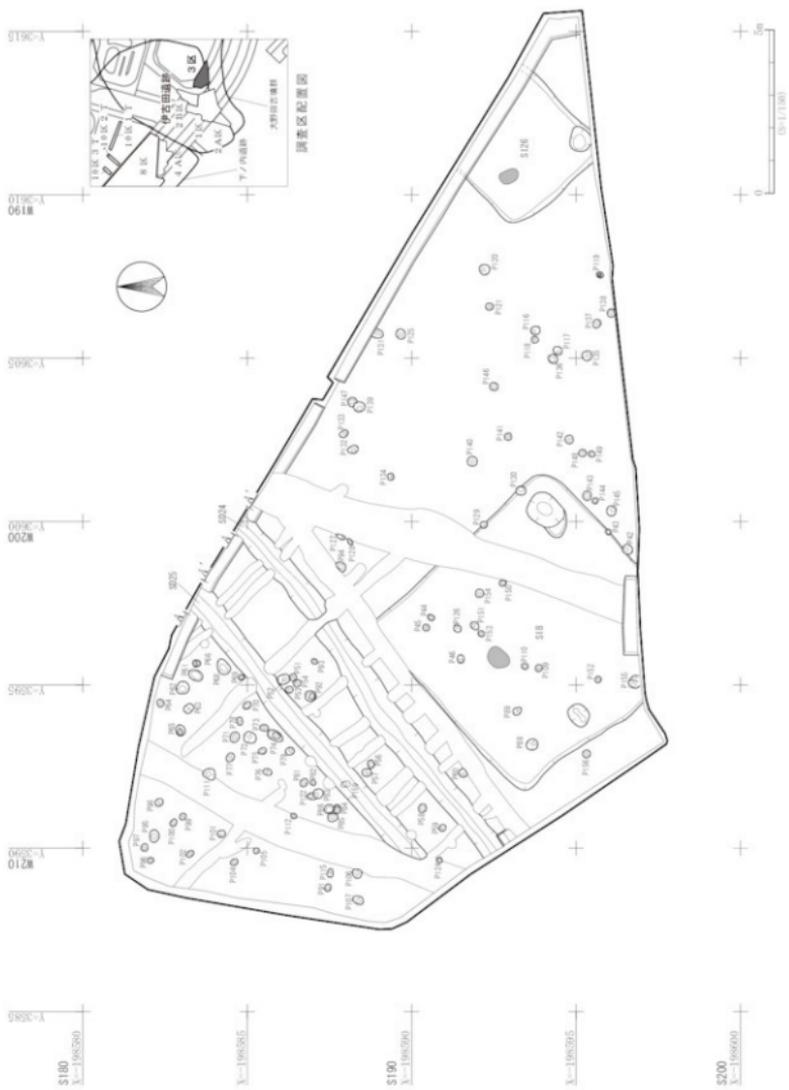
[重複関係] P42~46・88・89・109・110・126・129・130・150~155と重複関係にあり、本遺構が古い。また、上層の遺構により、中央東側および北西壁北側を削平される。

[規模・形態] 北西-南東7.34m、北東-南西7.02mである。平面形は、隅丸方形である。周溝・柱穴は検出されていない。

[主軸方位] 北東壁基準でN-43°-Wである。

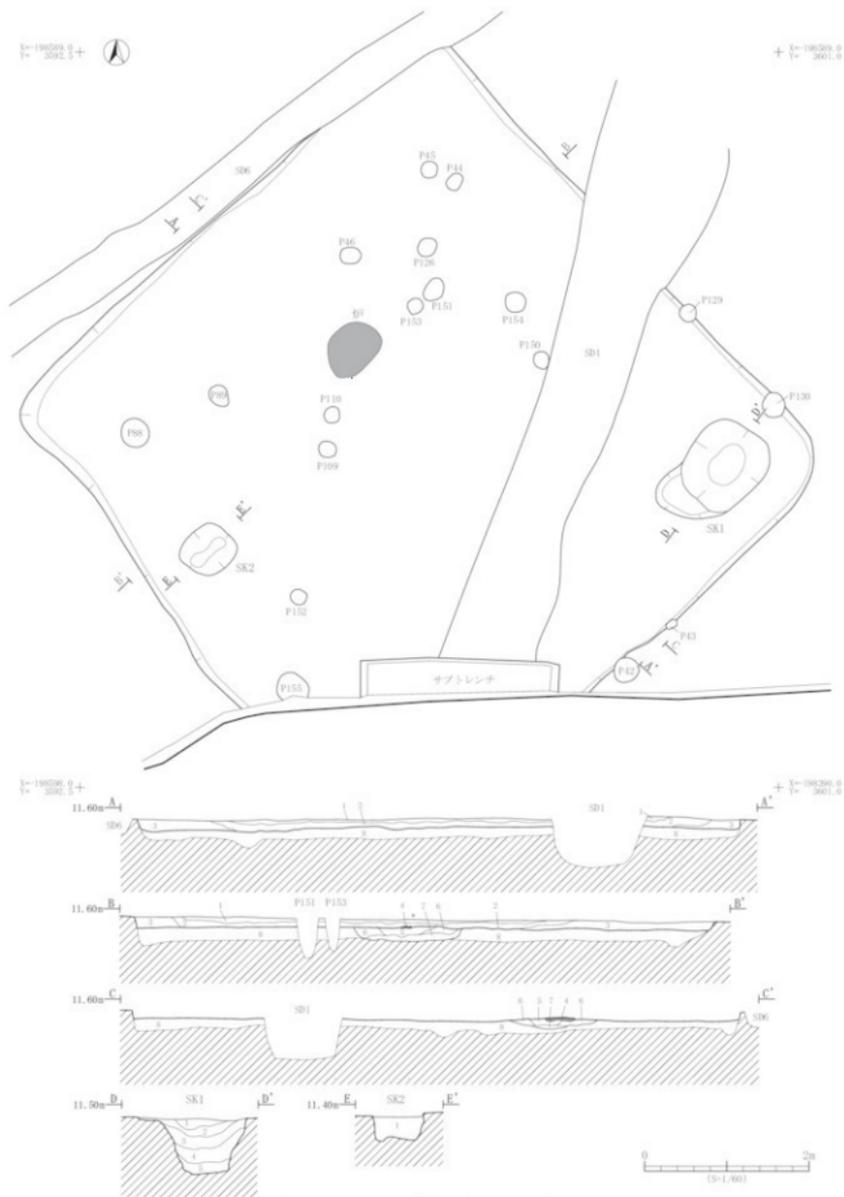
[堆積土] 8層に分層した。1~3層は住居跡堆積土、4~7層は埴間連層土、8層は掘り方埋土である。

[壁面] 床面から急角度に立ち上がる箇所と緩やかに立ち上がる箇所がある。壁高は床面から13cmである。

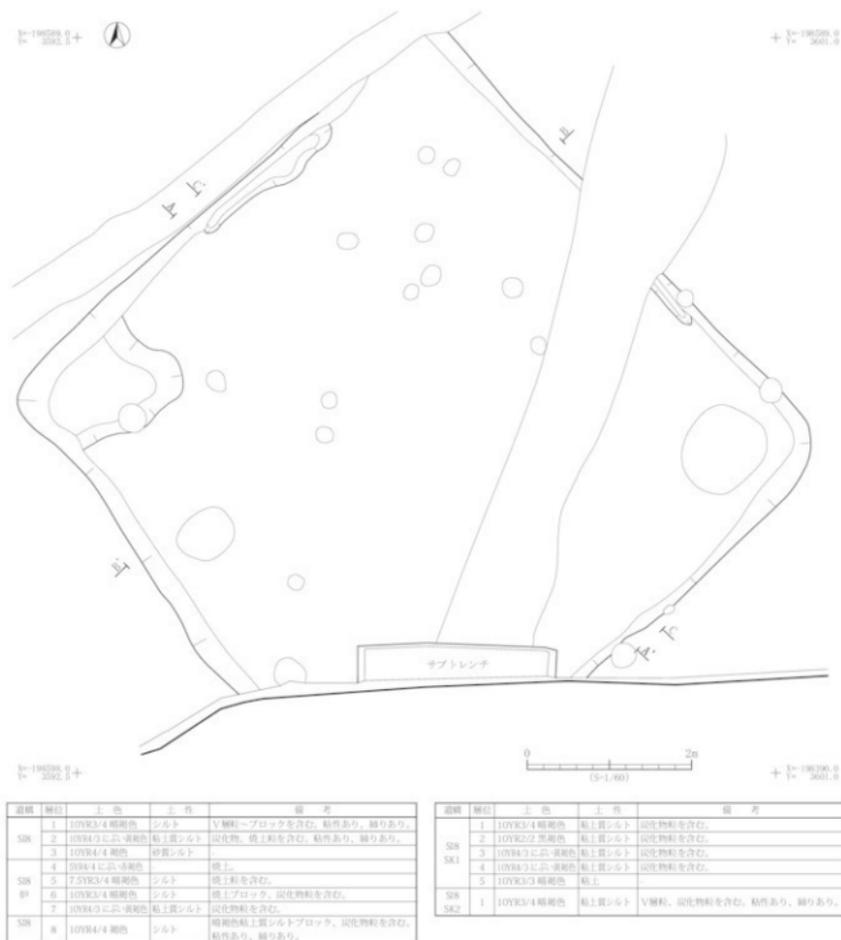


第10図 伊弉諾跡3区V層遺構配置図

第4節 伊古田遺跡3区

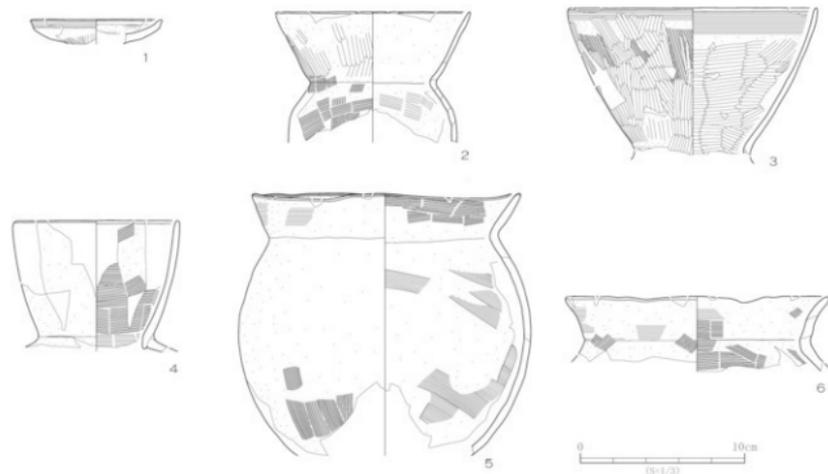


第11図 S18竪穴住居跡平面図・断面図



第12図 S18 竪穴住居跡掘り方平面図

- [床面] 8層上面を床面としている。平坦な箇所と起伏がみられる箇所があるが、硬化面などは認められない。
- [如] 地床がを1基検出した。床面中央から北西壁寄りに位置する。長軸1.55m、短軸1.10m、深さ15~20cmの不整形な掘り方を持つ。被熱範囲は長軸72cm、短軸53cm、深度13cmである。
- [その他の施設] 土坑を2基検出した。東側コーナー付近に位置するSK1は不整形円形で、規模は長軸1.41m、短軸96cm、深さ70cmである。堆積土は5層に分層した。炭化物粒が含まれている。規模や位置関係から貯蔵穴と考えられる。南西壁中央付近に位置するSK2は長軸63cm、短軸57cm、深さ35cmの不整形な隅丸長方形で、断面形は長軸方向が不整形な箱形、短軸方向が逆台形である。
- [掘り方] 深さ3~16cmである。底面は概ね平坦であるが、壁際には溝状に落ち込む箇所がみられる。



№	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	地物	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-6	3	S88 SK1	-	土師器	器台	(8.0) × × 現 1.5	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヘラミガキ	内外面磨減。	7.1
2	C-1	3	S88 SK1	2	土師器	皿	(11.8) × × 現 8.0	ヘラミガキ・ハケメ	ナデ	内外面磨減。	7.2
3	C-2	3	S88 SK1	2	土師器	皿	(15.2) × × 現 9.0	ハケメ・ヨコナデ・ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラミガキ		7.4
4	C-5	3	S88 SK1	2	土師器	皿	(10.2) × × 現 8.0	不明	ハケメ・ナデ	内外面磨減、同上取込。	7.3
5	C-3	3	S88 SK1	2	土師器	甕	15.7～16.2 × × 現 16.0	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ヘラナデ	内外面磨減。	7.5
6	C-4	3	S88 SK1	2	土師器	甕	(16.0) × × 現 4.6	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	内外面磨減。	7.6

第13図 S18 竪穴住居跡出土遺物

[出土遺物] 堆積土やSK1から土師器が出土している。そのうちSK1から出土した土師器6点を第13図に図示した。セット関係が窺える。1は器台の受部である。口縁部と体部の境の内外面に稜を持ち、緩やかに内湾する体部から短く外反する口縁部へといたる。2～4は埴である。2は体部上半が撫で肩状で口縁部は内湾気味に開く器形である。3・4は口縁部片で、3は緩やかに内湾しながら口唇部に向かって大きく開く器形で、内外面共に丁寧な調整が施されている。4は内湾しながら直立気味に口唇部にいたる器形である。5・6は共に球胴甕である。口縁部は5が直線的に外傾するのに対し、6は上半が外反する。これらの土師器の特徴から、本住居跡の年代は4世紀後半～末頃と考えられる。

S126 竪穴住居跡(第14・15図、図版6・7)

[位置] W180～190・S190グリッドに位置する。南北両側の調査区外へ延びる。

[規模・形態] 北西-南東3.18m、北東-南西2.50mである。平面形は、隅丸方形を基調としたものと考えられる。周溝・柱穴は検出されていない。

[主軸方位] 南西壁基準でN-47°-Wである。

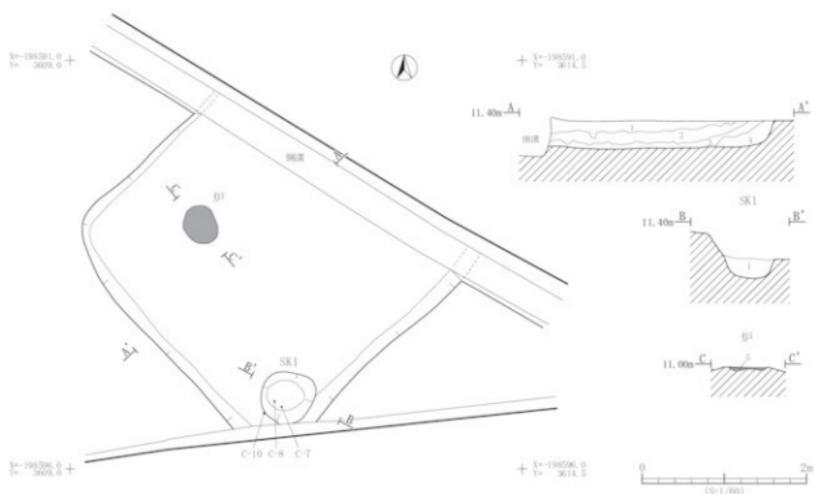
[堆積土] 5層に分層した。1～4層は住居跡堆積土、5層は炉関連層位である。

[壁面] 緩やかに立ち上がり、壁高は床面から35cmである。

[床面] 概ね平坦である。掘り方底面の基本層V層を直接床面としている。

[炉] 地床がを1基検出した。床面中央から北西壁寄りに位置する。被熱範囲は長軸60cm、短軸40cm、深度5cmである。

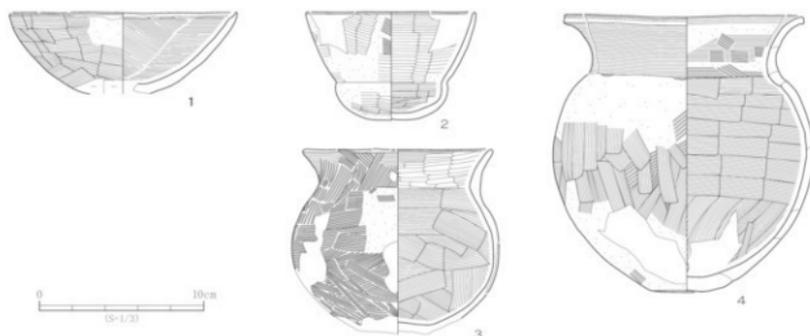
[その他の施設] 土坑を1基検出した。南隅際に位置する。位置関係から貯蔵穴と考えられる。平面形は円形で、規



遺構	層位	土色	土質	備考
SZ6	1	10YR2/3 暗褐色	粘土質シルト	同化物を含む。
	2	10YR4/4 紫色	粘土質シルト	に25-30%程度の粘土質シルトブロックを含む。
	3	10YR2/3 暗褐色	粘土質シルト	同化物を含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	V層状を含む。

遺構	層位	土色	土質	備考
SK0 8F	5	10YR2/3 暗褐色	粘土質シルト	焼土・同化物を含む。
SZ6 SK1	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	同化物を含む。

第14図 S126 竪穴住居跡平面図・断面図



No.	作図番号	区	遺構・グリッド	層位	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真掲載
1	C-8	3	SZ6-SK1	1	土師器	高球	13.8 × × 腹 5.0	ヘラケズリ・ヘラナデ	ナデ	断面確認	7.7
2	C-7	3	SZ6-SK1	1	土師器	皿	(10.3) × × 6.6	ハケメ・ヘラミガキ	ヘラミガキ・ヘラナデ	外面磨滅	7.8
3	C-10	3	SZ6	3	土師器	甕	11.5 × × 腹 11.3	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ヘラナデ・ヘラミガキ	外面削跡、外面層付着。	7.9
4	C-9	3	SZ6	3	土師器	甕	14.5 × 4.7 × 17.0	ヨコナデ・ハケメ・ヘラナデ	ヨコナデ・ハケメ・ヘラナデ	口縁部内面および外面磨滅	7.10

第15図 S126 竪穴住居跡出土遺物

模は径65cm、深さ25cmである。

[出土遺物] 堆積土やSK1から土師器が出土しており、そのうち4点を第15図に図示した。1は高環の部部である。体部は括れを持たず緩やかに内湾しながら大きく開き、内面側がわずかに窪む口縁部へといたる。2は埴である。底部外面中央に小さな窪みを持ち、短い体部と内湾しながら開く口縁部の境が括れる器形である。3・4は甕である。いずれも摩滅や器面の剥離がみられるが、内外面共に全体的に丁寧な調整が施されている。3はやや扁平な球形の体部から頸部へと滑らかに湾曲し、直線的に外傾する口縁部から丸みを持つ口唇部へといたる。4は球形の体部から頸部へと滑らかに湾曲し、外反する口縁部からほぼ真横を向く面を持つ口唇部へといたる。これらの土師器の特徴から、本住居跡の年代は4世紀後半～末頃と考えられる。

2) 溝跡

SD24 溝跡(第10・16図) W190～210・S180～190グリッドで検出した。本遺跡1区V層SD19と同一の溝跡である。IV層のSD18および小溝状遺構I群に一部削平されている。北東および南西両側の調査区外へ延び、南西側は1区SD19に連続する。方向はN-52°-Eで、検出長12.64m、幅66～100cm、深さ36cmである。断面形はU字形である。堆積土は単層である。遺物は堆積土から土師器片が出土している。

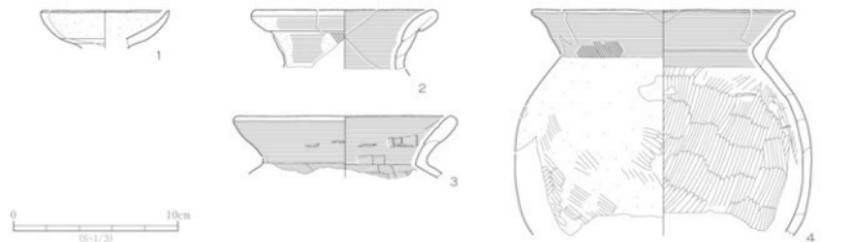
SD25 溝跡(第10・16図) W200～210・S180～190グリッドで検出した。本遺跡1区V層SD15と同一の溝跡である。P159と重複関係にあり、本遺構が新しい。また、IV層の小溝状遺構I群に一部削平されている。北東および南西両側の調査区外へ延び、南西側は1区SD15に連続する。方向はN-52°-Eで、検出長10.66m、幅66～95cm、深さ30cmである。断面形はU字形である。堆積土は単層である。遺物は堆積土から土師器片が出土している。

3) ビット(第10図)

105基のビット(P42～46・51～54・56～66・68～79・81～86・88・89・91～107・109～122・124～128・130～159)を検出した。調査区全域に散漫な分布状況を示す。遺物はP44～46・60・68・83・84・87・88・101・110・111・117・119・130・132・135・136・137・140・147・151・155から土師器片が出土している。

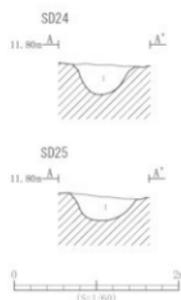
(4) 遺構外出土遺物(第17・18図、図版7)

基本層IV層から出土した土師器4点を第17図に、打製石器2点、石製品1点を第18図に図示した。第17図1は器台の受け部片である。器形は緩やかに内湾する体部から先細る口縁部へといたる。2・3は壺の口縁部片である。



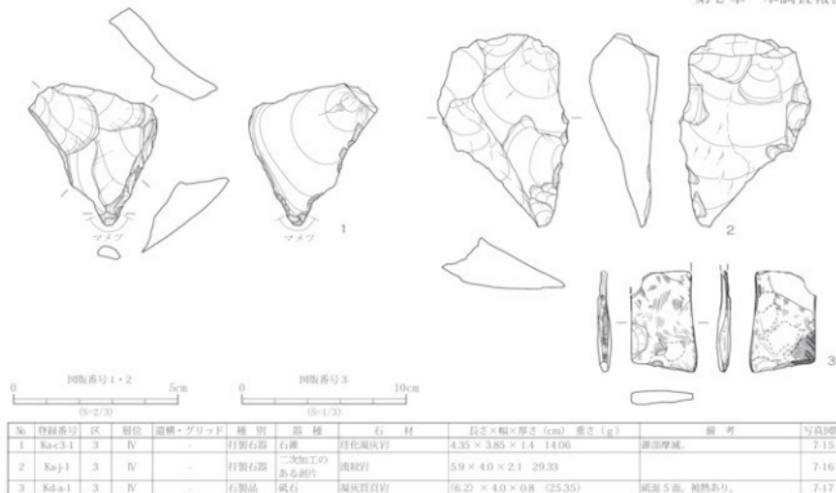
№	発掘番号	区	層位	遺構・グリッド	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-11	3	IV	-	土師器	器台	(7.8) × × 厚2.3	不明	不明	内外面磨滅。	7-11
2	C-13	3	IV	-	土師器	壺	(11.4) × × 厚3.6	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ	外面磨滅、内外面赤彩。	7-12
3	C-12	3	IV	-	土師器	壺	13.6 × × 厚3.8	ヨコナデ・ヘラナデ	ヨコナデ・ヘラナデ	内外面赤彩。	7-13
4	C-14	3	IV	-	土師器	甕	(16.0) × × 厚13.8	ヨコナデ・ハケメ・ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラミガキ	外面磨滅。	7-14

第17図 遺構外出土遺物(1)



遺構	層位	土色	土性	備考
SD24	I	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	V層砂を混合。
SD25	I	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	V層ブロックを混合。

第16図 SD24・25 溝跡断面図



第18図 遺構外出土遺物(2)

いずれも内外面共に赤彩されている。2は上端が折り返されている。4は囊である。器形は球形の体部と頸部の境が屈曲し、上半が外反する口縁部へといたる。体部は内外面ともにヘラミガキ調整が施される。第18図1は素材剥片の形状を利用して尖端部が錐部に加工されている石錐で、錐部は摩滅している。2は複数の縁辺に二次加工が施されている剥片である。3は面取り加工された砥石である。周縁部を中心に被熱が原因と思われる変色箇所が観察されるが、いずれも砥面形成後のものであり、整形や使用とは直接関連しないと思われる。

3. まとめ

伊古田遺跡は仙台市太白区大野田字塚田にあり、自然堤防に立地する縄文時代～古代の遺跡である。平成21年度に約253mの調査が行われ、古墳時代～古代の遺構が検出された。

(1) 遺構について

- 1) 古代以降の遺構は、Ⅲ層上面で土坑1基、性格不明遺構1基、溝跡1条、ビット22基を検出した。
- 2) 古代の遺構は、Ⅳ層上面で竪穴遺構1基、土坑1基、溝跡2条、小溝状遺構群1群、ビット31基を検出した。小溝状遺構群が検出されたことから、調査区周辺には畑が広がっていたと考えられる。
- 3) 古墳時代～古代の遺構は、Ⅴ層上面で溝跡2条、ビット105基を検出した。
- 4) 古墳時代の遺構は、Ⅴ層上面で竪穴住居跡2軒を検出した。時期は、いずれも4世紀後半～末頃と考えられる。

(2) 遺物について

伊古田遺跡からの出土遺物は平箱5箱である。全体的に小破片が多く、図化できる遺物は少ない。

1) 縄文時代

基本層Ⅴ層から地文が縄文のみの深鉢胴部片が出土している。

2) 縄文時代～弥生時代

基本層Ⅳ層から打製石器(石錐・二次加工のある剥片)が出土している。

3) 古墳時代

Ⅴ層S18・26、基本層Ⅳ層およびⅤ層から塩釜式土器が出土している。

4) 古代以降

Ⅲ層SD1から須恵器片、基本層Ⅳ層から石製品(砥石)が出土している。

第4節 伊古田遺跡

第1表 遺構一覧表

3 区4層

土坑

遺構番号	位置(グリッド)	長軸方向	規模(m)	平面形・断面形	時期
SK3	W190・S190	-	東西105×南北53 ×深さ14	方形基溝・遺台形	

性格不明遺構

遺構番号	位置(グリッド)	方向	規模(m)	平面形・断面形	時期
SK2	W180～100・S190	N47°・W	長軸307×短軸212×深さ31	不整形・遺台形	

溝跡

遺構番号	位置(グリッド)	方向	規模(m)	平面形・断面形	時期
SD1	W180～190・S190～200	N18°・E	長さ11.88 ×幅1.18～1.45×深さ0.68	直線・緩む遺台形	

3 区4層

明穴(遺構)

遺構番号	位置(グリッド)	方向	規模(m)	平面形・断面形	時期
SI4	W190・S190	N14°・E	南北2.60×東西2.96×深さ0.10～0.14	方形・箱形	

土坑

遺構番号	位置(グリッド)	長軸方向	規模(m)	平面形・断面形	時期
SK7	W190・S200	-	東西54×南北23 ×深さ21	円形基溝・遺台形	

溝跡

遺構番号	位置(グリッド)	方向	規模(m)	平面形・断面形	時期
SD5	W200～210・S190～200	N22°・E	長さ10.00 ×幅1.03～1.43×深さ0.47	わずかに湾曲・U字形	

SD6	W190～210・S190～200	N53°・E	長さ19.96 ×幅0.61～0.85×深さ0.42	ほぼ直線・遺台形	
-----	-------------------	--------	----------------------------	----------	--

SD18	W200・S190	N18°・W	長さ10.36 ×幅0.26×深さ0.18	不明・遺台形	
------	-----------	--------	-----------------------	--------	--

SD21	W200・S180	N51°・W	長さ12.56 ×幅0.34×深さ0.21	ほぼ直線・遺台形	
------	-----------	--------	-----------------------	----------	--

SD22	W200～210・S180	N27°・W	長さ11.07 ×幅0.29×深さ0.18	ほぼ直線・遺台形	
------	---------------	--------	-----------------------	----------	--

小遺台遺構型

遺構番号	位置(グリッド)	方向	規模(m)	平面形・断面形	時期
1-1	W200～210・S190	N47°・W	長さ12.17 ×幅0.24～0.36×深さ0.07	やや湾曲・U字形	

1-2	W200～210・S180～190	N48°・W	長さ16.82 ×幅0.28～0.33×深さ0.11	緩く彎行・U字形	
-----	-------------------	--------	----------------------------	----------	--

1-3	W200・S180～190	N47°・W	長さ12.90 ×幅0.39～0.52×深さ0.13	ほぼ直線・U字形	
-----	---------------	--------	----------------------------	----------	--

1-4	W200・S180～190	N41°・W	長さ13.71 ×幅0.23～0.47×深さ0.20	ほぼ直線・U字形	
-----	---------------	--------	----------------------------	----------	--

1-5	W200～210・S180～190	N40°・W	長さ19.18 ×幅0.32～0.42×深さ0.13	緩く彎行・U字形	
-----	-------------------	--------	----------------------------	----------	--

1-6	W200・S180	N40°・W	長さ13.03 ×幅0.28～0.37×深さ0.17	ほぼ直線・U字形	
-----	-----------	--------	----------------------------	----------	--

1-7	W200・S180	N43°・W	長さ10.22 ×幅0.36～0.54×深さ0.15	緩く彎行・U字形	
-----	-----------	--------	----------------------------	----------	--

1-8	W190～200・S180	N43°・W	長さ16.30 ×幅0.24～0.32×深さ0.07	緩く彎行・U字形	
-----	---------------	--------	----------------------------	----------	--

1-9	W200・S180	N43°・W	長さ14.63 ×幅0.23～0.26×深さ0.06	緩く彎行・U字形	
-----	-----------	--------	----------------------------	----------	--

3 区V層

明穴(土坑)

遺構番号	位置(グリッド)	方向	規模(m)	形	時期
SI8	W190～200・S180～190	N43°・W	北西-南東7.34×北東-南西7.02×深さ0.13	矩形	4世紀後半～末頃

SI26	W180～190・S190	N47°・W	北西-南東3.18×北東-南西2.50×深さ0.15	矩形	4世紀後半～末頃
------	---------------	--------	----------------------------	----	----------

溝跡

遺構番号	位置(グリッド)	方向	規模(m)	平面形・断面形	時期
SD24	W190～210・S180～190	N52°・E	長さ12.64 ×幅0.66～1.00×深さ0.36	緩く彎行・U字形	

SD25	W200～210・S180～190	N50°・E	長さ10.24 ×幅0.71～0.83×深さ0.29	緩く彎行・U字形	
------	-------------------	--------	----------------------------	----------	--

伊古田遺跡写真図版



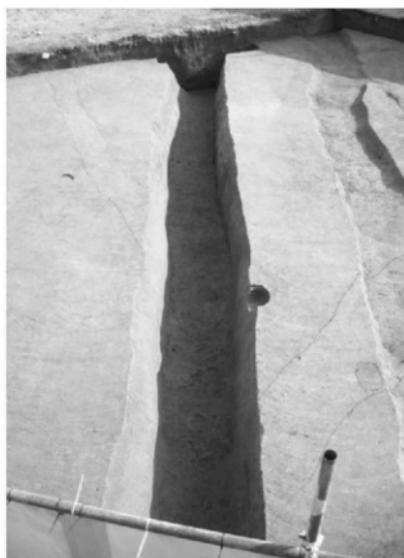
3区Ⅲ層東半部全景（西より）



3区Ⅲ層SK3（西より）



3区Ⅲ層SX2断面（南より）



3区Ⅲ層SD1（北より）

写真図版1 伊古田遺跡（1）

第4節 伊古田遺跡



3区IV層東半部全景（西より）



3区IV層西半部全景（北より）

写真図版2 伊古田遺跡（2）



3区IV層S14 (南より)



3区IV層SD5 検出 (北より)



3区IV層SD5 (北より)

写真図版3 伊古田遺跡 (3)

第4節 伊古田遺跡



3区IV層SD5断面（南より）



3区IV層SD6断面（北より）



3区IV層SD6（北より）



3区V層東半部全景（西より）

写真図版4 伊古田遺跡（4）



3区V層西半部全景（東より）



3区V層S18（北より）

写真図版5 伊古田遺跡（5）

第4節 伊古田遺跡



3区V層S18断面(南西より)



3区V層S18炉(北より)



3区V層S18-SK1断面(東より)



3区V層S126(西より)



3区V層S126断面(北西より)



3区V層S126遺物出土状況(西より)



3区V層S126-SK1断面・遺物出土状況(北より)

写真図版6 伊古田遺跡(6)



写真図版7 伊古田遺跡3区出土遺物

第5節 伊古田B遺跡

1. 調査要項

- (1) 遺跡名：伊古田B遺跡（宮城県遺跡登録番号O1191B）
- (2) 所在地：仙台市太白区大野田字イコタ
- (3) 調査面積：約1,922㎡（4A1・4A2・4A3・4B1・4B2・4C・4D区）
- (4) 調査主体：仙台市教育委員会
- (5) 調査担当：仙台市教育委員会文化財課
- (6) 担当職員：平間亮輔・大久保弥生・川本剛史・吉野 信・佐藤正弥（派遣調査員：土沼章一／国際文化財）
- (7) 調査期間

（野外調査）：平成21年6月15日～平成21年10月15日

（整理作業）各調査終了後に基礎整理を行い、以下の期間で最終整理を実施した。

- ・平成22年度：平成22年10月8日～平成23年3月31日
- ・平成23年度：平成23年9月22日～平成24年3月30日
- ・平成24年度：平成24年6月21日～平成25年3月29日

2. 4A1区の調査

4A1区では、基本層Ⅲ層上面（古代以降の遺構検出面）において、土坑1基、溝跡6条を検出した。IVb層上面（古代の遺構検出面）において、水田跡、小溝状遺構群1群を検出した。IVc層上面（古代の遺構検出面）において、水田跡（疑似畦畔B）を検出した。V層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、掘立柱建物跡1棟、土坑5基、溝跡2条、ピット37基を検出した。

(1) Ⅲ層検出の遺構と遺物（第1図、図版1）

1）土坑

SK7土坑（第2図）E50・S410グリッドで検出した。SD4と重複関係にあり、本遺構が新しい。上部は攪乱により削平されている。平面形は楕円形で、長軸方向はN-23°-Eである。検出した規模は長軸112cm、短軸97cm、深さ35cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は箱形、底面は平坦である。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

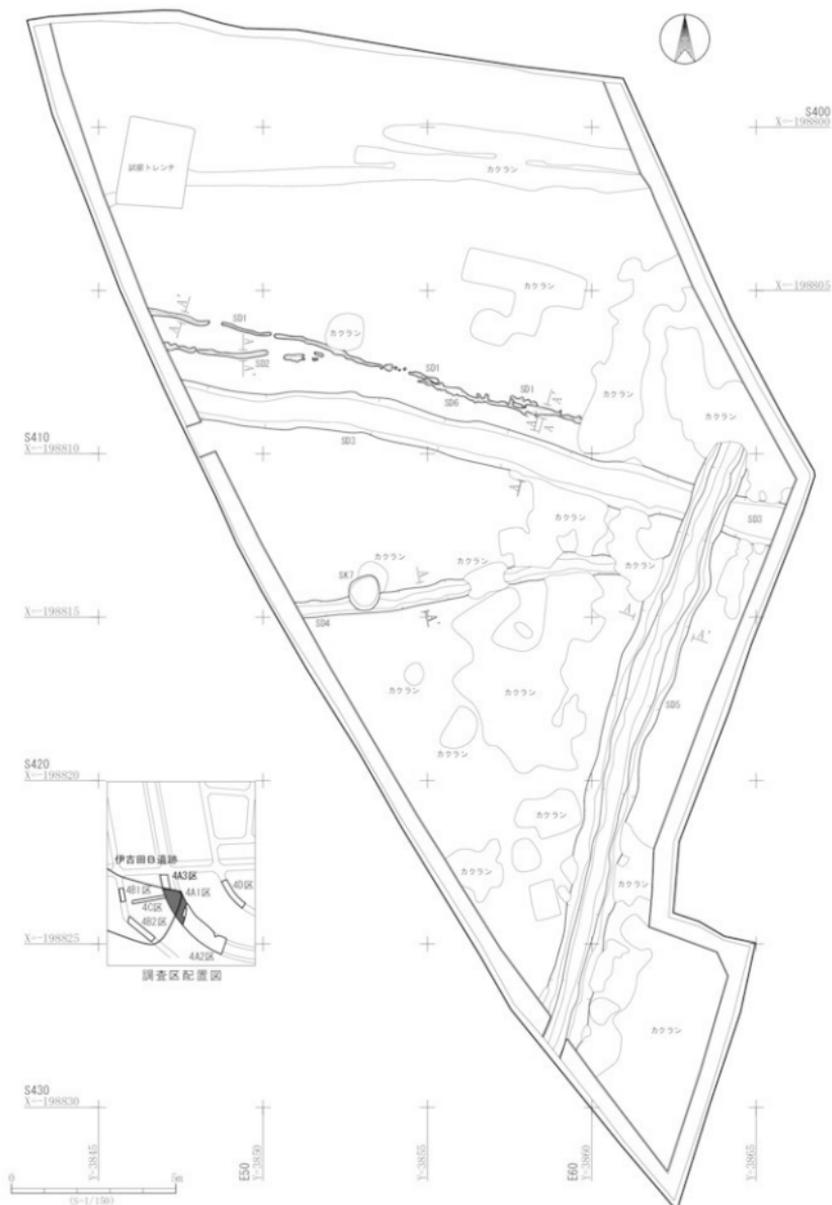
2）溝跡

SD1溝跡（第1・3・4図、図版8）E40～50・S400グリッドで検出した。北西-南東方向に断続的に延びる溝跡で、西側の調査区外へ延びる。SD6と重複関係にあり、本遺構が古い。また、東側の一部を攪乱により削平されている。方向はN-76°-Wで、検出長12.18m、幅6～23cm、深さ5cmである。断面形は逆台形である。遺物は堆積土から陶磁器片、金属製品、土製品が出土している。そのうち土製品1点を第4図1に図示した。素焼きの土師である。

SD2溝跡（第1・3図）E40～50・S400グリッドで検出した。北西-南東方向に断続的に延びる溝跡で、西側の調査区外へ延びる。方向はN-88°-Wで、検出長3.17m、幅8～18cm、深さ3cmである。断面形は概ね逆台形である。遺物は出土していない。

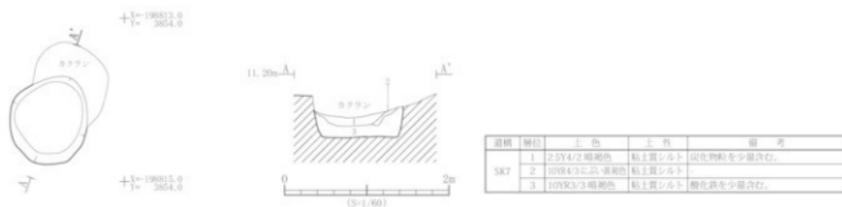
SD3溝跡（第1・3図）E40～60・S400～410グリッドで検出した。北西-南東方向に延びる溝跡で、東・西側の調査区外へ延びる。SD5と重複関係にあり、本遺構が古い。本遺構北西側の延長上には、本遺跡4C区Ⅲ層で検出したSD1溝跡があり、方向や規模から同一の溝跡と考えられる。方向はN-79°-Wで、検出長19.84m、幅1.02～1.36m、深さ36cmである。断面形はU字状である。堆積土は4層に分層される。遺物は堆積土から土師器片、須恵器片が出土している。

SD4溝跡（第1・3図）E50～60・S410グリッドで検出した。東西方向に延びる溝跡で、西側の調査区外へ延びる。SK7と重複関係にあり、本遺構が古い。また、東側は位置的にSD5との重複関係が考えられるが攪乱により削平されているため不明である。方向はN-81°-Eで、検出長10.56m、幅44～61cm、深さ23cmである。断面形はU字状である。遺物は出土していない。



第1図 伊古田B遺跡4A1区川層遺構配置図

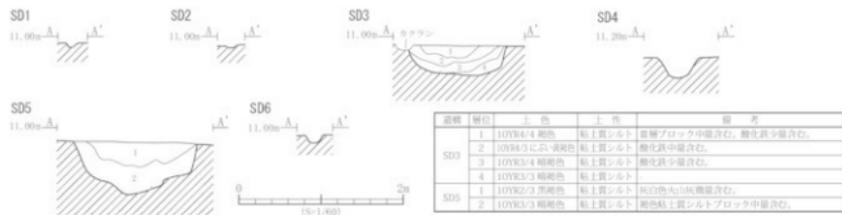
第5節 伊古田B遺跡4A1区



第2図 SK7土坑平面図・断面図

SD5溝跡(第1・3・4図、図版8) E50~60・S400~420グリッドで検出した。北東から南西方向に伸びる溝跡で、南側の調査区外へ延びる。SD3と重複関係にあり、本遺構が新しい。また、北東側は攪乱により削平されている。方向はN-16°-Eで、検出長19.75m、幅1.13~1.74m、深さ63cmである。断面形は船底形である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から土師器片、須恵器片が出土しており、そのうち1層から出土した須恵器を第4図2に図示した。坏である。口縁部~体部上半は欠損している。外面の体部下端~底部に手持ちヘラケズリ調整が施され、底部切り離し技法は不明である。

SD6溝跡(第1・3図) E50・S400グリッドで検出した。北西-南東方向に伸びる溝跡で、SD1と重複関係にあり、本遺構が新しい。また、東側の一部を攪乱により削平されている。方向はN-76°-Wで、検出長5.12m、幅8~13cm、深さ9cmである。断面形はU字状である。遺物は出土していない。



第3図 SD1~6溝跡断面図



%	伊古田B	区	遺構・グリッド	層位	種別	器種	文様等	備考	写真掲載		
1	P-1	4A1	SD1	1	土製品	土師	紐部・つまみ出し成形・有孔	跡部、ナデ 口内ヘラケズリ	(53) × 56 × 5mm 26.7g	8-1	
%	伊古田B	区	遺構・グリッド	層位	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真掲載
2	E-1	4A1	SD5	1	須恵器	坏	×・×周2.1	口クロナデ・手持ちヘラケズリ	口クロナデ	底部切り離し不明。	8-2

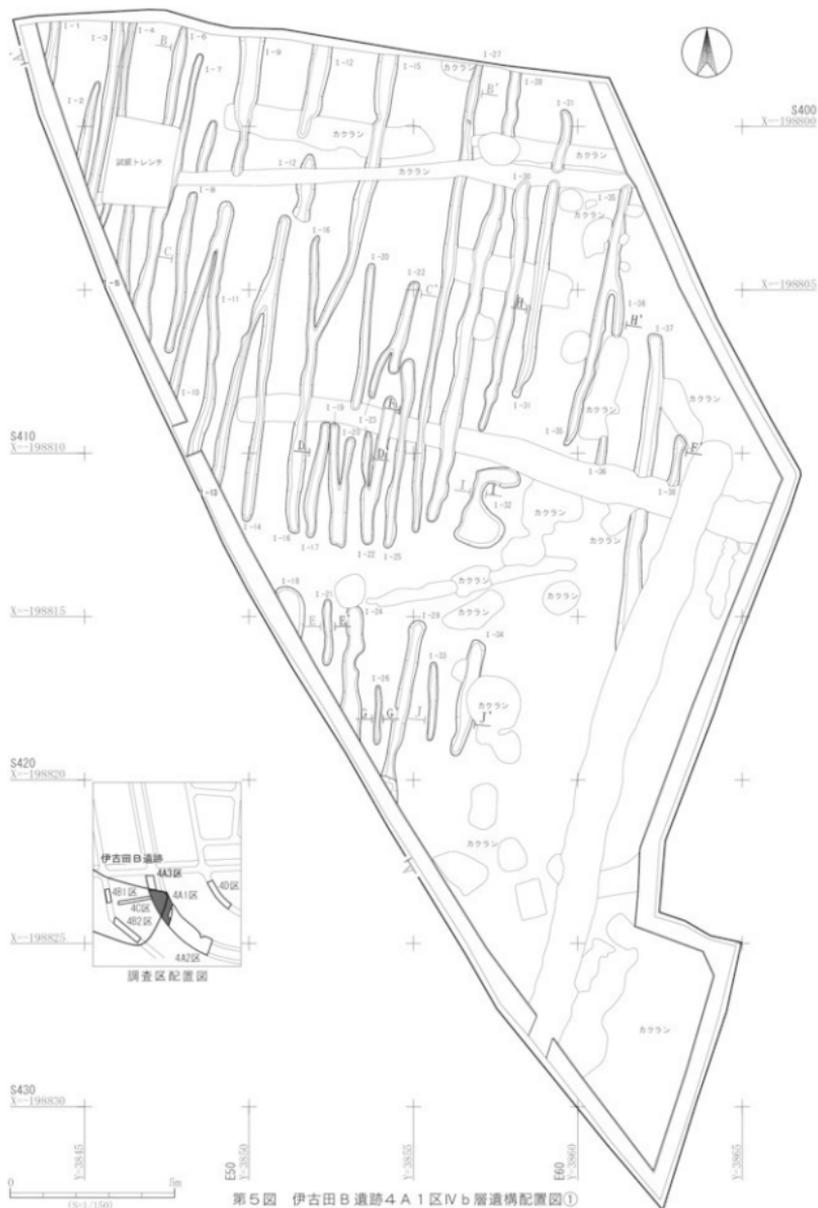
第4図 SD1・5溝跡出土遺物

(2) IV b層検出の遺構(第5・6図、図版1・2)

1) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群で、1群を検出した。

I群(第5・7図、図版1) E40~60・S390~420グリッドで検出した北東から南西方向の遺構群で、38条の小溝で構成される。水田跡と重複関係にあり、本遺構群が新しい。なお、水田跡よりも新しいことから、本来はIV a層上面から掘り込まれた遺構群の可能性が有る。I-10・11、I-13・14、I-15・16、I-19・20、I-22・23、



I-35・36は、それぞれ溝の一部が接続し「Y」字状となっている。堆積土が同一であるため重複関係は不明であるが、本群が2群に分かれる可能性が考えられる。方向はN-73°-88°-Wで、検出長1.57～14.50m、幅12cm～1.35m、深さ5～38cmである。接続している箇所を除いた小溝の間隔は、7cm～2.24mである。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

2) 水田跡

水田跡(第6・8図、図版2・3) E40～60・S400～420グリッドで畦畔3条、段差1箇所、水田区画5面を検出した。小溝状遺構群と重複関係にあり、本遺構が古い。耕作土は基本層IVb層である。段差№1は、畦畔の可能性も考えられるが、北側に対応する段差が検出されなかった。北西-南東方向に伸び、北西および南東端は攪乱や重複遺構、試掘トレンチにより検出されなかった。方向はN-70°-Wで、検出長13.28m、高さ3～9cmである。

畦畔№2は、段差№1の10m南に位置する。北西-南東方向へ伸び、段差№1とほぼ並行する。東端は畦畔№3と接続し、西側の調査区外へ伸びる。方向はN-78°-Wで、検出長9.33m、幅1.25～3.15m、高さ10～18cmである。断面形は台形である。位置や規模から大畦畔と考えられる。

畦畔№3は、南北方向にやや蛇行しながら南側の調査区外へ伸びる。北端部は段差№1、中央部は畦畔№2と「T」字状に接続する。南端部は緩やかに南西方向へ弯曲しており、東西方向の畦畔へと連続する可能性も考えられる。方向はN-10°-15°-Eで、検出長16.05m、幅58cm～1.55m、高さ11～26cmである。断面形は台形である。位置や規模から畦畔№2と同様に大畦畔と考えられる。

畦畔№4は、段差№1と「T」字状に接続して北東-南西方向に伸び、畦畔の南側は途切れている。方向はN-23°-Eで、検出長3.27m、幅58～73cm、高さ2～8cmである。断面形は台形である。位置や規模から小畦畔と考えられる。

これらの段差と畦畔で構成される水田区画は、5区画を検出した。いずれの区画も全体の形状は不明である。田面はいずれも凹凸がみられ、北から南へと傾斜している。耕作土の厚さは、区画①が4～21cm、区画②が2～28cm、区画③が3～32cmである。区画④・⑤は不明である。検出した水田面の標高は10.54～10.81mであり、各区画における水田面の高低差は、区画①が11cm、区画②が13cm、区画③が11cmである。遺物は、田面堆積土から弥生土器片、土師器片が出土している。本水田跡の時期は、上層の基本層III層に十和田a火山灰(915年の降灰)と考えられる灰白色火山灰を含むこと、本遺跡4A2区IVc層で検出したSI74 竪穴住居跡の時期は8世紀前半～中頃と考えられることから、8世紀後半～9世紀代と考えられる。

なお、第9図に示したように調査区西壁の2地点から土壌サンプルを採集し、プラント・オパール分析を実施した。分析結果については本節8に掲載している。

(3) IVc層検出の遺構(第9図、図版2)

1) 水田跡

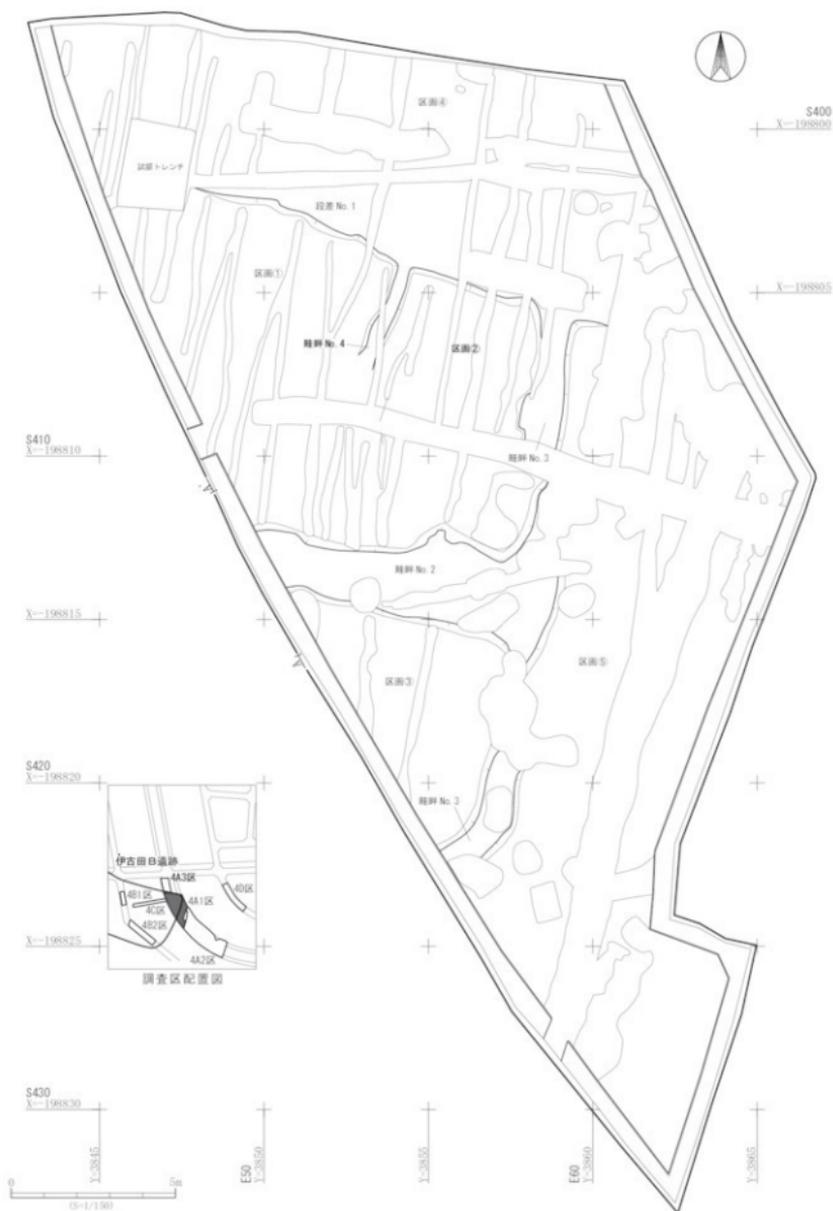
水田跡(第7・9図、図版2・3) E40～70・S400～430グリッドで畦畔2条、段差1箇所を検出した。検出状況から疑似畦畔Bと考えられる。

疑似畦畔B№1は、東西方向に直線的に伸び、西側の調査区外へ伸びる。東側は途中で途切れている。方向はN-83°-Wで、検出長16.90m、幅1.23～1.73m、高さ1～8cmである。断面形は台形である。

疑似畦畔B№2は、疑似畦畔B№1の約13m南に位置する。IVb層水田跡畦畔№2に対応する疑似畦畔で、東西方向に直線的に伸び、疑似畦畔B№1と並行する。東側では段差№3と南側が接続し、西側の調査区外へ伸びる。方向はN-76°-Wで、検出長9.25m、幅2.09～2.31m、高さ2～8cmである。断面形は台形である。

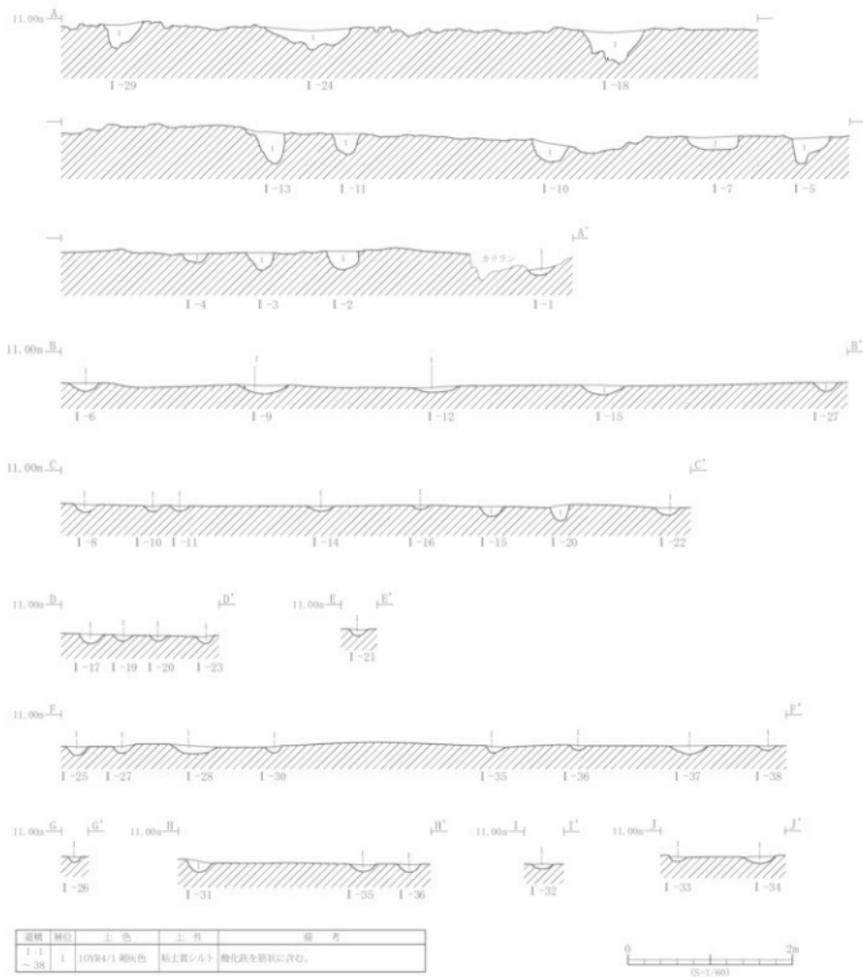
段差№3は、南北方向に伸び、南部は西側へ大きく弯曲し調査区外へ伸びる。IVb層水田跡畦畔№3に対応する疑似畦畔の一部と考えられるが、東側に対応する段差は検出されなかった。方向はN-15°-Eで、検出長7.50m、高さ4～9cmである。

なお、IVb層の調査において疑似畦畔B№1が検出された部分からは畦畔が検出されなかったが、本来はこの位置に畦畔が存在したと推定される。

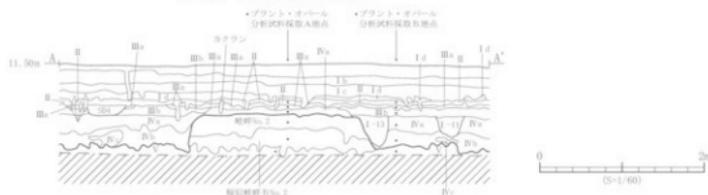


第6図 伊古田B遺跡4A1区IVb層遺構配置図②

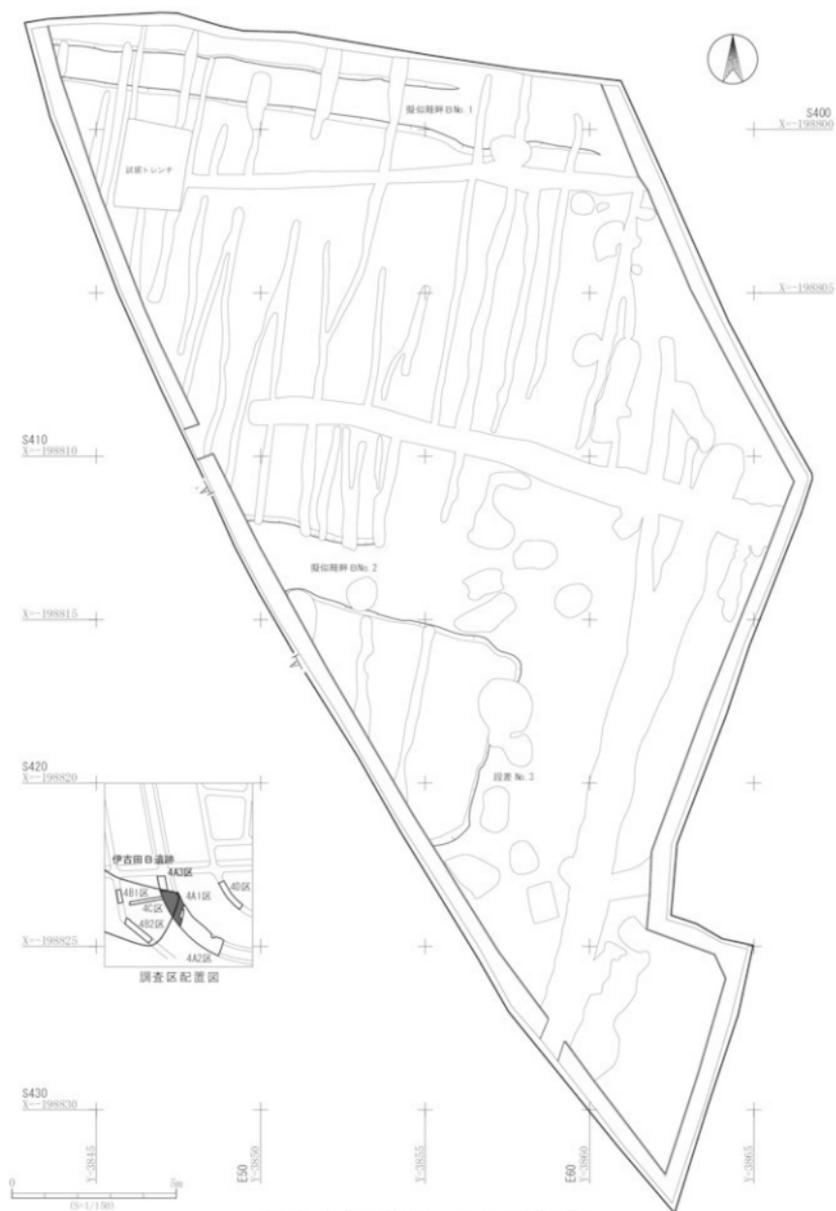
第5節 伊古田B遺跡4A1区



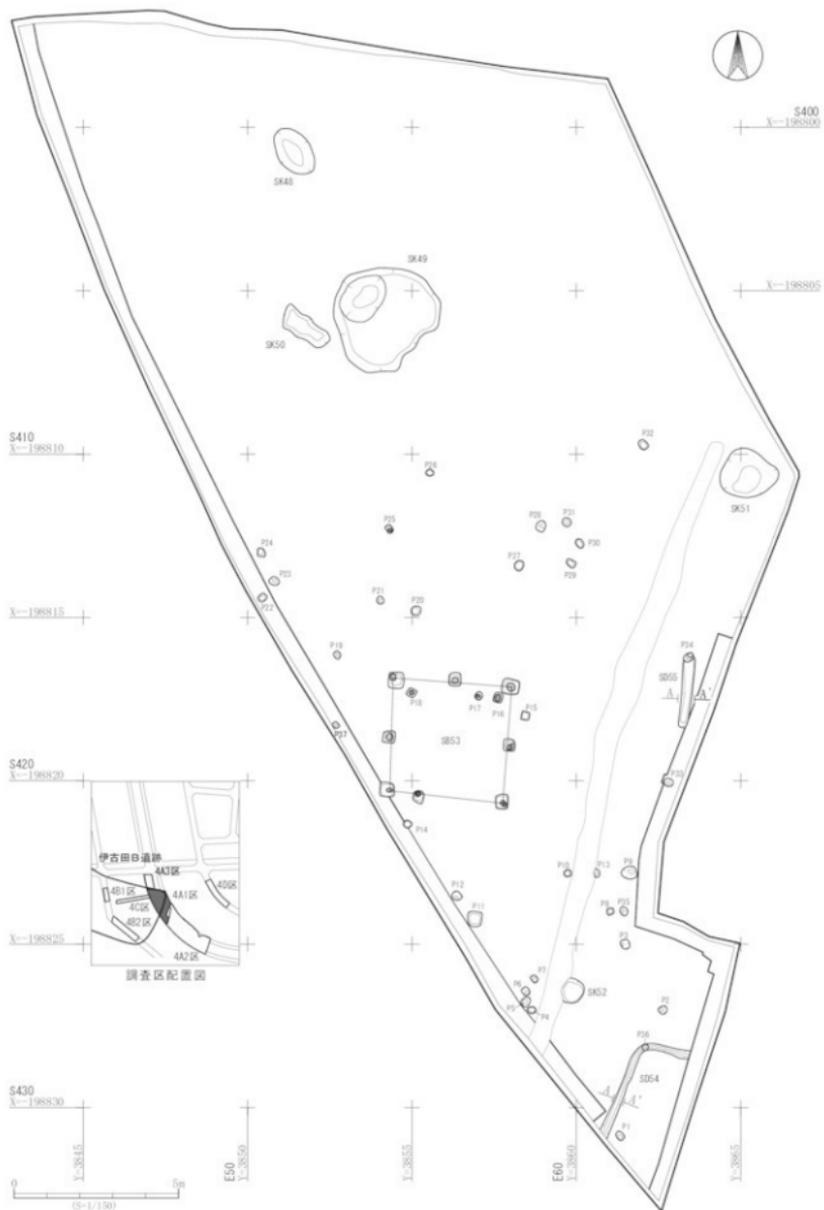
第7図 小溝状遺構群断面図



第8図 IV b層水田跡断面図



第9図 伊古田B遺跡4A1区IVc層遺構配置図

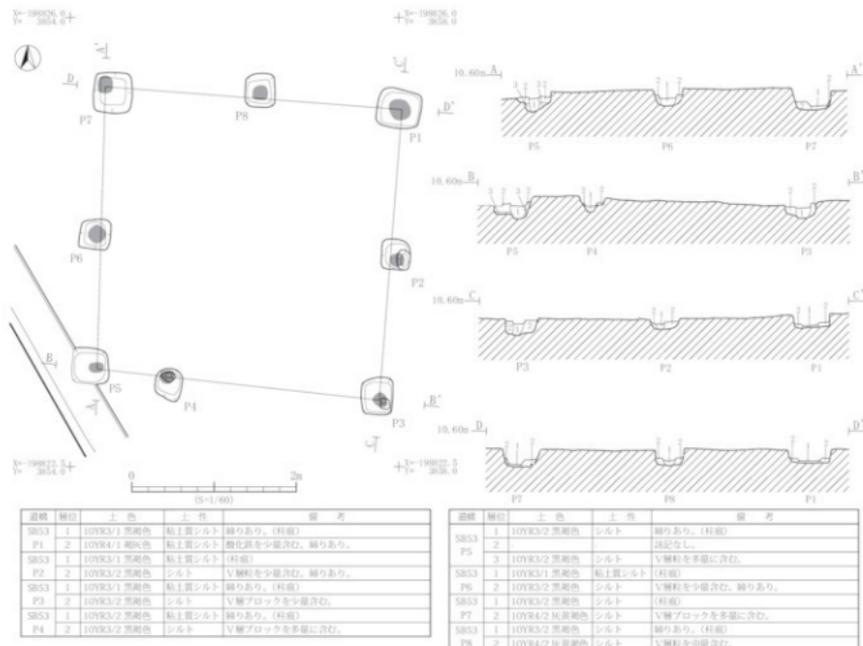


第10図 伊古田B遺跡4A1区V層遺構配置図

(4) V層検出の遺構(第10図)

1) 掘立柱建物跡

SB53 掘立柱建物跡(第11図、図版3) E50・S410～420グリッドで検出した。規模は東西2間(北列西から1.88m+1.70m、総長3.58m、南列西から84cm+2.60m、総長3.44m)、南北2間(東列北から1.84m+1.72m、総長3.72m、西列北から1.82m+1.64m、総長3.46m)の側柱建物である。平面形は方形で、方向はN-5°・Eである。柱穴掘り方の規模は、一辺35～50cmの方形を基調とし、検出面からの深さは13～26cmである。すべての柱穴で径16～24cmの柱痕跡を検出した。遺物は出土していない。



第11図 SB53 掘立柱建物跡平面図・断面図

2) 土坑

SK48 土坑(第13図、図版3) E50・S400グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN-39°・Wである。規模は長軸1.61m、短軸1.04m、深さ23cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は皿状で、底面は丸みを持つ。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

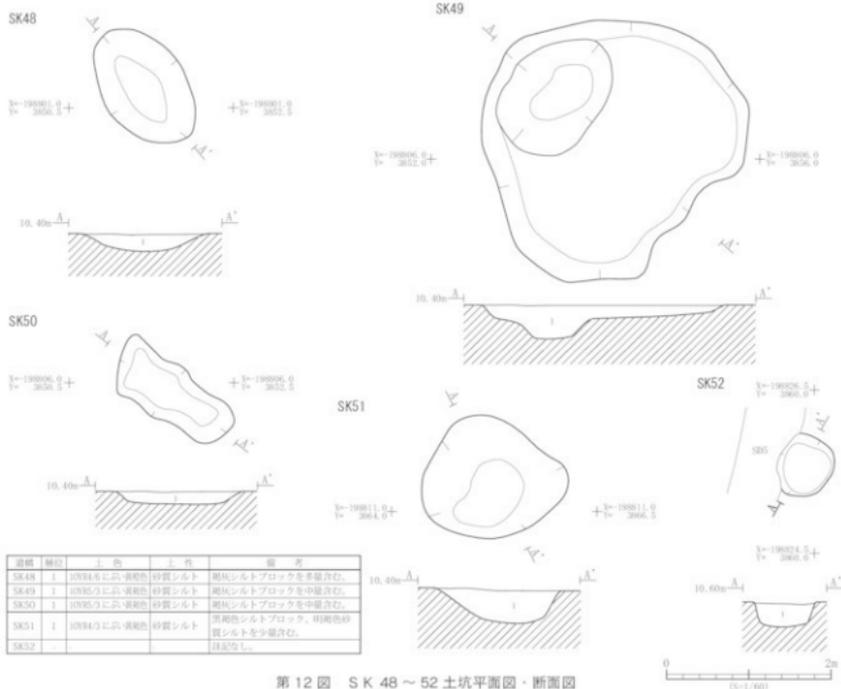
SK49 土坑(第13図、図版3) E50・S400グリッドで検出した。平面形は不整形で、長軸方向は不明である。規模は東西3.25m、南北3.16m、深さ41cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は柄杓形、底面は北西側に長軸1.59m、短軸1.15m、深さ25cmのビット状の落ち込みがある。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK50 土坑(第13図、図版4) E50・S400グリッドで検出した。平面形は不整形の長方形で、長軸方向はN-56°・Wである。規模は長軸1.63m、短軸70cm、深さ15cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK51 土坑(第13図、図版4) E60・S400～410グリッドで検出した。平面形は不整形の長方形で、長軸方向はN-81°・Eである。規模は長軸1.78m、短軸1.52m、深さ40cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は

概ね平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK52土坑(第13図) E50・60・S420グリッドで検出した。西側はⅢ層SD5により削平されているが、平面形は円形と考えられ、長軸方向はN-32°-Eである。検出した規模は長軸77cm、短軸65cm、深さ33cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。



第12図 SK48～52土坑平面図・断面図

3) 溝跡

SD54溝跡(第10・13図) E60・S420～430グリッドで検出した。東西方向から南西方向に「L」字状に屈曲する溝跡で、東側および南側の調査区外へ延びる。P36と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向はN-78°-W・N-23°-Eで、検出長4.49m、幅29～36cm、深さ6cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD55溝跡(第10・13図) E60・S410グリッドで検出した。南北方向に延びる溝跡である。P34と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-6°-Eで、検出長2.04m、幅29～36cm、深さ10cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。



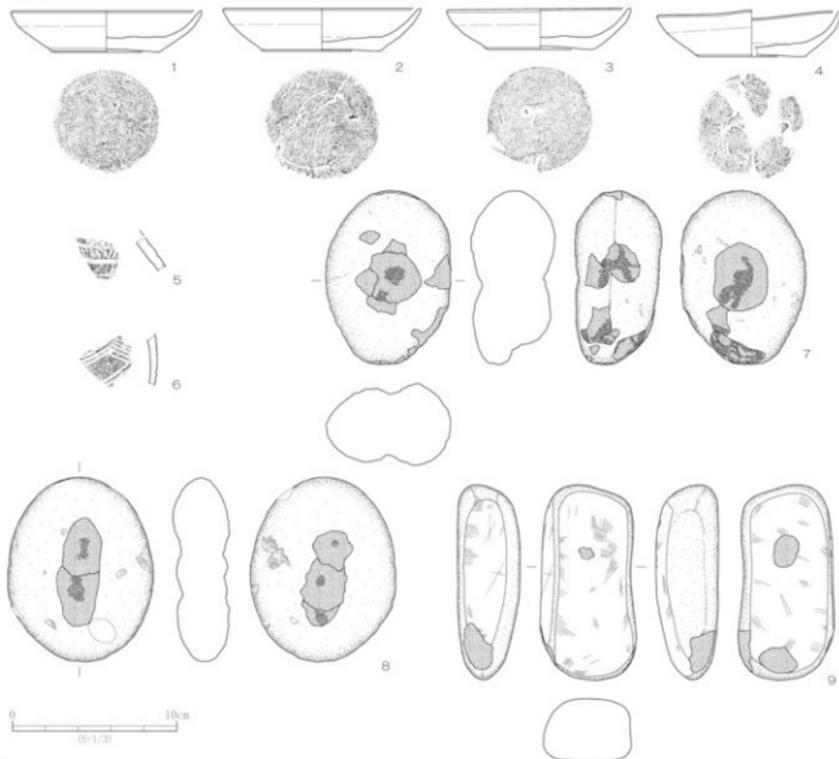
第13図 SD54・55溝跡断面図

4) ビット (第10図)

37基のビット(P1~37)を検出した。遺構配置図のみに表示している。調査区南半分に偏在する。遺物は出土していない。

(5) 遺構外出土遺物 (第14図、図版8)

各基本層から遺物が出土しており、それらのうち、縄文土器2点、土師質土器4点、礫石器3点を第14図に図示した。1~4はI層から出土した土師質土器かわらけである。いずれも法量・器形・底面切り離し技法が共通する。5・6はIVc層から出土した縄文土器壺の胴部片で、同一個体片である。沈線文・刻目が施文される。7はIVa層から出土した礫石器である。楕円礫の表裏面および側面に凹痕と敲打痕が複合してみられる。8・9はIV層から出土した礫石器である。8は扁平な楕円礫の二面の中央に凹痕が、9は表裏面および側面に磨面と敲打痕が複合して観察される。



No.	作録番号	区	層位	遺構・グリッド	種別	器種	寸法×底径×厚さ(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	1-1	4A1	I	-	土師質土器	かわらけ	(11.6) × 6.5 × 2.5	ロクロナデ 底面(軸糸切り)	ロクロナデ		8-3
2	1-2	4A1	I	-	土師質土器	かわらけ	(12.0) × 7.0 × 2.6	ロクロナデ 底面(軸糸切り)	ロクロナデ		8-4
3	1-3	4A1	I	-	土師質土器	かわらけ	11.2 × 6.5 × 2.5	ロクロナデ 底面(軸糸切り)	ロクロナデ		8-5
4	1-4	4A1	I	-	土師質土器	かわらけ	11.2 × 6.5 × 2.3 ~ 2.8	ロクロナデ 底面(軸糸切り)	ロクロナデ		8-6
								文様等			
5	A-1	4A1	IVc	-	縄文土器	壺	胴部	沈線文・刻目	内面・ナデ	内外面磨減, A-2と同。	8-7
6	A-2	4A1	IVc	-	縄文土器	壺	胴部	沈線文(五本一筋?)	内面・ナデ	内外面磨減, A-1と同。	8-8
No.	作録番号	区	層位	遺構・グリッド	種別	器種	石材	長さ×幅×厚さ(mm)	重量(g)	備考	写真図版
7	Kc-2-1	4A1	IVa	-	礫石器	凹・敲	砲山岩	10.6 × 7.6 × 5.2	462.07	凹1-1, 敲5-3, 凹9, 敲2.	8-9
8	Kc-6-1	4A1	IV	-	礫石器	凹	石炭灰山岩	11.35 × 8.9 × 3.6	483.95	凹2-3.	8-10
9	Kc-3-1	4A1	IV	-	礫石器	磨・敲	石炭灰山岩	19.5 × 5.8 × 4.8	434.36	磨1-1, 磨1, 敲磨2+1-1.	8-11

第14図 遺構外出土遺物

3. 4A2区の調査

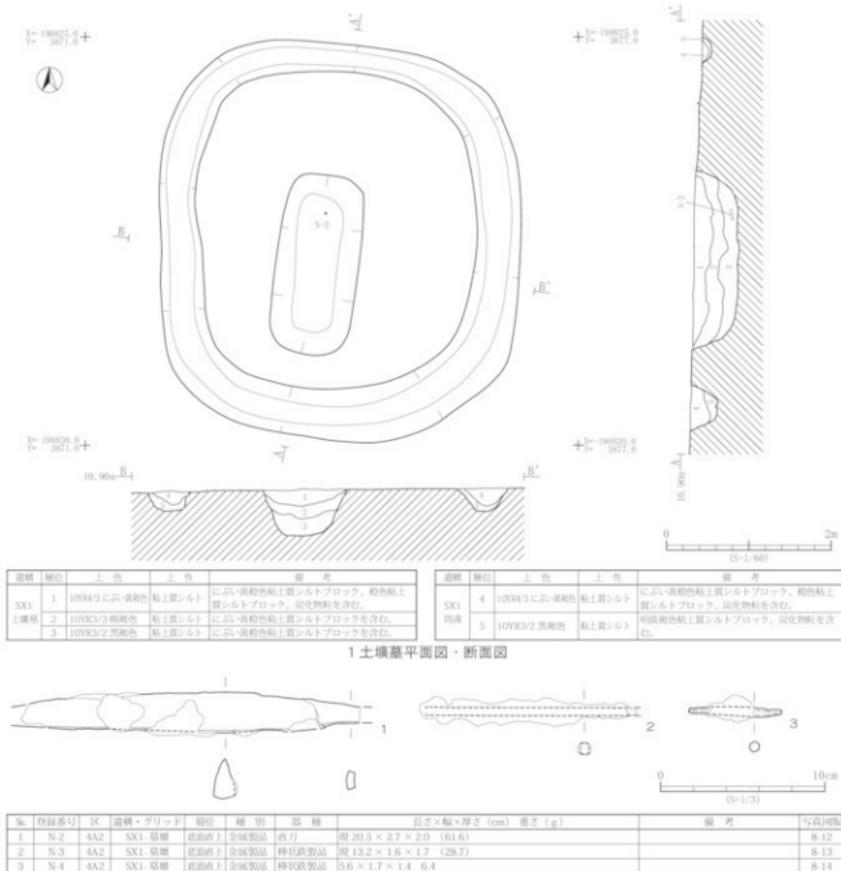
4A2区では、基本層Ⅲa層上面(古代以降の遺構検出面)において、土壌墓1基、土坑1基、溝跡4条、ビット56基を検出した。Ⅲb層上面(古代以降の遺構検出面)において、ビット12基を検出した。Ⅳc層上面(古代の遺構検出面)において、竪穴住居跡1軒、小溝状遺構3群を検出した。Ⅴ層上面(古墳時代～古代の遺構検出面)において、ビット6基を検出した。ビットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ビットについては遺構配置図にのみ表示している。

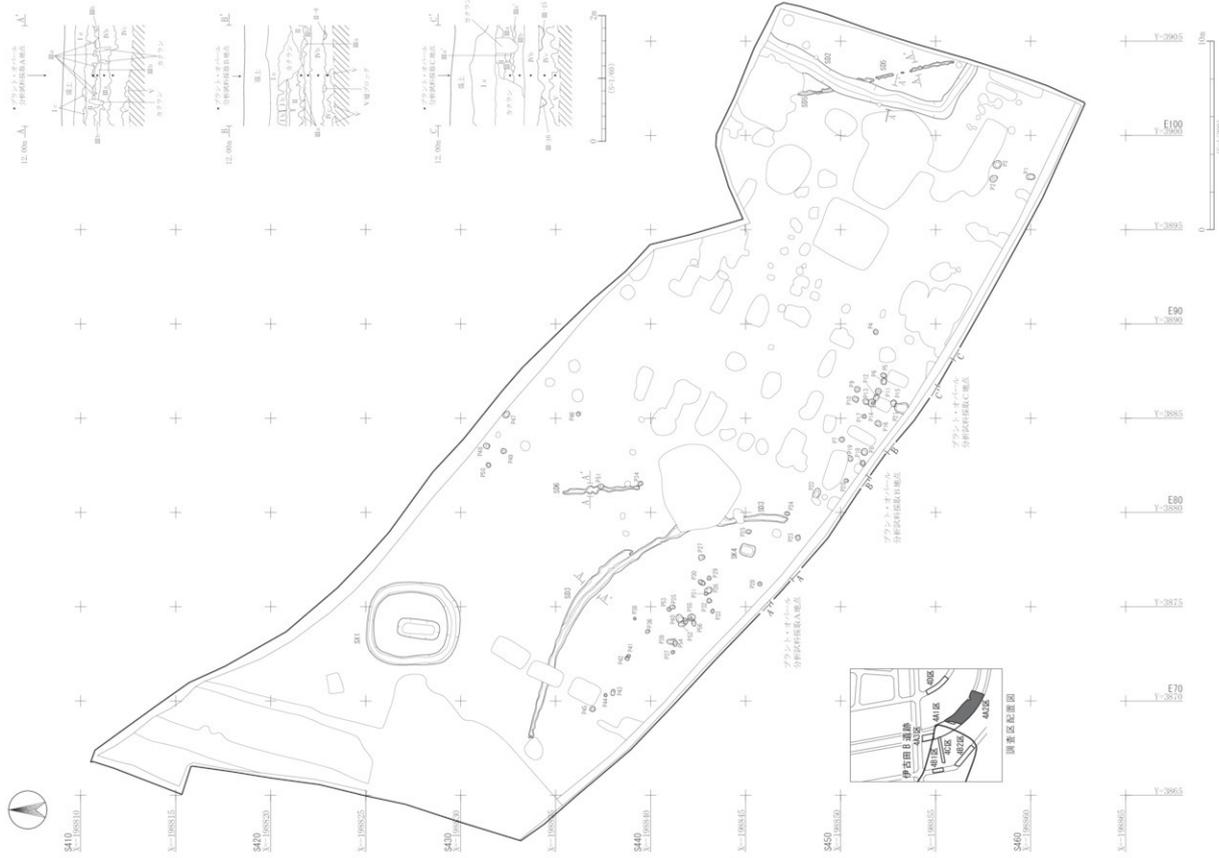
なお、本調査区から水田跡は検出されていないが、4A1区から水田跡が検出されたことから、本調査区でもプラント・オパール分析を実施した。分析結果については、本節8に掲載している。

(1) Ⅲa層検出の遺構と遺物(第17図)

1) 土壌墓

SX1土壌墓(第15・16図、図版4・8) E70・S420グリッドで検出した。周溝を伴う土壌墓である。墓壇を囲む周溝は平面形が隅丸方形で、主軸方位はN-4°-Eである。規模は外縁4.43×4.84m、内縁3.48×3.89m、溝



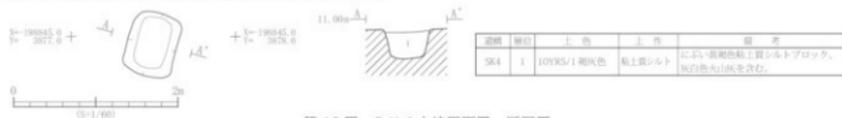


第17図 伊吉田8番地4.2区画a層構造配置図、プラント・オパール分析試料採取地点断面図

幅 50 ~ 74cm、深さ 18 ~ 33cm である。墓壇は周溝内部の中央やや南寄りに位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-8°-E である。規模は長軸 2.21 m、短軸 1.01 m、深さ 56cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦である。堆積土は 3 層に分層される。遺物は墓壇や周溝の堆積土および底面直上から土師片、金属製品が出土している。そのうち、墓壇底面直上から出土した鉄製品 3 点を第 16 図に図示した。1 は直刀、2・3 は棒状の鉄製品である。これら 3 点はいずれも底面北側から出土したものであり、副葬品の可能性が考えられる。

2) 土坑

SK4 土坑 (第 18 図、図版 4) E70・S440 グリッドで検出した。平面形は隅丸長方形で、長軸方向は N-15°-E である。規模は長軸 79cm、短軸 61cm、深さ 36cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。



第 18 図 SK4 土坑平面図・断面図

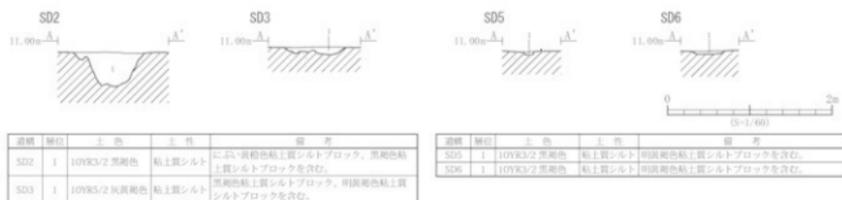
3) 溝跡

SD2 溝跡 (第 17・19 図、図版 5) E100・S440 ~ 450 グリッドで検出した。南北方向から東方向に「L」字形に屈曲する溝跡で、北および東の調査区外へ延びる。SD5 と重複関係にあり、本遺構が新しい。また、北側の一部を掘乱により削平されている。方向は N-20°-E、N-57°-W で、検出長は 12.86 m、幅 0.62 ~ 0.98 m、深さ 40cm である。断面形は概ね逆台形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD3 溝跡 (第 17・19 図) E60 ~ 70・S430 ~ 440 グリッドで検出した。緩やかに湾曲する弧状の溝跡で、東側および西側の一部を掘乱により削平されている。方向は N-3 ~ 72°-W で、長さ 20.21 m、幅 18 ~ 76cm、深さ 13cm である。断面形は概ね逆台形で、北東側にはテラス状となる部分がみられる。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD5 溝跡 (第 17・19 図) E100・S440 ~ 450 グリッドで検出した。南北方向に断続的に延びる溝跡である。SD2 と重複関係にあり、本遺構が古い。また、北側は掘乱により削平されている。方向は N-13°-W で、検出長 8.36 m、幅 10 ~ 23cm、深さ 6cm である。断面形は U 字状である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD6 溝跡 (第 17・19 図) E80・S430 グリッドで検出した。P34・51 と重複関係にあり、本遺構が古い。また、南側の一部を掘乱により削平されている。方向は N-4°-W で、長さ 4.04 m、幅 13 ~ 43cm、深さ 4cm である。断面形は皿状である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。



第 19 図 SD2・3・5・6 溝跡断面図

4) ビット (第 17 図)

56 基のビット (P1 ~ 56) を検出した。調査区中央南側 ~ 南西部に偏った分布がみられる。遺物は P24・37・48・52・54 から土師片が出土している。

(2) III b層検出の遺構と遺物(第20図)

1) ビット(第20図)

12基のビット(P57~68)を検出した。調査区東側に散漫な分布状況を示す。遺物はP68から土師器片が出土している。

(3) IV c層検出の遺構と遺物(第21図)

1) 竪穴住居跡

S174 竪穴住居跡(第22~26図、図版5・6・8・9)

[位置] E60~70・S430 グリッドに位置する。

[重複関係] 小溝状遺構1~III群と重複関係にあり、本遺構が古い。また、南壁の西側を擾乱により削平される。

[規模・形態] 東西5.28m、南北4.81mである。平面形は、隅丸方形である。

[主軸方位] 新カマド基準でN・4°・Wである。

[堆積土・構築土] 24層に分層した。1~3層は住居跡堆積土、4~18層は新カマド関連層位、19~21層は旧カマド関連層位、22~24層は掘り方土である。

[壁面] 床面から急角度で立ち上がり、壁高は南壁で床面から最大27cmである。

[床面] 緩やかな起伏がみられる。掘り方土上面および一部IV c層上面を床面としている。

[柱穴] 床面にビットを13基(P1~13)検出した。配置・規模からP4~7は主柱穴と考えられ、P7では長軸12cm×短軸16cmの柱痕跡が検出された。

[周溝] 東西壁の南端部および南壁を除き、断続的に巡る。断面形はU字形で、規模は幅11~21cm、深さ4~9cmである。後述するカマドの造り替えに伴い設けられたものと考えられる。

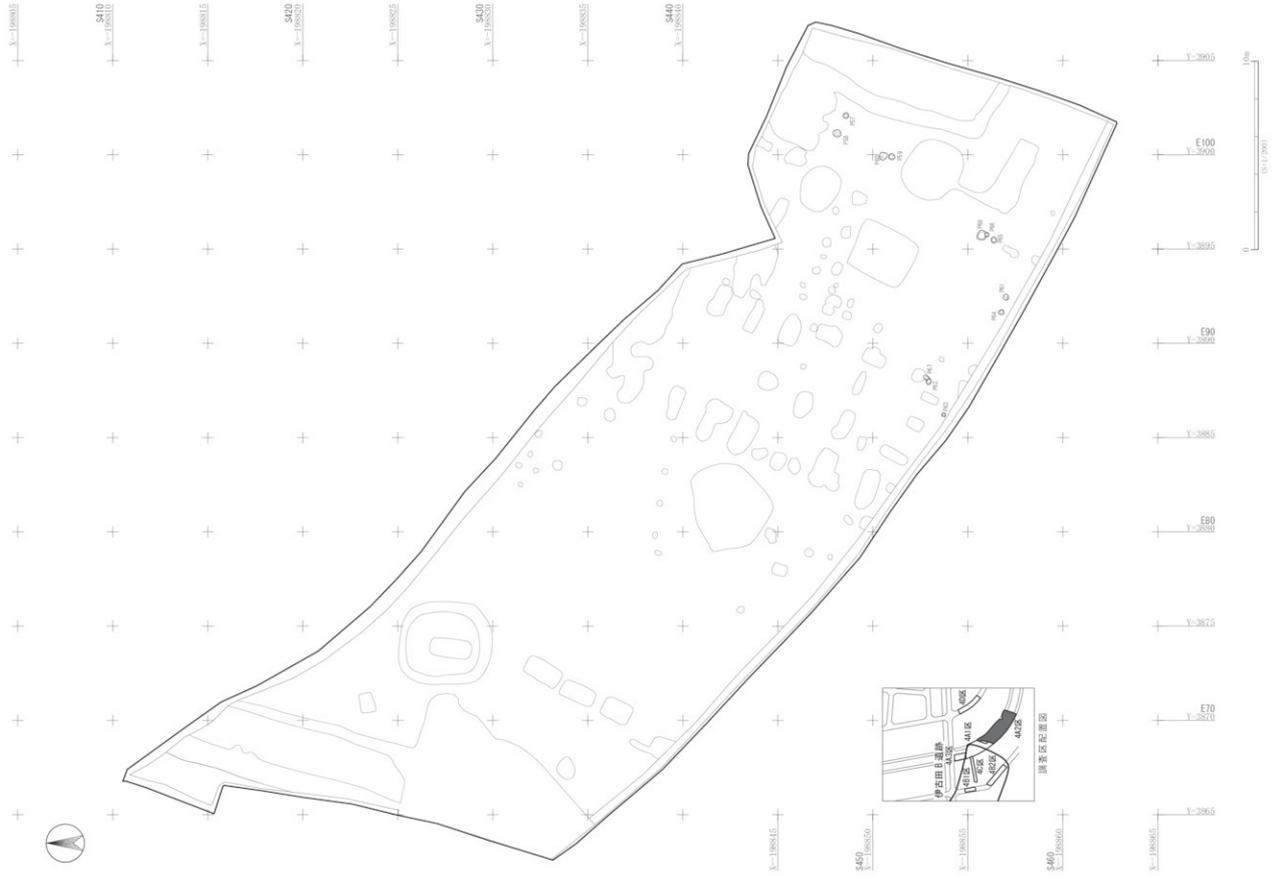
[カマド] 造り替えが行われている。新カマドは東壁に位置し、壁の中央南寄りに付設されている。袖の規模は、北袖は長さ84cm、幅21~47cm、床面からの高さ18cm、南袖は長さ78cm、幅21~42cm、床面からの高さ15cmである。燃焼部の規模は、奥行き59cm、幅58cmである。煙道部の規模は、長さ1.50m、幅9~39cm、深さ27~46cmである。下端が直線的に延びるのに対し、上端がやや蛇行して煙出し部手前で窄まる。底面は煙出し部に向かって緩やかに傾斜する。煙出し部の規模は長軸57cm、短軸37cm、深さ49cmである。底面の南側に長軸26cm、短軸20cm、深さ16cmのビット状の落ち込みが検出された。

旧カマドは北壁に位置し、壁のほぼ中央に付設されている。煙道部のみを検出した。規模は、長さ1.75m、幅29~77cm、深さ11~47cmである。煙出し部へとほぼ直線的に延び、底面は煙出し部に向かって緩やかに傾斜する。煙出し部はビット状に落ち込み、規模は径35cm、煙出し部底面からの高さ11cmである。

[その他の施設] 北東隅に位置するP2は、旧カマドに伴う貯蔵穴の可能性が考えられる。平面形は隅丸長方形と推定され、規模は長軸86cm、短軸61cm、深さ33cmである。南東隅に位置するP3・8は、新カマドに伴う貯蔵穴の可能性が考えられる。P3は平面形が不整形長方形で、規模は長軸86cm、短軸68cm、深さ20cmである。P8は新カマド南袖に隣接する。平面形が楕円形で、住居壁面から袋状に掘り込まれている。規模は長軸61cm、短軸41cm、深さ15cm、壁からの奥行き20cmである。また、北壁際と南壁際からは不整形に広がる被熱範囲が検出された。北側は東西2.13m、南北1.24m、南側は東西1.49m、南北1.38mである。

[掘り方] 深さ5~16cmである。底面には起伏がみられる。

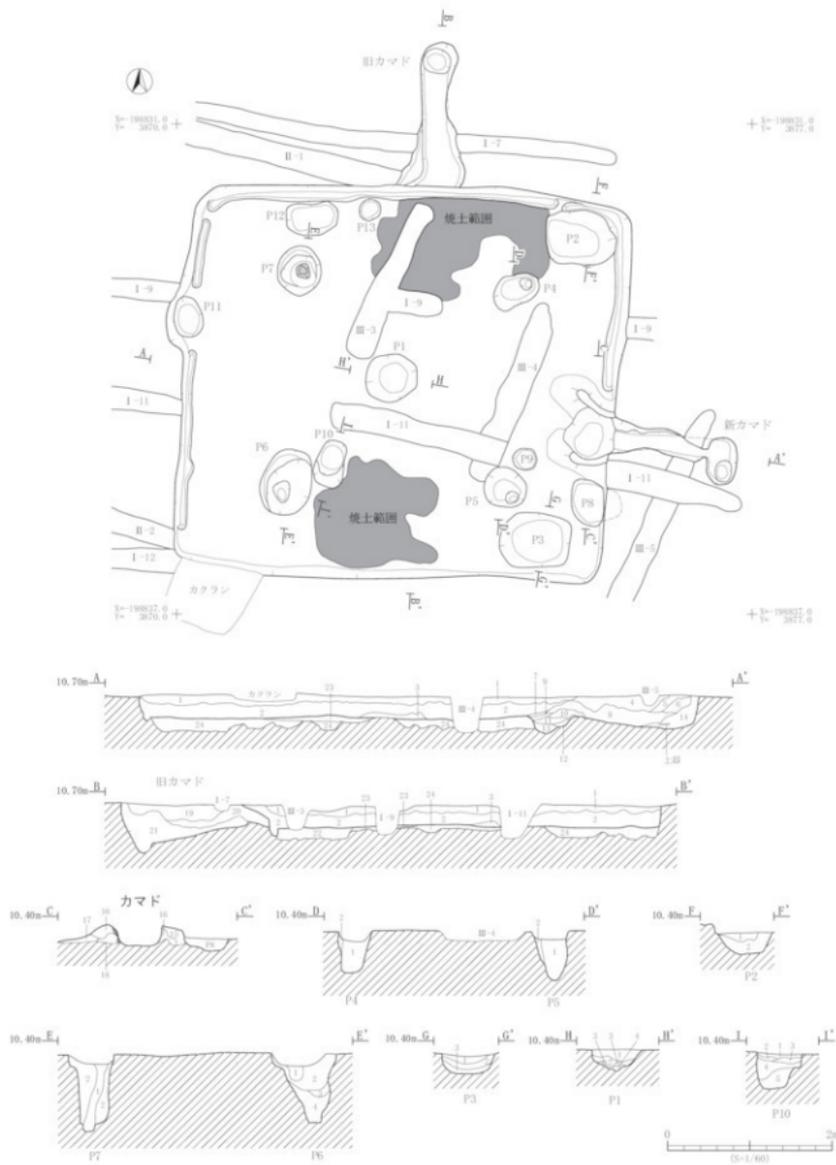
[出土遺物] 堆積土や床面、掘り方から多くの土師器、須恵器等が出土しており、そのうち土師器9点、須恵器7点、金属製品1点を第23~26図に図示した。第23・24図は土師器である。第23図1~3は坏で、いずれも黒色処理されていない。器形は1・2が共に内湾する体部から短く外傾する口縁部へいたり、口径も同一である。3は平底で大きく外傾する体部へと立ち上がる。4は口縁部と体部上端に最大径を持つ鉢である。第23図5、第24図1~4は甕である。最大径は第24図4が胴部中央、その他は口縁部に位置する。第24図1・2は口縁部と胴部の境に段を持つ。第25図1は鉄製の紡錘車である。第25図2~7、第26図は須恵器である。第25図2・3は坏で、共に体部が直線的に外傾する。2は外面の体部下端~底部に回転ヘラケズリが施される。第25図4~7、第26図は甕である。4・5は共に口縁部片で、口唇部はほぼ真横を向き、中央がわずかに凹む。第25図6・7、第26図



第 20 図 伊古田B 区第 4-2 区(Ⅱ)B 地区標高配置図



第21回 伊右田Bビル4F区IVc階構造配置図



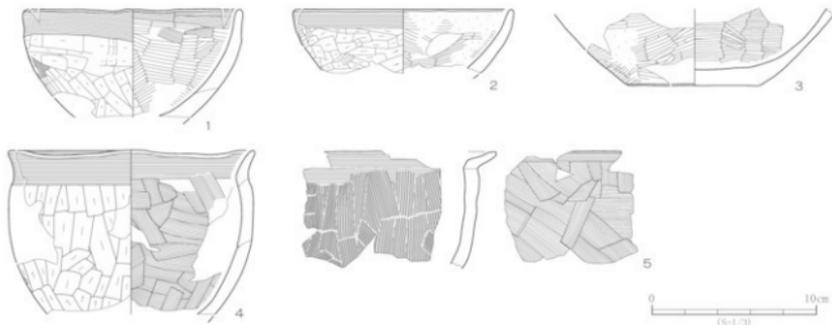
第22図 S174 竪穴住居跡平面図・断面図

第5節 伊古田B遺跡4A2区

S174土層記表

遺構	層位	土色	土性	備考
S174	1	10YR4/2-3	黄褐色粘土質シルト	中に黄褐色シルト粒、炭化物粒を含む。
	2	10YR3/4	黄褐色粘土質シルト	焼土粒、炭化物を含む。
	3	10YR3/4	黄褐色粘土質シルト	褐色砂質シルトブロック、炭化物粒を含む。
	4	10YR4/4	褐色粘土	下部は赤褐色に変色。
	5	10YR4/2-3	黄褐色粘土	黄褐色焼土ブロックを含む。
	6	10YR4/2-3	黄褐色粘土	黄褐色焼土ブロックを含む。
	7	10YR3/4	黄褐色粘土質シルト	褐色土ブロック、焼土粒を含む。
	8	10YR3/4	黄褐色粘土質シルト	焼土ブロック、炭化物粒を含む。
	9	10YR3/3	黄褐色粘土	焼土粒、炭化物粒を含む。
	10	10YR3/4	黄褐色粘土質シルト	焼土ブロック、炭化物粒を含む。
	11	10YR3/2-3	黄褐色粘土	中に黄褐色粘土、焼土粒、炭化物粒を含む。
	12	10YR4/2-3	黄褐色粘土	焼土粒、炭化物粒を含む。
	13	10YR4/4	褐色粘土	中に黄褐色焼土ブロックを含む。
	14	10YR4/2-3	黄褐色粘土	黄褐色焼土ブロックを含む。
	15	10YR3/4	黄褐色粘土質シルト	焼土粒、炭化物粒を含む。
	16	10YR3/4	黄褐色粘土質シルト	褐色砂質シルトブロック、炭化物粒を含む。
	17	10YR4/4	褐色粘土	下部は赤褐色に変色。
	18	10YR4/2-3	黄褐色粘土	黄褐色焼土ブロックを含む。
	19	10YR3/3	黄褐色粘土	黄褐色焼土ブロックを含む。
	20	10YR3/3	黄褐色粘土	黄褐色焼土ブロック、炭化物粒を含む。
21	10YR3/3	黄褐色粘土	黄褐色焼土ブロック、炭化物粒を含む。	
22	10YR4/2-3	黄褐色粘土	褐色粘土ブロック、焼土粒、炭化物粒を含む。	
23	10YR4/2-3	黄褐色粘土	褐色粘土ブロック、炭化物粒を含む。	
24	10YR4/2-3	黄褐色粘土	褐色粘土ブロック、炭化物粒を含む。	
S174	P1	10YR3/4	黄褐色粘土	焼土粒、炭化物粒を含む。
	P2	10YR3/2	黄褐色粘土	炭化物粒を含む。
S174	3			炭化物粒。
	P1	10YR4/4	褐色粘土	炭化物粒を含む。

遺構	層位	土色	土性	備考
S174	1	10YR3/4	黄褐色粘土	焼土粒、炭化物粒を含む。
	P2	10YR4/4	褐色粘土	中に黄褐色砂質シルトブロック、炭化物粒を含む。
P3	1	10YR3/4	黄褐色粘土	焼土粒、炭化物粒を含む。
	2	10YR3/4	黄褐色粘土	焼土粒、炭化物粒を含む。
S174	3	10YR4/2-3	黄褐色粘土	褐色粘土ブロック、炭化物粒を含む。
	4	10YR3/4	黄褐色粘土	焼土粒、炭化物粒を含む。
S174	P4	10YR3/4	黄褐色粘土	黄褐色砂質シルトブロックを含む。
	5	10YR3/4	黄褐色粘土	焼土粒、炭化物粒を含む。
P5	1	10YR4/4	褐色粘土	中に黄褐色粘土ブロックを含む。
	2	10YR4/4	褐色粘土	焼土粒、炭化物粒を含む。
S174	3	10YR3/3	黄褐色粘土	褐色砂質シルトブロックを含む。
	4	10YR4/4	褐色粘土	褐色粘土ブロックを含む。
P7	1	10YR3/4	黄褐色粘土	褐色粘土ブロックを含む。
	2	10YR4/4	褐色粘土	褐色粘土ブロックを含む。
S174	P8	10YR3/4	黄褐色粘土	焼土粒、炭化物粒を含む。
	P9	-	-	確認なし。
P10	1	10YR3/4	黄褐色粘土	焼土粒、炭化物粒を含む。
	2	10YR4/2-3	黄褐色粘土	黄褐色粘土ブロックを含む。
S174	3	10YR3/4	黄褐色粘土	焼土粒、炭化物粒を含む。
	4	10YR3/4	黄褐色粘土	焼土粒を含む。
P11	5	10YR3/4	黄褐色粘土	焼土ブロック、炭化物粒を含む。



第23図 S174 竪穴住居跡出土遺物(1)

は外面にタタキ目、内面に当て具痕が観察される胴部片である。出土土器の特徴から、本住居跡の年代は8世紀前半〜中頃と考えられる。

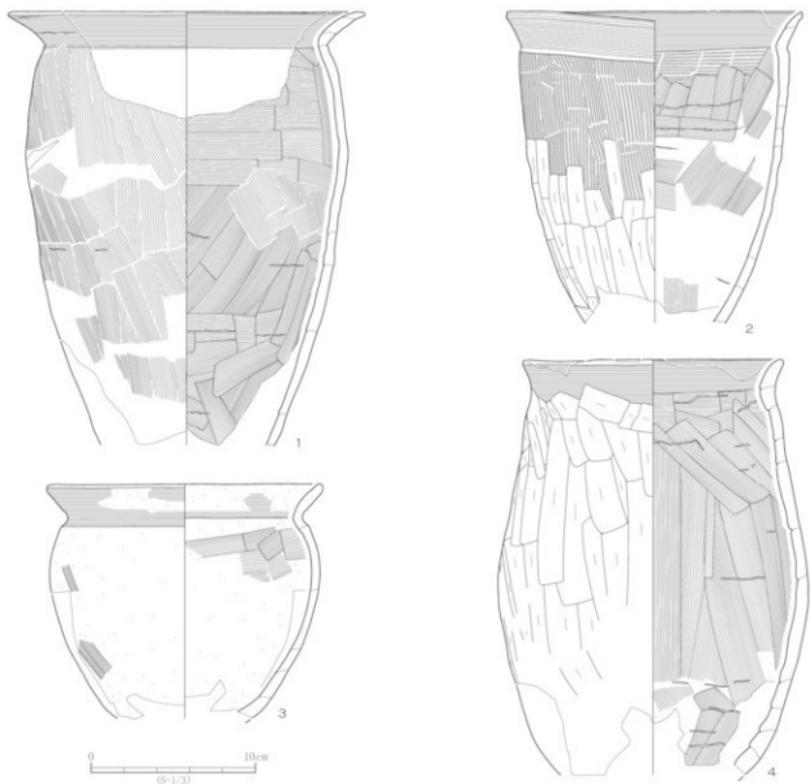
2) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群で、方向と重複関係からⅠ〜Ⅲ群に分けられる。また、重複関係からⅢ群→Ⅱ群→Ⅰ群の変遷がたどれる。

Ⅰ群(第21・27図) E60〜90・S420〜440グリッドで検出した北西から南東方向の遺構群で、17条の小溝で構成される。一部重複しており、掘り直しとみられる。方向はN-73〜88°-Wで、検出長16cm〜20.23m、幅13〜52cm、深さ3〜18cmである。小溝の間隔は、0〜2.60mである。堆積土は単層である。遺物は1・9・11・12・14・16から土師器片が出土している。

Ⅱ群(第21・27図) E60〜90・S430〜440グリッドで検出した北西から南東方向の遺構群で、8条の小溝で

施	作	区	遺構・グリッド	層位	種別	器種	口径×底径×高さ(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真図録
1	C-3	4A2	S174	床面	土師器	杯	(13.4) × × 腹6.6	ヨコナデ・ハクメ・ハラケズリ	ハラナデ・ハラミガキ	境の可能性あり。	8-15
2	C-1	4A2	S174	1	土師器	杯	(13.4) × × 腹3.9	ヨコナデ・ハラケズリ・ハラミガキ	ハラミガキ		8-16
3	C-2	4A2	S174	1	土師器	杯	× (8.0) × 腹4.7	ハラミガキ	ハラミガキ		8-17
4	C-4	4A2	S174	1	土師器	杯	(15.0) × × 腹10.0	ヨコナデ・ハラケズリ	ヨコナデ・ハラナデ		8-18
5	C-5	4A2	S174	1	土師器	盃	× × 腹7.1	ヨコナデ・ハクメ	ヨコナデ・ハラナデ		8-19



№	伊組番号	区	遺構・グリッド	層位	種別	部種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真回数
1	C-6	4A2	SF74	-	土師器	甕	(21.8) × × 周 26.5	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ヘラナデ・ナデ		8-20
2	C-7	4A2	SF74 P9	-	土師器	甕	17.5 ~ (18.0) × × 周 19.1	ヨコナデ・ハケメ・ヘラナデ	ヨコナデ・ハケメ・ヘラナデ	内外面焼熱	9-1
3	C-8	4A2	SF74	床敷	土師器	甕	(15.8) × × 周 25.4	ヨコナデ・ヘラナデ	ヨコナデ・ヘラナデ	内外面焼熱	9-2
4	C-9	4A2	SF74 P10	-	土師器	甕	16.8 × × 周 14.3	ヨコナデ・ヘラナデ	ヨコナデ・ヘラナデ	内外面焼熱	9-3

第24図 S174 竪穴住居跡出土遺物(2)

構成される。方向はN-65°~74°-Wで、検出長2.06~13.85m、幅20~60cm、深さ7~17cmである。小溝の間隔は、71cm~2.35mである。堆積土は単層である。遺物はⅡ-3・5~7から縄文土器片、打製石器(微細刺離痕のある剥片)、土師器片が出土している。

Ⅲ群(第21・27図) E60~110・S420~460グリッドで検出した北東から南西方向の遺構群で、24条の小溝で構成される。方向はN-12~31°-Wで、検出長2.55~18.08m、幅13~47cm、深さ8~30cmである。小溝の間隔は、3cm~3.75mである。堆積土は単層である。遺物はⅢ-5~7・17・19・24から縄文土器片、土師器片が出土している。

(4) V層検出の遺構(第28図)

1) ビット(第28図)

6基のビット(P69~74)を検出した。調査区東側に偏在する。遺物は出土していない。